年　　報

平成29年度

TOTTORI UNIV.　SHIMANE UNIV.　YAMAGUCHI UNIV.

平成30年12月

鳥取大学大学院連合農学研究科

目　　次

第１部　教育活動

第１章　学生定員と受入状況

１　学生の在籍状況（全体）…… １

２　外国人留学生在籍状況…… １

３　社会人学生在籍状況…… １

４　学生名簿…… ２

第２章　学生の研究活動（公表論文等）

１　生物生産科学専攻 …… ５

２　生物環境科学専攻…… ９

３　生物資源科学専攻……１３

４　国際乾燥地科学専攻……１９

第３章　学位授与者

１　入学者に対する在学３年間での学位授与者数及び学位取得率 ……２９

２　課程修了者……３０

３　論文提出者……３１

第４章　就職状況（学位取得者の就職先）

１　課程修了者……３２

２　論文提出者……３２

第５章　共通セミナー（日程表）

１　平成２９(２０１７)年度前期連合一般ゼミナール（日本語）日程表 …３３

２　平成２９(２０１７)年度後期連合一般ゼミナール（英語）日程表 ……３４

３　平成２９年度各専攻特論開講表……３５

４　平成２９年度「科学コミュニケーション」日程表……３６

第２部　教員の研究活動

第１章　公表論文

１　生物生産科学専攻……３７

２　生物環境科学専攻……４３

３　生物資源科学専攻……４７

４　国際乾燥地科学専攻……５５

第２章　招待講演

１　生物生産科学専攻 ……５９

２　生物環境科学専攻 ……５９

３　生物資源科学専攻 ……６０

４　国際乾燥地科学専攻 ……６２

第３章　学術賞等の受賞 ……６４

第４章　研究助成 ……６６

第５章　その他の教育研究活動 ……７５

第３部　組織・運営

第１章　主指導教員の教育研究分野一覧 ……８３

第２章　委　員　会

１　研究科委員会（委員及び審議事項等） ……８５

２　代議委員会（委員及び審議事項等） ……８７

第３章　平成２９年度連合農学研究科教員

１　有資格教員（教授・准教授・講師・助教）一覧 ……９１

２　担当教員を補助する教員（助教）一覧 ……９２

第４章　そ　の　他

１　組　　織 ……９３

２　予算規模 ……９４

３　行　　事 ……９５

第４部　在学生へのアンケート ……９７

第５部　国際学会・国際研究集会　発表学生援助　報告集 ……１１５

第６部　母国において各界リーダーとして活躍する連大修了生による国際シンポジウムの開催およびグローバル同窓会ネットワークの構築 …１２３

「学生及び教員の研究活動」の掲載基準 ……１５１

第１部　教育活動

第１部　教 育 活 動

第１章　学生定員と受入状況

１　学生の在籍状況（全体）

専　　攻	連合講座	鳥取大学	島根大学	山口大学	合　計
生物生産科学	農業生産学	1	7	1	9
	森林資源学	5	1	0	6
	経済・経営学	3	2	0	5
生物環境科学	生産環境工学	2	5	0	7
	環 境 科 学	5	8	0	13
生物資源科学	生物機能科学	4	7	2	13
	資源利用化学	0	4	1	5
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	37	4	0	41
合　　計		57	38	4	99

（注）　※９９名には，２９年９月修了者６名及び２９年１０月入学者１７名を含む。
※生物機能科学には，名称変更前の資源生物科学の学生数も含む。

２　外国人留学生在籍状況

専　攻	生物生産科学									生物環境科学						生物資源科学						国際乾燥地科学			合　計			
連合講座	農　業生産学			森　林資源学			経済・経営学			生産環境工学			環　境科　学			生物機能科学			資源利用化学			国際乾燥地科学						
	鳥取大学	島根大学	山口大学	鳥取大学	島根大学	山口大学	鳥取大学	島根大学	山口大学	鳥取大学	島根大学	山口大学	鳥取大学	島根大学	山口大学	鳥取大学	島根大学	山口大学	鳥取大学	島根大学	山口大学	鳥取大学	島根大学	山口大学	鳥取大学	島根大学	山口大学	計
中国					1		1	1			1											5			6	3	0	9
バングラデシュ		1												2			3			1					0	7	0	7
タイ		1		2			1						1				1								4	2	0	6
インドネシア			1	3							1		1										1		4	2	1	7
マレーシア											1														0	1	0	1
ベトナム																						1			1	0	0	1
ネパール														2											0	2	0	2
エジプト																	1					2			2	1	0	3
スーダン																2						1			3	0	0	3
エチオピア							1															10			11	0	0	11
ケニア																							1		0	1	0	1
ナイジェリア																						1	1		1	1	0	2
ボツワナ																						1			1	0	0	1
ウガンダ																						3			3	0	0	3
ガーナ																				1					0	1	0	1
メキシコ																						1			1	0	0	1
小　計	0	2	1	5	1	0	3	1	0	0	3	0	2	4	0	2	5	0	0	2	0	25	3	0	37	21	1	59
計			3			6			4			3			6			7			2			28				59
合　計									13						9						9			28				

３　社会人学生在籍状況

構成大学	生物生産科学			生物環境科学		生物資源科学		国際乾燥地科学	合　計
	農　業生産学	森　林資源学	経済・経営学	生産環境工学	環　境科　学	生物機能科学	資源利用化学	国際乾燥地科学	
鳥取大学	1	0	0	2	1	1	0	4	9
島根大学	4	0	0	1	3	0	1	0	9
山口大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計	5	0	0	3	4	1	1	4	18

※生物機能科学には，名称変更前の資源生物科学の学生数も含む。

4　学 生 名 簿

連 合 講 座	入学年度		氏　　名	配属大学	主 指 導 教 員 名	備　考
農業生産学	２６		末廣　優加	島根	中務　　明	社会人学生
	２６後	★	NUR AENI ARIYANTI	山口	執行　正義	国費留学生
	２７	☆	枡川　貴紀	島根	小林　伸雄	
	２７後		加古　哲也	島根	小林　伸雄	社会人学生
	２７後		金森　健一	島根	浅尾　俊樹	社会人学生
	２８		中村　広樹	鳥取	田村　文男	社会人学生
	２９		持田　耕平	島根	小林　伸雄	社会人学生
	２９後		MEANCHAIPIBOON SUNISA	島根	中務　　明	私費留学生
	２９後		TALUKDER MD RAIHAN	島根	浅尾　俊樹	私費留学生
森林資源学	２６後	★	LISSA FAJRI YAYUSMAN	鳥取	長澤　良太	国費留学生
	２７	☆	BURAPAPOL KANSUMA	鳥取	長澤　良太	私費留学生
	２７	☆	DANDY ADITYA NOVRESIANDI	鳥取	長澤　良太	国費留学生
	２８後		PRIMA RIZKY MIRELVA	鳥取	長澤　良太	国費留学生
	２９		JI ZHE	島根	伊藤　勝久	私費留学生
	２９後		CHERNKHUNTHOD CHONTHIDA	鳥取	日置　佳之	私費留学生
経済・経営学	２７	☆	LI MINGYUAN	鳥取	松田　敏信	私費留学生
	２８後		DINKU SISAY YEMENU	鳥取	松田　敏信	私費留学生
	２９		古安　理英子	島根	井上　憲一	
	２９後		VIANMANA SUKONTIP	鳥取	能美　　誠	国費留学生
	２９後		PENG WEI	島根	伊藤　康宏	私費留学生
生産環境工学	２４後		森　明寛	島根	宗村　広昭	社会人学生
	２６		松本　拓	島根	石井　将幸	
	２６後		NUR AMELIA BINTI ABAS	島根	宗村　広昭	私費留学生
	２７後		藤本　光伸	鳥取	緒方　英彦	社会人学生
	２８後		RAHMAH DEWI YUSTIKA	島根	宗村　広昭	私費留学生
	２９		松田　亮二	鳥取	猪迫　耕二	社会人学生
	２９		LI　ZHI	島根	谷野　　章	私費留学生
環境科学	２３		鴛海　智佳	島根	山口　啓子	社会人学生
	２４		細澤　豪志	島根	山口　啓子	社会人学生
	２６		前野　真一	島根	桑原　智之	
	２６		藤井　美希	鳥取	児玉基一朗	社会人学生
	２７後		辻谷　睦巳	島根	山口　啓子	社会人学生
	２８		PURI RAMESH RAJ	島根	井藤　和人	国費留学生
	２８		DHUNGANA SABITRI ADHIKARI	島根	井藤　和人	私費留学生
	２８後		HAFIZ MD HAFIZUR RAHMAN	島根	井藤　和人	私費留学生
	２９		宇部　尚樹	鳥取	石原　　亨	
	２９		PRAMOJ NA AYUDHYA SAWITHREE	鳥取	霜村　典宏	私費留学生
	２９		的崎　利規	鳥取	中桐　　昭	
	２９		RINI RIFFIANI	鳥取	會見　忠則	私費留学生
	２９後		SALEHIN AHSANUL	島根	井藤　和人	私費留学生

連合講座	入学年度		氏名	配属大学	主指導教員名	備考
生物機能科学	２６	★	西野　耕平	島根	川向　誠	
	２６		佐々木　邦	山口	小林　淳	
	２６後	★	MOSTAFA AHMED ABOULELA MOHAMED	島根	中川　強	国費留学生
	２７後		東海　彰太	鳥取	有馬　二朗	
	２７後		YASMEEN YOUSIF AHMED ELYAS	鳥取	有馬　二朗	国費留学生
	２７後		TAHERUZZAMAN KAZI	島根	松崎　貴	私費留学生
	２７後		SULTANA MST MOMTAZ	島根	中川　強	国費留学生
	２８後		DUTTA AMIT KUMAR	島根	中川　強	国費留学生
	２９		飯田　亮平	山口	阿座上弘行	
	２９		田部　卓磨	島根	川向　誠	
	２９後		JUMPATHONG JOMKWAN	島根	川向　誠	私費留学生
	２９後		SARA AHMED ELTIGANI EBRAHIM	鳥取	有馬　二朗	国費留学生
資源生物科学	１９後		北　実	鳥取	有馬　二朗	社会人学生
資源利用化学	２３後		MOHAMMAD SHAHIDUR RAHMAN	島根	横田　一成	私費留学生
	２６	★	田﨑　英祐	山口	井内　良仁	
	２７		中井　翔太	島根	横田　一成	社会人学生
	２９		岩﨑　啓太	島根	山本　達之	
	２９		NARTEY MICHAEL NII NARTEY	島根	横田　一成	国費留学生
国際乾燥地科学	２５		加藤　敦司	鳥取	明石　欣也	
	２５		飯田　拓生	鳥取	山本　定博	
	２６		今井　駿輔	鳥取	恒川　篤史	
	２６		QIAN TANA	鳥取	恒川　篤史	私費留学生
	２６後		小林　伸行	鳥取	恒川　篤史	社会人学生
	２６後	☆	AWAD AHMED ELAWAD ELBASHIR	鳥取	辻本　壽	国費留学生
	２６後	★	GEBRESILASIE ZERIHUN NIGUSSIE	鳥取	恒川　篤史	国費留学生
	２７	☆	ALEMU DAGNENET SULTAN	鳥取	恒川　篤史	国費留学生
	２７		沖田　総一郎	鳥取	山中　典和	
	２７		NGUYEN THI THU TRANG	鳥取	山本　定博	私費留学生
	２７		金剛　穂波	鳥取	山本　定博	社会人学生
	２７	☆	LIU JIAQI	鳥取	木村　玲二	私費留学生
	２７	☆	KUNDU CAROLINE AGAMALA	島根	増永　二之	国費留学生
	２７後		HASSAN MOHAMED FAHMY ABD EL BAKI	鳥取	藤巻　晴行	国費留学生
	２７後		FENTA AYELE ALMAW	鳥取	安田　裕	国費留学生
	２７後		MALAMBANE GOITSEONE	鳥取	明石　欣也	国費留学生
	２７後		EDET, OFFIONG UKPONG	鳥取	辻本　壽	私費留学生
	２８		SHAO YANG	鳥取	藤巻　晴行	私費留学生
	２８		田中　晴飛	鳥取	山中　典和	
	２８		松野　景	島根	一戸　俊義	
	２８		NWAJIAKU IFEOMA MONICA	島根	増永　二之	国費留学生

連 合 講 座	入学年度	氏　　名	配属大学	主 指 導 教 員 名	備　考
国際乾燥地科学	２８後	MARIA DEL CARMEN MERCADO GUIDO	鳥取	山田　　智	私費留学生
	２８後	DU,　WUCHEN	鳥取	恒川　篤史	私費留学生
	２８後	GELAW KINDIYE EBABU	鳥取	恒川　篤史	国費留学生
	２８後	WACAL COSMAS	鳥取	山本　定博	国費留学生
	２８後	DAVID MALIK	島根	増永　二之	私費留学生
	２９	石垣　雅	鳥取	山本　定博	社会人学生
	２９	笹川　大輔	鳥取	山本　定博	
	２９	田中　秀樹	鳥取	山田　　智	
	２９	SEBHAT MESENBET YIBELTAL	鳥取	恒川　篤史	国費留学生
	２９	ABEJE MISGANAW TESHAGER	鳥取	恒川　篤史	私費留学生
	２９	GOU, XIAOWEI	鳥取	恒川　篤史	私費留学生
	２９後	糀　妙子	鳥取	辻本　　壽	社会人学生
	２９後	小中　隆文	鳥取	明石　欣也	
	２９後	ACIDRI ROBERT	鳥取	山本　定博	国費留学生
	２９後	BASALIRWA DANIEL	鳥取	山本　定博	国費留学生
	２９後	ASMAA ABDALLAH TALKHAN ALHAMSHRY	鳥取	安田　　裕	私費留学生
	２９後	ZEWDU SHIGDAF MEKURIAW	鳥取	恒川　篤史	国費留学生
	２９後	GEBRU BIRHANU KEBEDE	鳥取	Nigussie Haregeweyn Ayehu	私費留学生
	２９後	MESSALEA GETU ABEBE	鳥取	Nigussie Haregeweyn Ayehu	私費留学生
	２９後	BERIHUN MULATU LIYEW	鳥取	Nigussie Haregeweyn Ayehu	私費留学生

（注）１．「入学年度」欄の「後」は、後期（１０月）入学者を示す。

２．「氏名」欄の「★」は平成２９年度９月修了者、「☆」は平成３０年３月修了者を示す。

第２章　学生の研究活動

1 生物生産科学専攻

1) 農業生産学連合講座

【鳥取大学】

中村　広樹（Nakamura, Hiroki）　平成 28 年度入学（主指導教員：田村　文男）

【島根大学】

枡川　貴紀（Masukawa, Takanori）　平成 27 年度入学，平成 30 年 3 月修了（主指導教員：小林　伸雄）

公表論文

学会誌等

1) Masukawa, T., Cheon, K.S., Mizuta, D., Nakatsuka, A. and Kobayashi, N.: Insertion of a retrotransposon into a *flavonoid 3'-hydroxylase* homolog confers the red root character in the radish (*Raphanus sativus* L. var. *longipinnatus* L. H. Bailey). The Horticulture Journal, **87**: 89-96 (Jan., 2018)

加古　哲也（Kako, Tetsuya）　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：小林　伸雄）

学会発表

国内学会

1) 加古哲也*・山中光司・川村通：夏期の夜温と施肥量がシクラメンの生育に及ぼす影響（口頭）．園芸学会中四国支部平成 29 年度大会（愛媛県松山市）（2017 年 7 月）
2) 加古哲也*・山中光司・川村通・小林伸雄：異なる夜温条件で栽培されたシクラメンの生育および開花に及ぼす品種間差異（ポスター）．園芸学会平成 30 年度春季大会（奈良県奈良市）（2018 年 3 月）

その他（特筆すべき事項）

1) 平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業「花き日持ち性向上対策実証事業」
鉢物生産管理基準検討委員

金森　健一（Kanamori, Kenichi）　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：浅尾　俊樹）

学会発表

国内学会

1) 金森健一*・松崎朝浩・石津文人：山陰地方のイチゴ促成栽培におけるピートバッグ栽培槽の適応性（口頭）．平成 30 年度園芸学会中四国支部大会（愛媛県松山市）（2017 年 7 月）
2) 金森健一*・持田耕平・石川真治・石津文人：島根県オリジナルイチゴ品種‘島系 22-148’の第一次腋花房分化後定植による１～２月の収量向上（口頭）．平成 29 年度農業生産学会（熊本県熊本市）（2017 年 9 月）
3) 金森健一*・佐々木真一郎・西本登志・佐藤卓也・吉田裕一・山崎敬亮・石津文人：イチゴ花粉媒介昆虫としてのヒロズキンバエの羽化に及ぼす栽培環境の影響（口頭）．平成 29 年度園芸学会秋季大会（北海道札幌市）（2017 年 9 月）

4) 山崎敬亮*・西本登志・佐藤卓也・吉田裕一・金森健一・村上健二・生駒泰基：イチゴ栽培における花粉媒介昆虫ヒロズキンバエの羽化と太陽の直射光との関係（ポスター）．平成 29 年度園芸学会秋季大会（北海道札幌市）（2017 年 9 月）
5) 金森健一*・石川真治・武田由里・大倉角栄・石津文人：島根県におけるイチゴ‘かおり野’の発育不良花および受精不良果の発生事例（口頭）．平成 30 年度園芸学会春季大会（奈良県奈良市）（2018 年 3 月）
6) 佐々木真一郎*・金森健一・佐藤卓也・西本登志・東井君枝・石津文人：宅配輸送後の保温温度及び低温遭遇が交配用ヒロズキンバエの羽化に及ぼす影響（ポスター）．平成 30 年度園芸学会春季大会（奈良県奈良市）（2018 年 3 月）
7) 山崎敬亮*・西本登志・佐藤卓也・吉田裕一・金森健一・村上健二：低温寡日照地域のイチゴ栽培における補完ポリネーターとしてのヒロズキンバエの効果（ポスター）．平成 30 年度園芸学会春季大会（奈良県奈良市）（2018 年 3 月）

学会等招待講演

国内学会等

1) 金森健一：寡日照地域のイチゴ栽培におけるビーフライの実証試験．平成 29 年度知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業ミニセミナー「イチゴ栽培におけるミツバチの補完ポリネーターとしてのビーフライ（ヒロズキンバエ）の利用（岡山県岡山市）（2017 年 11 月）

持田　耕平（Mochida, Kohei）　平成 29 年度入学（主指導教員：小林　伸雄）

MEANCHAIPIBOON SUNISA 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：中務　　明）

学会発表

国内学会

1) Meanchaipiboon, S.*, Hitomi, M., Kobayashi, N. and Nakatsuka, A.: Effect of pigment composition and flavonoid hydroxylation related genes on flower color in azalea hybrids. 第 9 回中国地域育種談話会 (Poster). Hiroshima, Japan (Nov., 2017)
2) Meanchaipiboon, S.*, Hitomi, M., Kobayashi, N. and Nakatsuka, A.: Comparison of flower color and flavonoid hydroxylation related genes in Kurume azalea. 園芸学会平成 30 年度春季大会 (Poster), Nara, Japan (Mar., 2018)

TALUKDER MD RAIHAN 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：浅尾　俊樹）

【山口大学】

NUR AENI ARIYANTI　平成 26 年度 10 月入学，平成 29 年 9 月修了（主指導教員：執行　正義）

2) 森林資源学連合講座

【鳥取大学】

LISSA FAJRI YAYUSMAN　平成 26 年度 10 月入学，平成 29 年 9 月修了（主指導教員：長澤　良太）

BURAPAPOL KANSUMA　平成 27 年度入学，平成 30 年 3 月修了（主指導教員：長澤　良太）

DANDY ADITYA NOVRESIANDI　平成 27 年度入学，平成 30 年 3 月修了（主指導教員：長澤　良太）

公表論文

著書

1) Novresiandi, D.A. and Nagasawa, R.: C-Band Dual-Polarization Synthetic Aperture Rader Application for Peat Depth Classification: A Case Study in Siak Regency, Riau Province, Indonesia. Progress In Electromagnetics Research M, **61**: 29-41 (Oct., 2017)

PRIMA RIZKY MIRELVA　平成 28 年度 10 月入学（主指導教員：長澤　良太）

公表論文

著書

1) Rrima, R.M. and Nagasawa, R.: Identification and Classification of Complex Agricultural Croplands Using Multi-Temporal ALOS-2/PALSAR-2 Data. Journal of Agricultural Science, **10(**2): 58-70 (Feb., 2018)

CHERNKHUNTHOD CHONTHIDA 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：日置　佳之）

【島根大学】

JI ZH 平成 29 年度入学（主指導教員：伊藤　勝久）

3）経済・経営学連合講座

【鳥取大学】

LI MINGYUAN　平成 27 年度入学，平成 30 年 3 月修了（主指導教員：松田　敏信）

公表論文

学会誌等

1) 李明圓・松田敏信：中国都市部と農村部における家計消費需要の比較―需要システムによる推定―．農業生産技術管理学会誌，**24**：51-60（2017 年 9 月）

DINKU SISAY YEMENU　平成 28 年度 10 月入学（主指導教員：松田　敏信）

公表論文

学会誌等

1) Dinku, S.Y. and Matsuda, T.: Regional effects on the demand for meat in Japan. Journal of the Japanese Society of Agricultural Technology Management, **24**: 103-117 (Dec., 2017)

学会発表

国内学会

1) Dinku, S.Y. and Matsuda, T.: Regional effects on the demand for meat in Japan. Farm Management Society of Japan, Kyushu University, Fukuoka, Japan (Sep., 2017)

VIANMANA SUKONITIP 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：能美　　誠）

【島根大学】

古安　理英子（Furuyasu, Rieko）平成 29 年度入学（主指導教員：井上　憲一）

学会発表

国内学会

1) 古安理英子*・赤沢克洋：世界遺産における旅行の発動要因の充足に関する定量分析（口頭）．地域活性学会第 9 回研究大会（島根県浜田市）（2017 年 9 月）

PENE WEI 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：伊藤　康宏）

2 生物環境科学専攻

1) 生産環境工学連合講座

【鳥取大学】

藤本　光伸（Fujimoto, Mitsunobu）　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：緒方　英彦）

公表論文

学会誌等

1) 藤本光伸・兵頭正浩・緒方英彦：アンカー固定方式パネル工法におけるグラウト材充填時のアンカー引抜荷重に関する考察．コンクリート構造物の補修，補強，アップグレード論文報告集，**17**：581-586（2017 年 10 月）

学会発表

国内学会

1) 藤本光伸*・清水邦宏・兵頭正浩・石井将幸・緒方英彦：鉄筋コンクリートフリュームの断面方向剛性の軸方向変化に関する検証．平成 29 年度農業農村工学会大会講演会，558-559（神奈川県藤沢市）（2017 年 9 月）

2) 兵頭正浩*・緒方英彦・石井将幸・藤本光伸・清水邦宏：農業用鉄筋コンクリート開水路の断面内剛性を用いた耐力評価手法の検討．平成 29 年度農業農村工学会大会講演会，556-557（神奈川県藤沢市）（2017 年 9 月）

3) 藤本光伸*・兵頭正浩・緒方英彦・石井将幸：埋設環境下にある鉄筋コンクリートフリュームを対象とした水路壁載荷法の適用性．第 72 回農業農村工学会中国四国支部講演会，65-67（徳島県徳島市）（2017 年 10 月）

松田　亮二(Matsuda,Ryoji) 平成 29 年度入学（主指導教員：猪迫　耕二）

学会発表

国内学会

1) 松田亮二*・浪平篤・樽屋啓之・猪迫耕二：止水バンドの設置間隔と損失水頭の関係について（ポスター）．平成 29 年度農業農村工学会大会講演会（神奈川県藤沢市）（2017 年 9 月）

【島根大学】

NUR AMELIA BINTI ABAS 平成 26 年度 10 月入学（主指導教員：宗村　広昭）

RAHMAH DEWI YUSTIKA　平成 28 年度 10 月入学（主指導教員：宗村　広昭）

学会発表

国内学会

1) Yustika, R.D.*, Arifin, B., Yuwono, S.B., Ismono, R.H., Masunaga, T. and Somura, H.: Factors Affecting Water Quality In Sekampung And Sangharus Sub Watershed, Lampung Indonesia. Academic Communication of Science (Poster and Oral), Shimane (Oct., 2017)

LI ZHI　平成 29 年度入学（主指導教員：谷野　　章）

学会発表

国際学会

1) Li, Z.*, Yano, A., Cossu, M., Katsumata, Y., Matsuoka, T., Nakamura, H., Matsumoto, T. and Nakata, J.: Prototype greenhouse blind-type shading system using a semi-transparent photovoltaic module. GreenSys 2017 (Poster), Beijin, China (Aug., 2017)

国内学会

1) 李治*・谷野章・喜多威知郎・吉岡秀和・荊木康臣：温室遮光制御用半透過型太陽電池ブラインドシステムの改良および性能評価（口頭）．日本生物環境工学会 2017 年松山大会（愛媛県松山市）（2017 年 9 月）

その他（特筆すべき事項）

1) GreenSys2017 The excellent poster award third prize（2017 年 8 月 24 日）

2) 環境科学連合講座

【鳥取大学】

宇部　尚樹（Ube, Naoki）平成 29 年度入学（主指導教員：石原　　亨）

公表論文

学会誌等

1) Ishihara, A., Kumeda, R., Hayashi, N., Yagi, Y., Sakaguchi, N., Kokubo, Y., Ube, N., Tebayashi, S. and Ueno, K.: Induced accumulation of tyramine, serotonin, and related amines in response to *Bipolaris sorokiniana* infection in barley. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **81**: 1090-1098 (Jun., 2017)

2) Ube, N., Nishizaka, M., Ichiyanagi, T., Ueno, K., Taketa, S. and Ishihara, A.: Evolutionary changes in defensive specialized metabolism in the genus *Hordeum.* Phytochemistry, **141**: 1-11. (Sep., 2017)

3) Ishihara, A., Ide, Y., Bito, T., Ube, N., Endo, N., Sotome, K., Maekawa, N., Ueno, K. and Nakagiri, A.: Novel tyrosinase inhibitors from liquid culture of *Neolentinus lepideus.* Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **8**: 22-30 (Jan., 2018)

その他

1) 宇部尚樹・石原亨：「今日の話題」イネ科植物における二次代謝の進化ースクラップ・アンド・ビルドによって二次代謝が多様になったー．化学と生物，**56**：73-75（2018 年 2 月）

学会発表

国際学会

1) Ube, N.*, Ishikawa, Y., Nishizaka, M., Ueno, M., Tonooka, T., Taketa, S. and Ishihara, A.: Evolutionary changes in defensive secondary metabolism in the genus *Hordeum*. The joint meeting of the 33rd Annual meeting of International Society of Chemical Ecology and the 9th meeting of the Asia Pacific Association of Chemical Ecology (Poster), Kyoto, Japan (Aug., 2017)

国内学会

1) 井手ゆり・宇部尚樹・遠藤直樹・早乙女梢・前川二太郎・中桐昭・上野琴巳・石原亨*：きのこ抽出物ライブラリーからのチロシナーゼ阻害物質の探索．日本農芸化学会中四国支部第 48 回講演会（徳島県徳島市）（2017 年 6 月）

2) 後藤典子・吉川実沙・宇部尚樹・上野琴巳・大崎久美子・石原亨*：シイタケ廃菌床抽出物の植物病害防除効果と抗菌活性物質の単離．日本農芸化学会関西・中四国・西日本支部 2017 年度合同大阪大会（大阪府堺市）（2017 年 9 月）

3) 安藤郁奈・小久保悠・村田晃一・森本紀子・宇部尚樹・上野誠・手林慎一・上野琴巳・大崎久美子・石原亨*：きのこ廃菌床抽出物によるイネの防御応答の誘導．日本農芸化学会中四国支部第 50 回記念講演会（広島県東広島市）（2018 年 1 月）

その他（特筆すべき事項）

1) Ube, N.*, Ishikawa, Y., Nishizaka, M., Ueno, M., Tonooka, T., Taketa, S. and Ishihara, A.: Evolutionary changes in defensive secondary metabolism in the genus *Hordeum*. The joint meeting of the 33rd Annual meeting of International Society of Chemical Ecology and the 9th meeting of the Asia Pacific Association of Chemical Ecology. Kyoto, Japan (Aug., 2017) Best Poster Award.

PRAMOJ NA AYUDHYA SAWITHRE 平成 29 年度入学（主指導教員：霜村　典宏）

学会発表

国内学会

1) Pramoj, N.A.S.*, Sugimura, S., Aimi, T. and Shimomura, N.: Three-dimensional analysis of ectomycorrhizas aseptically synthesized in *Rhizopogon roseolus* and *Pinus thunbergii*（口頭）．医学生物学電子顕微鏡議学会 第 33 回学術講演会および総会（兵庫県神戸市）（2017 年 5 月）

2) Pramoj, N.A.S.*, Sugimura, S., Aimi, T. and Shimomura, N.: Cytological 3D-analysis on the ectomycorrhizas synthesized between *Rhizopogon roseolus* and *Pinus thunbergii*（口頭）．日本きのこ学会第 21 回大会（宮崎県宮崎市）（2017 年 9 月）

的崎　利規（Matozaki,Toshinori）平成 29 年度入学（主指導教員：中桐　　昭）

公表論文

学会誌等

1) Nogal, P.S., Maekawa, N., Matozaki, T., Dueñas, M., Martín, M.P. and Telleria, M.T.: Based on DNA sequences of ITS and rpb2, *Amylostereum orientale* is reported for the first time in Japan. Mycoscience, **58**: 169-173 (May, 2017)

学会発表

国内学会

1) 的崎利規*・服部力・中桐昭・前川二太郎・早乙女梢：ウラギンタケの分類学的研究（口頭）．日本菌学会第 61 回大会（宮城県仙台市）（2017 年 8 月）

その他（特筆すべき事項）

1) JASSO 奨学金の特に優れた業績による返還免除の認定（全額免除）（2017 年 5 月 31 日）

RINI RIFFIANI 平成 29 年度入学（主指導教員：會見　忠則）

公表論文

学会誌等

1) Riffiani, R. and Sulistinah, N.: Diversity of Nitrilase of Producing Bacteria in Enggano Island, Bengkulu. Berita Biologi. **16**: 265-277 (Dec., 2017)

【島根大学】

鴛海　智佳（Oshiumi, Chika）　平成 23 年度入学（主指導教員：山口　啓子）

公表論文

学会誌等

1) 鴛海智佳・古林敏彦・國井秀伸：島根県の河川におけるミナミアカヒレタビラの生活史と季節移動．魚類学雑誌，**65**：9-20（2018 年 3 月）

前野　真一（Maeno, Masakazu）　平成 26 年度入学（主指導教員：桑原　智之）

公表論文

学会誌等

1) Kuwabara, T., Tsuboi, K., Yamamoto, S., Nishi, M., Tatewaki, K., Maeno, M., Yoshida, S. and Sato, T.: Phosphorus Recovery from Combustion Ash of Cow Dung Pellet and Sewage Sludge Pellet. Journal of the Society of Inorganic Materials, Japan, **24**: 191-199 (Jul., 2017)

学会発表

国内学会

1) 安田拓馬*・桑原智之・前野真一・佐藤利夫：Si-Fe-Mg 系複合含水酸化物のヒ酸･亜ヒ酸・リン混在系でのヒ素吸着特性（ポスター）．第 61 回粘土科学討論会（富山県富山市）（2017 年 9 月）

辻谷　睦巳(Tsujitani, Mutsumi)　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：山口　啓子）

PURI RAMESH RAJ　平成 28 年度入学（主指導教員：井藤　和人）

DHUNGANA SABITRI ADHIKARI　平成 28 年度入学（主指導教員：井藤　和人）

HAFIZ MD HAFIZUR RAHMAN　平成 28 年度 10 月入学（主指導教員：井藤　和人）

SALEHIN AHSANUL 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：井藤　和人）

3 生物資源科学専攻

1-1) 資源生物科学連合講座

（平成 23 年度入学より生物機能科学連合講座）

【鳥取大学】

北　　実（Kita, Makoto）　平成 19 年度 10 月入学（主指導教員：有馬　二朗）

公表論文

その他

1) 北実・石川洋一：IP 解析による汚染調教調査，特用林産物の放射性セシウム対策にかかる調査成果集．日本特用林産振興会（2017 年 11 月）

学会発表

国内学会

1) 北実*・中村麻利子：自然放射線源を用いた放射線業務従事者教育訓練（ポスター）．2017 年度日本保健物理学会・放射線安全管理学会合同大会（大分県大分市）（2017 年 6 月）

2) 中村麻利子*・北実・南条真佐人：地域の自然から学ぶ放射線教育 - ひらめき☆ときめきサイエンスでの実践報告 -（ポスター）．2017 年度日本保健物理学会・放射線安全管理学会合同大会（大分県大分市）（2017 年 6 月）

3) 飯本武志*・木村圭志・滝剣朗・高橋知之・高橋千太郎・安田幸司・山西弘城・稲垣昌代・高橋賢臣・鈴木智和・佐瀬卓也・北実・阪間稔・飯塚裕幸：国際基本安全基準に基づく少量の核燃料物質の合理的な安全管理に関する考察（口頭）．2017 年度日本保健物理学会・放射線安全管理学会合同大会（大分県大分市）（2017 年 6 月）

1-2) 生物機能科学連合講座

【鳥取大学】

東海　彰太（Tokai, Shota）　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：有馬　二朗）

公表論文

学会誌等

1) Tokai, S., Bito, T., Shimizu, K. and Arima, J.: Effect of oxidation of the non-catalytic β-propeller domain on the substrate specificity of prolyl oligopeptidase from *Pleurotus eryngii*. Biochemical and Biophysical Research Communications, **487**: 356-361 (May, 2017)

学会発表

国際学会

1) Tokai, S.*, Bito, T., Shimizu, K. and Arima, J.: Characterization of peptidase from eryngii mushroom for degradation of bitter/allergen peptides. The International Joint Symposium between Japan and Korea (AFELiSA) 2017 (Oral), Fukuoka, Japan (Nov., 2017)

国内学会

1) 東海彰太*・美藤友博・清水克彦・有馬二朗：エリンギ由来プロリルオリゴペプチダーゼの基質特異性に関わる 2 つの Met 残基（口頭）．2017 年度日本農芸化学会中四国支部例会（徳島県鳴門市）（2017 年 6 月）

2) 東海彰太*・美藤友博・清水克彦・有馬二朗：エリンギ由来プロリルオリゴペプチダーゼの非触媒β-プロペラドメイン上に存在する基質特異性に重要な残基（ポスター）．2017 年度日本生物工学会大会（東京都新宿区）（2017 年 9 月）

学会等招待講演

国内学会等

1) 東海彰太*：エリンギ由来プロリルオリゴペプチダーゼの非触媒β-プロペラドメイン上に存在する基質特異性に重要な残基．2017 年度日本生物工学会大会（生物工学若い手研究者の集いシンポジウム―博士後期課程学生口頭発表コンペティション―に採択）（東京都新宿区）（2017 年 9 月）

YASMEEN YOUSIF AHMED ELYAS　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：有馬　二朗）

学会発表

国際学会

1) Elyas, Y.Y.A.*, Miyatani, K., Bito, T., Shimizu, K. and Arima, J.: Construction of high-performance biocatalyst, modified D-stereospecific amidohydrolase, for synthesis of candidate molecule of insecticide. The International Joint Symposium between Japan and Korea (AFELiSA) 2017 (Oral), Fukuoka, Japan (Nov., 2017)

SARA AHMED ELTIGANI EBRAHIM 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：有馬　二朗）

学会発表

国際学会

1) Eltigani, S.A.*, Eltayeb, M.M., Onishi, Y., Bito, T., Shimizu, K. and Arima, J.: Extract from a Sudanese medicinal plants exhibits inhibition of virulence factors of major pathogen of periodontitis. The International Joint Symposium between Japan and Korea (AFELiSA) 2017 (Oral), Fukuoka, Japan (Nov., 2017)

【島根大学】

西野　耕平（Nishino, Kohei）　平成 26 年度入学，平成 29 年 9 月修了（主指導教員：川向　　誠）

公表論文

学会誌等

1) Nishino, K., Kushima, M., Kaino, T., Matsuo, Y. and Kawamukai, M.: Urea enhances cell lysis of *Schizosaccharomyces pombe ura4* mutants. Bioscience Biotechnology and Biochemistry **81**(7): 1444-1451 (Jul., 2017)

学会発表

国際学会

1) Nishino, K., Kushima, M., Kaino, T., Matsuo, Y. and Kawamukai, M.: Cell lysis induced in *Schizosaccharomyces pombe ura4* mutants. The 9th international Fission yeast meeting (May, 2017)

MOSTAFA AHMED ABOULELA MOHAMED　平成 26 年度 10 月入学，平成 29 年 9 月修了（主指導教員：中川　　強）

公表論文

学会誌等

1) Aboulela, M., Tanaka, Y., Nishimura, K., Mano, S., Nishimura, M., Ishiguro, S., Kimura, T. and Nakagawa, T.: Development of an R4 dual-site (R4DS) gateway cloning system enabling the efficient simultaneous cloning of two desired sets of promoters and open reading frames in a binary vector for plant research. PLOS ONE, **12**: e0177889 (May, 2017)
2) Aboulela, M., Tanaka, Y., Nishimura, K., Mano, S., Kimura, T. and Nakagawa T.: A dual-site gateway cloning system for simultaneous cloning of two genes for plant transformation. Plasmid, **92**: 1-56 (May, 2017)
3) Aboulela, M., Nakagawa, T., Oshima, A., Nishimura, K. and Tanaka, Y.: The *Arabidopsis* COPII components, AtSEC23A and AtSEC23D, are essential for pollen wall development and exine patterning. Journal of Experimental Botany, **69**: 1615–1633 (Mar., 2018)

学会発表

国内学会

1) Aboulela, M.*, Tanaka Y. and Nakagawa, T.: Role of AtSEC23A and AtSEC23D in pollen wall development and exine patterning in *Arabidopsis* (Poster).日本植物学会第 81 回大会（千葉県野田市）（2017 年 9 月）

TAHERUZZAMAN KAZI　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：松崎　　貴）

学会発表

国際学会

1) Kazi, T.*, Niibe, I. and Matsuzaki, T.: Adipogenic and osteogenic inducers promote expression of dermal papilla-specific genes in mesenchymal cells. 10th World Congress for Hair Research (Poster), Kyoto, Japan (Oct., 2017)

SULTANA MST MOMTAZ　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：中川　　強）

DUTTA AMIT KUMAR　平成 28 年度 10 月入学（主指導教員：中川　　強）

学会発表

国際学会

1) Dutta, K.A.*, Yamada, C., Suzuki, T., Higashiyama, T. and Nakagawa, T.: Identification and molecular characterization of BAGEL3 mutant responsible gene in *Arabidopsis thaliana* (Poster). Taiwan-Japan Plant Biology 2017（台湾台北）（2017 年 11 月）

国内学会

1) Dutta, K.A.*, Aboulela, M., Suzuki, T., Higashiyama, T. and Nakagawa, T.: Molecular characterization of stomatal mutant SHABONDAMA1 in *Arabidopsis thaliana* (Poster). 日本植物学会第 81 回大会（千葉県野田市）（2017 年 9 月）

田部　卓磨（Tanabe, Takuma）　平成 29 年度入学（主指導教員：川向　　誠）

公表論文

学会誌等

1) Takenaka, K., Tanabe, T., Makoto, K. and Matsuo, Y.: Overexpression of the transcription factor Rst2 in *Schizosaccharomyces pombe* indicates growth defect, mitotic defects, and microtubule disorder, Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **82**(2): 247-257 (Jan., 2018)

学会発表

国内学会

1) 田部卓磨*・酒井智健・川向誠・松尾安浩：スピンドルチェックポイントMad1の発現はPka1経路によって制御される（ポスター）．酵母遺伝学フォーラム（東京都文京区）（2017年9月）
2) 田部卓磨*・川向誠・松尾安浩：スピンドルチェックポイント因子Mad1の発現は転写因子Rst2を介してプロテインキナーゼAによって制御される（ポスター）．分子生物学会（兵庫県神戸市）（2017年12月）
3) 田部卓磨*・吉田直己・谷添万里子・川向誠・松尾安浩：グルコース制限はスピンドルチェックポイントMad1の機能低下を引き起こす（口頭）．農芸化学会（愛知県名古屋市）（2018年3月）

JUMPATHONG JOMKWAN 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：川向　　誠）

【山口大学】

佐々木　邦（Sasaki, Kuni）　平成 26 年度入学（主指導教員：小林　　淳）

公表論文

学会誌等

1) Sasaki, K., Kajiura, Z. and Kobayashi, J.: Comparative Analyses of Deletion Mutations and their Pathological Effects of Nucleopolyhedroviruses Isolated from Saturniid Wild Silkworms. Journal of Insect Biotechnology and Serology, **86**: 67-75 (Oct., 2017)

学会発表

国内学会

1) 佐々木邦*・梶浦善太・小林淳：東～南アジアに分布するヤママユガ科野蚕核多角体病ウイルスのゲノム配列と構造に関する進化的考察（口頭）.第32回中国四国ウイルス研究会（岡山県倉敷市）（2017年6月）
2) 佐々木邦*・梶浦善太・小林淳：東～南アジアに分布するヤママユガ科野蚕核多角体病ウイルスの比較ゲノム解析（ポスター）.生命科学系学会合同年次大会（兵庫県神戸市）（2017年12月）

飯田　亮平（Iida, Ryohei）　平成 29 年度 4 月入学（主指導教員：阿座上弘行）

その他（特筆すべき事項）

1) 「未来博士３分間コンペティション 2017」で企業賞を受賞（2017 年 11 月）

2) 資源利用化学連合講座

【島根大学】

MOHAMMAD SHAHIDUR RAHMAN　平成 23 年度 10 月入学　（主指導教員：横田　一成）

公表論文

学会誌等

1) Rahman, M.S., Hasan, K., Hussain, M.S., Millat, M.S., Sen, N., Islam, M.S., Sarwar, M.S., Noor, W., Kar, A., Uddin, S.M.N. and Yokota, K.: Pathophysiological status of serum antioxidant, macro-minerals and trace elements in patients with metabolic syndrome in Bangladesh. International Journal of Pharmaceutical Sciences and Research, **9**: 1012-1022 (Mar., 2018)

学会発表

国際学会

1) Syeda. P.K., Rahman, M.S., Nartey, M.N.N., Chowdhury, M.M.I., Nishimura, K., Jisaka, M., Shono, F. and Yokota, K.*: Comparison of pro-adipogenic effects between prostaglandin (PG) D_2 and its stable, isosteric analogue, 11-deoxy-11-methylene-PGD_2 (Oral). 15th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, Puerto Vallarta (Oct., 2017)

2) Khan, F., Nartey, M.N.N., Syeda, P.K., Rahman, M.S., Chowdhury, M.M.I., Nishimura, K., Jisaka, M., Shono, F. and Yokota, K.*: Co-incubation of cultured preadipocytes during the differentiation phase with exogenous arachidonic acid and a cAMP-elevating agent attenuates adipogenesis program by inducing the biosynthesis of anti-anti-adipogenic prostanoids (Poster). 15th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, Puerto Vallarta (Oct., 2017)

中井　翔太（Nakai, Shota）平成 27 年度入学　（主指導教員：横田　一成）

公表論文

学会誌等

1) Kimura, H., Ogawa, S., Ishihara, T., Maruoka, M., Tokuyama-Nakai, S., Jisaka, M. and Yokota, K.: Antioxidant activities and structural characterization of flavonol *O*-glycosides from seeds of Japanese horse chestnut (*Aesculus turbinate* BLUME). Food Chemistry, **228**: 348-355 (Aug., 2017)

2) Tokuyama-Nakai, S., Kimura, H., Ishihara, T., Jisaka, M. and Yokota, K.: In vitro anti-inflammatory and antioxidant activities of 3,5,4'-trihyroxy-6,7-methylenedioxyflavone-*O*-glycosides and their aglycone from leaves of *Polygonum tinctorium* Lour. Applied Biochemistry and Biotechnology, **184**: 414-431 (Feb., 2018)

学会発表

国内学会

1) 中井翔太*・木村英人・石原朋恵・圓岡真帆子・小川智史・地阪光生・横田一成：トチノミのフラボノール配糖体の構造と抗酸化性（口頭）．日本農芸化学会中四国支部第 48 回講演会（徳島市）（2017 年 6 月）

2) Nakai, S., Kimura, H., Ishihara, T., Jisaka, M. and Yokota, K.*: Anti-inflammatory activities of 3,5,4'-trihydroxy-6,7-methylenedioxyflavone-O-glycosides and their aglycone from indigo leaves (Poster). Kobe (Dec., 2017)

招待講演

国際学会等

1) Yokota, K.*, Kimura, H., Nakai, S. and Jisaka, M.: Analysis of polyphenolic antioxidants from regional bioresources and their heath benefits for the uses as food additives and nutraceuticals. Invited lecture. International Conference on Emerging Trends in Biotechnology for Waste Conversion and XIV Annual Conversion of Biotech Research Society, Nagpur (Oct., 2017)
2) Yokota, K.*, Nakai, S., Kimura, H. and Jisaka, M.: Structural characterization of flavonoids from indigo leaves and their health benefits applicable to medicinal and nutraceutical products. Keynote presentation. The 10th Asian Federation of Biotechnology Regional Symposium (ARS 2018), Dhaka, (Jan., 2018)

岩崎　啓太（Iwasaki, Keita）平成 29 年度入学（主指導教員：山本　達之）

公表論文

学会誌等

1) Noothalapati, H., Iwasaki, K., Yoshimoto, C., Yoshikiyo, K., Nishikawa, T., Ando, M., Hamaguchi, H. and Yamamoto, T.: Imaging phospholipid conformational disorder and packing in giant multilamellar liposome by confocal Raman microspectroscopy, Spectrochimica Acta Part A: Molecular and Biomolecular Spectroscopy, **187**: 186–190 (Dec., 2017)

学会発表

国際学会

1) Iwasaki, K., Noothalapati, H., Abdullah, S., Nagai A. and Yamamoto, T.: Probing redox imbalance of cytochrome c in ataxia and male sterility by resonance Raman microspectroscopy, Fifth Taiwan International Symposium on Raman Spectroscopy, Chiayi, Taiwan（Jun., 2017）

国内学会

1) 岩崎啓太・ヘマンス ヌータラパティ・安藤正弘・濵口宏夫・山本達之：生検試料測定用ラマン分光システムにおけるプレパラート材料の検討．医用分光学研究会第 15 回年会（茨城県つくば市）（2017 年 11 月）

NARTEY MICHAEL NII NARTEY 平成 29 年度入学（主指導教員：横田　一成）

学会発表

国際学会

1) Syeda, P.K., Rahman, M.S., Nartey, M.N.N., Chowdhury, M.M.I., Nishimura, K., Jisaka, M., Shono, F., and Yokota, K.*: Comparison of pro-adipogenic effects between prostaglandin (PG) D_2 and its stable, isosteric analogue, 11-deoxy-11-methylene-PGD_2 (Oral). 15th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, Puerto Vallarta (Oct., 2017)
2) Khan, F., Nartey, M.N.N., Syeda, P.K., Rahman, M.S., Chowdhury, M.M.I., Nishimura, K., Jisaka, M., Shono, F. and Yokota, K.*: Co-incubation of cultured preadipocytes during the differentiation phase with exogenous arachidonic acid and a cAMP-elevating agent attenuates adipogenesis program by inducing the biosynthesis of anti-anti-adipogenic prostanoids (Poster). 15th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, Puerto Vallarta (Oct., 2017)

【山口大学】

田﨑　英祐（Tasaki, Eisuke）平成 26 年度入学，平成 29 年 9 月修了（主指導教員：井内　良仁）

4 国際乾燥地科学専攻

国際乾燥地科学連合講座

【鳥取大学】

飯田　拓生（Handa, Takuo）　平成 25 年度入学（主指導教員：山本　定博）

今井　駿輔（Imai, Shunsuke）　平成 26 年度入学（主指導教員：恒川　篤史）

学会発表

国内学会

1) 今井駿輔*・伊藤健彦・恒川篤史・篠田雅人・Lhagvasuren B：モウコガゼルの春の多様な移動パターンと植生量の時空間変動の関係（ポスター）．日本哺乳類学会 2017 年度大会（富山県富山市）（2017 年 9 月）
2) 今井駿輔*・伊藤健彦・恒川篤史・篠田雅人・Lhagvasuren B：モンゴルの草食獣モウコガゼルの春の移動型の分類と移動による利益の評価（ポスター）．日本生態学会 2017 年度大会（北海道札幌市）（2018 年 3 月）

QIAN TANA　平成 26 年度入学（主指導教員：恒川　篤史）

小林　伸行（Kobayashi, Nobuyuki）　平成 26 年度 10 月入学（主指導教員：恒川　篤史）

公表論文

学会誌等

1) Kobayashi, N., Hou, F., Tsunekawa, A., Chen, X., Yan, T. and Ichinohe, T.: Effects of substituting alfalfa hay for concentrate on energy utilization and feeding cost of crossbred Simmental male calves in Gansu Province, China. Grassland Science, **63**(4): 245-254 (Oct., 2017)

AWAD AHMED ELAWAD ELBASHIR　平成 26 年度 10 月入学，平成 30 年 3 月修了（主指導教員：辻本　　壽）

公表論文

学会誌等

1) Elbashir, A.A.E., Gorafi, Y.S.A., Tahir, I.S.A., Kim, J.S. and Tsujimoto, H.: Wheat multiple synthetic derivatives: a new source for heat stress tolerance adaptive traits. Breeding Science, **67**: 248-256 (Jun., 2017)
2) Elbashir, A.A.E., Gorafi, Y.S.A., Tahir, I.S.A., Elhashimi, A.M.A., Abdalla, M.G.A. and Tsujimoto, H.: Genetic variation in heat tolerance-related traits in a population of wheat multiple synthetic derivatives, Breeding Science, **67**: 483-492 (Dec., 2017)

学会等招待公演

国際学会等

1) Awad, A.E.E.*, Gorafi, Y.S.A., Tahir, I.S.A., Elhashimi, A.M.A., Abdalla, M.G.A and Tsujimoto, H.: Multiple synthetic derivatives population: a new source to identify heat stress tolerance traits in bread wheat. The 13th International Wheat Genetics Symposium, Vienna, Austria. (Poster). (Apr., 2017)

GEBRESILASIE ZERIHUN NIGUSSIE　平成 26 年度 10 月入学，平成 29 年 9 月修了（主指導教員：恒川　篤史）

公表論文

学会誌等

1) Nigussie, Z., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Nohmi, M., Tsubo, M., Aklog, D., Meshesha, D.T. and Abele, S.: Factors Affecting Small-scale Farmers' Land Allocation and Tree Density Decisions in an *Acacia decurrens*-based *taungya* System in Fagita Lekoma District, North-Western Ethiopia. Small-scale Forestry, **16**: 219-233 (Jun., 2017)
2) Nigussie, Z., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Nohmi, M., Tsubo, M., Aklog, D., Meshesha, D.T. and Abele, S.: Factors influencing small-scale farmers' adoption of sustainable land management technologies in north-western Ethiopia. Land Use Policy, **67**: 57-64 (Nov., 2017)
3) Nigussie, Z., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Cochrane, L., Floquet, A. and Abele, S.: Applying Ostrom's institutional analysis and development framework to soil and water conservation activities in north-western Ethiopia. Land Use Policy, **71**: 1-10 (Jan., 2018)

ALEMU DAGNENET SULTAN　平成 27 年度入学，平成 30 年 3 月修了（主指導教員：恒川　篤史）

公表論文

学会誌等

1) Fenta, A.A., Yasuda, H., Shimizu, K., Haregeweyn, N., Kawai, T., Sultan, D., Ebabu, K. and Belay, A.S.: Spatial distribution and temporal trends of rainfall and erosivity in the Eastern Africa region. Hydrological Processes, **31**(25): 4555-4567 (Oct., 2017)
2) Ebabu, K., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Meshesha, D.T., Aklog, S.D. and Yibeltal, M.: Analyzing the variability of sediment yield: A case study from paired watersheds in the Upper Blue Nile basin, Ethiopia. Geomorphology, **303**: 446-455 (Feb., 2018)
3) Sultan, D., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Tsubo, M., Meshesha, D.T. and Ebabu, K.: Impact of Soil and Water Conservation Interventions on Watershed Runoff Response in a Tropical Humid Highland of Ethiopia. Environmental management, **61**(5): 860-874 (Feb., 2018)

学会発表

国際学会

1) Sultan, D., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Tsubo, M., Meshesha, D.T and Ebabu, K.: Watershed runoff response to soil and water management interventions in a tropical humid highland of Ethiopia. Asia-EC JRC Joint Conference on "All That Soil Erosion the Global Task to Conserve Our Soil Resources"(Poster), JW Marriott Hotel, Seoul, South Korea (4-7 Dec., 2017)

沖田　総一郎（Okida, Soichiro）　平成 27 年度入学（主指導教員：山中　典和）

公表論文

学会誌等

1) 米田亜沙美・岩永史子・Chiu Chen-Wei・沖田総一郎・山中典和・山本福壽：イタヤカエデの樹液溢出量と樹液流速の関係および環境変動の観察．樹木医学研究 **21**（2）：71-72（2017 年 4 月）
2) 沖田総一郎・谷口真吾・谷口武士・岩永史子・山本福壽・山中典和：酸欠と塩ストレスがマングローブ 2 種の苗木の成長と生理に及ぼす影響．樹木医学研究 **21**（4）：193-200（2017 年 10 月）

学会発表

国内学会

1) 米田亜沙美*・岩永史子・芳賀弘和・沖田総一郎・山中典和・山本福壽：イタヤカエデとウリハダカエデの樹液溢出の比較および環境変化の観察（ポスター）．樹木医学会第 22 回大会（東京都小金井市）（2017 年 11 月）

NGUYEN THI THU TRANG　平成 27 年度入学（主指導教員：山本　定博）

LIU JIAQI　平成 27 年度入学，平成 30 年 3 月修了（主指導教員：木村　玲二）

公表論文

学会誌等

1) 劉佳啓・木村玲二：小型風洞において自然界に近い粗度長を伴う境界層を生成する手法の開発．日本砂丘学会誌，**64**(1): 1-8（2017 年 8 月）

学会発表

国内学会

1) 宮脇真美*・衣笠利彦・劉佳啓・木村玲二：植物体の形状が砂嵐の発生抑制に与える影響（ポスター）．生物系三学会中国四国支部大会第 74 回大会（高知県高知市）（2017 年 5 月）
2) 劉佳啓*・木村玲二：小型風洞を用いたレキ面の風速特性（口頭）．日本農業気象学会中国四国支部大会（鳥取県鳥取市）（2017 年 12 月）
3) 劉佳啓*・木村玲二：鳥取砂丘砂を使った小型風洞の開発（口頭）．鳥取砂丘調査研究報告会（鳥取県鳥取市）（2018 年 1 月）
4) 宮脇真美*・劉佳啓・木村玲二・衣笠利彦:植生のダスト発生抑制効果は形状によって異なるのか？（ポスター）．日本生態学会第 65 回全国大会（北海道札幌市）（2018 年 3 月）
5) 劉佳啓*・木村玲二：小型風洞を用いたレキ面の風速特性と飛砂量（ポスター）．日本農業気象学会全国大会（福岡県福岡市）（2018 年 3 月）

HASSAN MOHAMED FAHMY ABD EL BAKI　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：藤巻　晴行）

公表論文

学会誌等

1) Abd, E.B.H.M., Fujimaki, H., Tokumoto, I. and Saito, T.: Determination of irrigation depths using a numerical model of crop growth and quantitative weather forecast and evaluation of its effect through a field experiment for potato. Journal of the Japanese Society of Soil Physics, **136**: 15-24 (Jun., 2017)

学会発表

国際学会

1) Abd, E.B.H.M., Fujimaki, H., Tokumoto, I. and Saito, T.: Validation of a new scheme for determination of irrigation depths using a numerical model of crop response to irrigation and quantitative weather forecasts (Oral). Annual Meeting of Soil Science Society of America, Tampa (Nov. 2017)

FENTA AYELE ALMAW　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：安田　　裕）

公表論文

学会誌等

1) Fenta, A.A., Yasuda, H., Shimizu, K. and Haregeweyn, N.: Response of streamflow to climate variability and changes in human activities in the semiarid highlands of northern Ethiopia. Regional Environmental Change, **17**(4): 1229–1240 (Apr., 2017)
2) Fenta, A.A., Yasuda, H., Haregeweyn, N., Belay, A.S., Hadush, Z., Gebremedhin, M.A. and Mekonnen, G.: The dynamics of urban expansion and land use/land cover changes using remote sensing and spatial metrics: the case of Mekelle City of northern Ethiopia. International Journal of Remote Sensing, **38**(14): 4107–4129 (Apr., 2017)
3) Fenta, A.A., Yasuda, H., Shimizu, K., Haregeweyn, N. and Woldearegay, K.: Quantitative analysis and implications of drainage morphometry of the Agula watershed in the semi-arid northern Ethiopia. Applied Water Science, **7**(7): 3825–3840 (Nov., 2017)
4) Fenta, A.A., Yasuda, H., Shimizu, K., Haregeweyn, N., Kawai, T., Sultan, D., Ebabu, K. and Belay, A.S.: Spatial distribution and temporal trends of rainfall and erosivity in the Eastern Africa region. Hydrological Processes, **31**(25): 4555–4567 (Dec., 2017)

MALAMBANE GOITSEONE　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：明石　欣也）

公表論文

学会誌等

1) Malambane, G., Nonaka, S., Shiba, H., Ezura, H., Tsujimoto, H. and Akashi, K.: Comparative effects of ethylene inhibitors in *Agrobacterium* mediated transformation in wild watermelon. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **82**(3): 433-441 (Mar., 2018)

学会発表

国際学会

1) Malambane, G.*, Nonaka, S., Shiba, H., Ezura, H., Tsujimoto, H. and Akashi, K.: Comparative effects of ethylene inhibitors in *Agrobacterium* mediated transformation in wild watermelon. 10th International Conference on Agriculture and Horticulture (Oral). London, England (Oct., 2017)

国内学会

1) Malambane, G.*, Nonaka, S., Shiba, H., Ezura, H., Tsujimoto, H. and Akashi, K.: Comparative effects of ethylene inhibitors in *Agrobacterium* mediated transformation in wild watermelon. The 35 Annual Meeting of the Japan Plant Cell Molecular Biology Society (Poster). Saitama, Japan (Aug., 2017)

EDET, OFFIONG UKPONG　平成 27 年度 10 月入学（主指導教員：辻本　　壽）

公表論文

学会誌等

1) Edet, O.U., Kim, J.S., Okamoto, M., Hanada, K., Takeda, T., Kishii, M., Gorafi, Y.S.A. and Tsujimoto, H.: Efficient anchoring of alien chromosome segments introgressed into bread wheat by new *Leymus racemosus* genome-based markers. BMC Genetics, **19**:18 (Mar., 2018)

学会発表

国内学会

1) Edet, O.U.*, Kim, J.S., Hanada, K., Okamoto, M., Kishii, M. and Tsujimoto, H.: Development of efficient molecular markers from *Leymus racemosus* genome for hexaploid wheat breeding. Japanese Triticeae Symposium (Poster), Kyoto, Japan (Dec., 2017)

学会等招待講演

国際学会等

1) Edet, O.U.*, Kim, J.S., Hanada, K., Okamoto, M. and Tsujimoto, H.: Development of efficient *Leymus racemosus* genome-specific PCR-based markers for genotyping wheat-*Leymus racemosus* introgression lines and analysis of diversity in Triticeae. The 8th International Triticeae Symposium (Poster), Wernigerode/Gatersleben, Germany (Jun., 2017)

SHAO YANG　平成 28 年度入学（主指導教員：安　　萍）

学会発表

国内学会

1) Shao, Y. and An, P.: Root cell wall composition in relation to salt tolerance in wheat (Oral). 47th Biannual Meeting of JSRR, Sakai, Osaka (Oct., 2017)

田中　晴飛（Tanaka, Haruto）平成 28 年度入学（主指導教員：山中　典和）

MARIA DEL CARMEN MERCADO GUIDO　平成 28 年度 10 月入学（主指導教員：山田　　智）

学会発表

国内学会

1) Mercado, C.* and Yamada, S.: Na and K content and selective transport in rosemary and thyme. 17th Annual Meeting of Japanese Society of Soil Science and Plant Nutrition, Symposium (Oral), Sendai, Japan (Aug., 2017)

DU, WUCHEN　平成 28 年度 10 月入学（主指導教員：恒川　篤史）

学会発表

国内学会

1) Wuchen, D.*, Tsunekawa, A., Hou, F., Ichinohe, T., Kobayashi, N. and Peng, F.: Nitrogen utilization by Simmental crossbred calves fed with a mixed oat- and alfalfa-hay-based diet (Poster). Annual meeting of Grassland Science of Japan, The 74th Presentation Meeting, Kumamoto, Japan (Mar., 2018)

GELAW KINDIYE EBABU　平成 28 年度 10 月入学（主指導教員：恒川　篤史）

公表論文

学会誌等

1) Ebabu, K., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Meshesha, D.T., Aklog, S.D. and Yibeltal, M.: Analyzing the variability of sediment yield: A case study from paired watersheds in the Upper Blue Nile basin, Ethiopia. Geomorphology, **303**: 446-455 (Feb., 2018)

2) Sultan, D., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Tsubo, M., Meshesha, D.T. and Ebabu, K.: Impact of Soil and Water Conservation Interventions on Watershed Runoff Response in a Tropical Humid Highland of Ethiopia. Environmental management, **61**(5): 860-874 (Feb., 2018)

3) Fenta, A.A., Yasuda, H., Shimizu, K., Haregeweyn, N., Kawai, T., Sultan, D., Ebabu, K. and Belay, A.S.: Spatial distribution and temporal trends of rainfall and erosivity in the Eastern Africa region. Hydrological Processes, **31**(25): 4555-4567 (Oct., 2017)

学会発表

国際学会

1) Ebabu, K., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Meshesha, D.T., Aklog, D. and Yibeltal, M.: Sediment yield variability: a case study from paired watersheds in the Upper Blue Nile basin, Ethiopia. Asia-EC JRC Joint Conference on “All That Soil Erosion the Global Task to Conserve Our Soil Resources”(Poster), JW Marriott Hotel, Seoul, South Korea (4-7 Dec., 2017)

WACAL COSMAS　平成 28 年度 10 月入学（主指導教員：山本　定博）

学会発表

国内学会

1) Wacal, C.*, Basalirwa, D. Sasagawa, D. Acidri, R. Ogata, N. and Nishihara, E.: Inhibition of mineral nutrient uptake on seed yield decline in sesame (*Sesamum indicum* L.) grown in different continuous cropping years. The 244th Meeting of the Crop Science Society of Japan (Oral), Gifu, Japan (Sep., 2017)

2) Wacal, C.*, Basalirwa, D., Sasagawa, D., Acidri, R., Ogata, N. and Nishihara, E.: Seed yield and fatty acid composition of sesame (*Sesamum indicum* L.) seeds as influenced by continuous cropping on fallow paddy fields. The 32nd Meeting of The Sesame Society of Japan (Oral), Ibaraki, Japan (Oct., 2017)

3) Wacal, C.*, Acidri, R., Basalirwa, D. Handa, T., Sasagawa, D., Ishigaki, T., Ogata, N. and Nishihara, E.: Cultivar rotation to mitigate continuous cropping obstacle of sesame (*Sesamum indicum* L.). The 245th Meeting of the Crop Science Society of Japan (Oral), Tochigi, Japan (Mar., 2018)

石垣　　雅（Ishigaki, Miyabi）　平成 29 年度入学（主指導教員：山本　定博）

学会発表

国内学会

1) 石垣雅*・岩見峻平・葛川和樹・宮崎裕介・大観光徳・西原英治・岸本真幸・大倉央：波長変換を目的とした無機蛍光体の農業への利用（第一報）：農 PO シートへの導入（ポスター）．園芸学会平成 29 年度秋季大会（北海道江別市）（2017 年 9 月）

学会等招待講演

国内学会等

1) 石垣雅*・葛川和樹・宮崎裕介・西原英治・大観光徳・岸本真幸・戸田健司・大倉央：ルビー蛍光体を分散させた農業用波長変換シート．第 371 回蛍光体同学会講演会（東京都江東区）（2018 年 2 月）

その他（特筆すべき事項）

1) 日本経済新聞　中国経済面「植物成長促進するシート　鳥取大　必要な赤色光増やす」（2017 年 12 月 7 日）

笹川　大輔（Sasagawa, Daisuke）　平成 29 年度入学（主指導教員：山本　定博）

学会発表

国際学会

1) Sasagawa, D.*: Licorice cultivation in Tottori prefecture ～Action in Tottori university. 11th International Symposium Exploring the Global Sustainability (Oral), Kobe, Japan (Mar., 2018)

国内学会

1) 笹川大輔*・ワチャルコスマス・バサリルワダニエル・アチドリロバート・西原英治：ウラルカンゾウの砂地ほ場における適正基肥量の推定（ポスター）. 第 8 回甘草に関するシンポジウム（山梨県甲州市）（2017 年 7 月）
2) 笹川大輔＊・西原英治・山中典和：乾燥地に自生する薬用植物ウラルカンゾウの主根に含まれるグリチルリチン蓄積の促進方法（口頭）. 鳥取大学乾燥地研究センター. 平成 29 年度共同研究発表会（鳥取県鳥取市）（2017 年 12 月）

田中　秀樹（Tanaka, Hideki）　平成 29 年度入学（主指導教員：山田　　智）

学会発表

国際学会

1) Tanaka, H.* and Yamada, S.: Different Salt Stress Responses between Salt-Sensitive and Salt-Tolerant Basil Varieties. AFELiSA 2017 (Poster), Fukuoka, Japan (Nov., 2017)

国内学会

1) 田中秀樹*・山田智：塩性条件下におけるバジルの光合成能と抗酸化応答（口頭）.日本土壌肥料学会 2017 年度仙台大会（宮城県仙台市）（2017 年 9 月）

その他（特筆すべき事項）

1) Award Certificate For Academic Excellence in Poster Presentation entitled Different Salt Stress Responses between Salt-Sensitive and Salt Tolerant Basil Varieties presented at AFELiSA (8 Nov., 2017)
2) 鳥取大学大学院エンカレッジ・ファンド（2018 年 2 月 19 日）

SEBHAT MESENBET YIBELTAL 平成 29 年度入学（主指導教員：恒川　篤史）

公表論文

学会誌等

1) Ebabu, K., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Meshesha, D.T., Aklog, S.D. and Yibeltal, M.: Analyzing the variability of sediment yield: A case study from paired watersheds in the Upper Blue Nile basin, Ethiopia. Geomorphology, **303**: 446-455 (Feb., 2018)

学会発表

国際学会

1) Sebhat, M., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Meshesha, D. T., Aklog, D. and Kindu, K.: Assessment of gully erosion using remote sensing images in the Upper Blue Nile basin, Ethiopia. Asia-EC JRC Joint Conference on “All That Soil Erosion the Global Task to Conserve Our Soil Resources” (Poster), JW Marriott Hotel, Seoul, South Korea (4-7 Dec., 2017)

2) Sebhat, M., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Meshesha, D.T., Aklog, D. and Masunaga, T.: Gully erosion and its management options in the Upper Blue Nile basin, Ethiopia. Development of next generation sustainable land management framework to combat desertification launching workshop (Poster), Addis Ababa, Ethiopia (Apr., 2017)

ABEJE MISGANAW TESHAGER 平成 29 年度入学（主指導教員：恒川　篤史）

GOU, XIAOWEI 平成 29 年度入学（主指導教員：恒川　篤史）

学会発表

国内学会

1) Gou, X.W.*, Tunekawa, A., Peng, F., Zhao, X.Y., Li, Y.L. and Lian, J.: Fixed-time data segmentation and behavior classification of pasture-based livestock：Enhancing performance using random forest (RF). The 64th Kumamoto Conference of Japanese Society of Grassland Science (Poster), Aich, Japan (Aug., 2017), Kumamoto, Japan (Mar., 2018)

糀　　妙子（Koji, Taeko）　平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：辻本　　壽）

学会発表

国内学会

1) 糀妙子*・藤田道明・辻本壽：屋上緑化 *Phedimus* 属植物（常緑キリンソウ）の新品種開発に向けた種間雑種個体の作出．第 9 回中国地域育種学談話会（広島県東広島市）（2017 年 11 月）

小中　隆文（Konaka, Takafumi）　平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：明石　欣也）

ACIDRI ROBERT 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：山本　定博）

学会発表

国内学会

1) Acidri, R.*, Sasagawa, D., Wacal, C., Basalirwa, D., Sawai, Y. and Nishihara, E.: Inorganic nitrogen-source preference of coffee (*Coffea arabica* L.) plants in hydroponic culture under low irradiance. The 31st Horticultural conference of Japanese Society of Horticultural Sciences (Oral), Nara, Japan (Mar., 2018)

その他（特筆すべき事項）

1) Acidri, R.* and Nishihara, E.: Coffee (*Coffea arabica* L.) cultivation for leaf dietary antioxidants. Presentation to the JICA team during their training at Tottori University (Oral), Tottori, Japan (Oct., 2017)

BASALIRWA DANIEL 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：山本　定博）

学会発表

国内学会

1) Basalirwa, D.*, Sudo, S., Wacal, C., Sasagawa, D., Acidri, R. and Nishihara, E.: Impact of fresh and one-year aged in-situ palm shell biochar on N_2O emissions, soil properties and yield of Komatsuna (*Brassica rapa* var. *perviridis*). Japanese Society of Soil Science and Plant Nutrition (Oral), Sendai, Japan (Sep., 2017)

ASMAA ABDALLAH TALKHAN ALHAMSHRY 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：安田　　裕）

ZEWDU SHIGDAF MEKURIAW 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：恒川　篤史）

公表論文

学会誌等

1) Mekuriaw, S., Tegegne, F., Tsunekawa, A. and Ichinohe, T.: Effects of substituting concentrate mix with water hyacinth (*Eichhornia crassipes*) leaves on feed intake, digestibility and growth performance of Washera sheep fed rice straw-based diet. Tropical animal health and production, **50**(5): 965-972 (Jan., 2018)

学会発表

国内学会

1) Mekuriaw, S.*: Animal Production and Feed Resources in Ethiopia: in brief. Obihiro University, Hokkaido, Japan (Jun., 2018)

GEBRU BIRHANU KEBEDE 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：Nigussie Haregeweyn Ayehu）

学会発表

国際学会

1) Kebede, B.*, Haregeweyen, N., Tsunekawa, A., Masunaga, T., Adgog, E. and Meshesha, T.: Development of Alternative Land Management technologies in the Upper Blue Nile Basin, Ethiopia (Poster). Asia-EC JRC Joint Conference on "All that soil Erosion the Global task to conserve our soil Resources", JW Marriott Hotel, Seoul, South Korea (Dec., 2017)

MESSALEA GETU ABEBE 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：Nigussie Haregeweyn Ayehu）

BERIHUN MULATU LIYEW 平成 29 年度 10 月入学（主指導教員：Nigussie Haregeweyn Ayehu）

学会発表

国際学会

1) Berihun, M.*, Haregeweyen, N., Tsunekawa, A., Masunaga, T., Adgog, E. and Meshesha, T.: Development of Alternative Future Land Management Scenarios Through Comprehensive Sediment Budget Analysis in the Upper Blue Nile Basin, Ethiopia (Poster). Asia-EC JRC Joint Conference On "All That Soil Erosion the Global Task to Conserve Our Soil Resources", JW Marriott Hotel, Seoul, South Korea (Dec., 2017)

【島根大学】

KUNDU CAROLINE AGAMALA　平成 27 年度入学，平成 30 年 3 月修了（主指導教員：増永　二之）

公表論文

学会誌等

1) Kundu, C.A., Ishii, M., Sato, K., Masunaga, T.*, Wanjogu, R.K., Makihara, D. and Yamauchi, A.: An Assessment of Paddy Production System in Central Kenya with Special Reference to Micronutrients. Journal of Agricultural Science, **9**(6): 49-63 (Jun, 2017)

松野　　景（Matsuno, Kei）　平成 28 年度入学（主指導教員：一戸　俊義）

学会発表

国内学会

1) 小椋麻衣*・松野景・宋相憲・坂本真実・帯刀一美・柴田昌宏・山本直幸・一戸俊義：赤身牛肉生産を目指した輪換放牧による黒毛和種去勢牛の周年放牧肥育（口頭）．第 67 回関西畜産学会大阪大会（大阪府堺市）（2017 年 9 月）

2) Matsuno, K.*, Matsumoto, T., Ichinohe, T. and Song, S.H.: Effect of creatinine on differentiation and lipid accumulation in ruminant fat cells (Poster). 日本分子生物学会第 40 回年会（兵庫県神戸市）（2017 年 12 月）

3) Tozawa, M.*, Matsuno, K., Ichinohe, T. and Song, S.H.: Effect of creatinine on κ-casein synthesis of MAC-T cell (Poster). 日本分子生物学会第 40 回年会（兵庫県神戸市）（2017 年 12 月）

NWAJIAKU IFEOMA MONICA　平成 28 年度入学（主指導教員：増永　二之）

学会発表

国内学会

1) Nwajiaku, I.M.*, Olanrewaju, J.S., Sato, K., Masunaga, T., Tokunari, T. and Kitano, S.: Changes of nutrient composition of biochar from rice husk and sugarcane bagasse at varying pyrolysis temperatures (Oral). 2017 年度日本土壌肥料学会関西支部講演会（奈良県橿原市）（2017 年 12 月）

DAVID MALIK　平成 28 年度 10 月入学（主指導教員：増永　二之）

学会発表

国内学会

1) Malik, D.*, Masunaga, T. and Afrizal.: Introduction of Gambir production in West Sumatra Province (Oral). 2017 年度日本土壌肥料学会関西支部講演会（奈良県橿原市）（2017 年 12 月）

第3章　学 位 授 与 者

1　入学者に対する在学３年間での学位授与者数及び学位取得率

（平成２９年度の状況）

専　　攻	連 合 講 座	平成２７年４月 入学者数	在学３年間での 学位取得者数	学位取得率(%)
生物生産科学	農業生産学	１（　１）	１（　１）	100
	森林資源学	２（　１）	２（　１）	100
	経済・経営学	１（　０）	１（　０）	100
	計	４（　２）	４（　２）	100
生物環境科学	生産環境工学	０（　１）	０（　０）	0
	環境科学	０（　０）	０（　０）	－
	計	０（　１）	０（　０）	0
生物資源科学	生物機能科学	０（　１）	０（　１）	100
	資源利用化学	１（　０）	０（　０）	0
	計	１（　１）	０（　１）	50
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	６（　３）	３（　２）	56
	計	６（　３）	３（　２）	56
合　　計		１１（　７）	７（　５）	67

（注）・（　）は２６年１０月入学者を外数で示す。
・生物機能科学には、名称変更前の資源生物科学の学生数も含む。
・早期修了者を含む。

2　課程修了者（１６名）

専攻	講座	入学年度	申請者氏名	論　文　題　目	指導教員
生物生産科学	農業生産学	25後	渡邊　美貴子	日本麺用コムギにおける高分子量グルテニンサブユニット構成，タンパク質含有率が製麺適性に及ぼす影響 （Effects of high molecular weight glutenin subunits composition and protein content on noodle quality in Japanese soft wheat）	高橋　肇 荒木　英樹 中田　昇
		26後	NUR AENI ARIYANTI	Phytochemical Characterization of Major *Allium* Cultivated Vegetable Crops toward Improving Biotic and Abiotic Stress Adaptations (生物的・非生物的ストレス適応性の改良に向けた主要ネギ属野菜の植物化学的特性評価)	執行　正義 伊藤　真一 小林　伸雄
		27	枡川　貴紀	島根県特産香辛野菜「出雲おろち大根」へのアントシアニン着色形質の導入に関する研究 (Studies on the introduction of colored root characteristics into the local pungent radish of Shimane prefecture “Izumo orochi daikon”)	小林　伸雄 門脇　正行 執行　正義
	森林資源学	25	大津　裕貴	森林資源のマテリアル・エネルギー利用に関する研究 (Study on Material and Energy Utilization of Forest Resources)	小池浩一郎 伊藤　勝久 日置　佳之
		26後	LISSA FAJRI YAYUSMAN	SAR Data Application for the Smallholder’s Oil Palm Plantation Management in Indonesia (インドネシアにおける小規模オイルパーム農園管理のためのSARデータ活用手法の検討)	長澤　良太 日置　佳之 久保満佐子
		27	BURAPAPOL KANSUMA	Assessment of Wildfire Risk at Recreational Sites in Sri Lanna National Park, Chiang Mai, Northern Thailand, using Remote Sensing and GIS Techniques (リモートセンシングとGISを用いた森林火災リスクの評価手法に関する研究-タイ北部，スリランナ国立公園を事例として-)	長澤　良太 日置　佳之 久保満佐子
		27	DANDY ADITYA NOVRESIANDI	Synthetic Aperture Radar Application for Tropical Peatlands Monitoring Activity in Indonesia （インドネシアにおける熱帯泥炭地管理のための合成開口レーダー画像の応用に関する研究）	長澤　良太 日置　佳之 久保満佐子
	経済・経営学	27	LI MINGYUAN	中国の消費需要に関する計量経済学的研究 （Econometric Study on the Consumer Demand in China）	松田　敏信 万　里 井上　憲一
生物資源科学	生物機能科学	26	西野　耕平	Analysis of inducers and suppressors controlling cell lysis in *S. pombe ura4* deletion strains （分裂酵母ura4破壊株の細胞溶解を制御する促進及び抑圧因子の解析）	川向　誠 戒能　智宏 東　政明
		26後	MOSTAFA AHMED ABOULELA MOHAMED	Analysis of pollen development and pollen wall formation in *Arabidopsis thaliana* (L.) Heynh. （シロイヌナズナにおける花粉発達と花粉表層形成に関する研究）	中川　強 赤間　一仁 明石　欣也
	資源利用化学	26	田﨑　英祐	Antioxidant System Contributes to Cellular Protection and Long-Life （抗酸化システムは細胞保護と長寿命に貢献する）	井内　良仁 小林　淳 松崎　貴
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	26後	ZERIHUN NIGUSSIE GEBRESILASIE	Determinants of small-scale farmers’ perception to soil erosion and their adoption of land management practices in north-western Ethiopia （エチオピア北西部における小規模農家の土壌侵食に対する認識および土地管理策の選択に関する決定要因）	恒川　篤史 能美　誠 増永　二之
		26後	AWAD AHMED ELAWAD ELBASHIR	Exploitation and utilization of multiple synthetic derivatives population for breeding wheat with heat stress tolerance （高温ストレス耐性コムギの育種のための多重合成派生集団の開拓と利用）	辻本　壽 明石　欣也 執行　正義
		27	ALEMU DAGNENET SULTAN	Impact of soil and water conservation interventions on runoff response under contrasting agro-ecologies of Upper Blue Nile basin, Ethiopia （エチオピア青ナイル川上流域の対照的な農業生態系における土壌・水保全策が流出応答に及ぼす影響）	恒川　篤史 Nigussie Haregeweyn Ayehu 増永　二之

国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	27	LIU JIAQI	Development and application of a compact and simple wind tunnel for blown sand experiment （飛砂実験のための小型簡易風洞の開発とその応用）	木村　玲二 安田　　裕 増永　二之
		27	KUNDU CAROLINE AGAMALA	Characterization of paddy soils for fertility based interventions in Kenya （ケニアにおける土壌肥沃度に基づく土壌管理のための水田土壌の特性づけ）	増永　二之 佐藤　邦明 山本　定博

3　論文提出者（3名）

学位記番号	申請者氏名	論　文　題　目	学位論文審査委員会主査
乙 第130号	千布　拓生	自然公園における生物多様性に配慮した植生計画 （Biodiversity - oriented vegetation planning for natural park）	日置　佳之
乙 第131号	FARIHA JASIN MANSUR	Studies on oral colonization of periodontopathogenic bacterium *Eikenella corrodens* （歯周病原性細菌*Eikenella corrodens* の口腔内定着に関する研究）	阿座上弘行
乙 第132号	山浦　浩二	レタス栽培省力化のための機械化技術の開発に関する研究 （Development of Labor-saving Machine Technology for Lettuce Cultivation）	猪迫　耕二

第４章　就 職 状 況（学位取得者の就職先）

１　課程修了者（１６名）

専攻	講座	入学年度	氏　名	就職先
生物生産科学	農業生産学	25後	渡邊　美貴子	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センター　研究員
		26後	NUR AENI ARIYANTI	Universitas Negeri Yogyakarta　講師
		27前	枡川　貴紀	株式会社村上農園　総合職
	森林資源学	25前	大津　裕貴	未定
		26後	LISSA FAJRI YAYUSMAN	Center for Remote Sensing, Institut Teknologi Bandung University　研究員
		27前	BURAPAPOL KANSUMA	National Parks, Wildlife and Plant Conservation　技術者
		27前	DANDY ADITYA NOVRESIANDI	未定
	経済経営学・	27前	LI MINGYUAN	株式会社　大黒屋　販売及び通訳業務
生物資源科学	生物機能科学	26前	西野　耕平	株式会社メディカルプロテオスコープ　研究員
		26後	MOSTAFA AHMED ABOULELA MOHAMED	Assiut University　講師
	資源利用化学	26前	田﨑　英祐	京都大学　特定研究員
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	26後	ZERIHUN NIGUSSIE GEBRESILASIE	Bahir Dar University　助教
		26後	AWAD AHMED ELAWAD ELBASHIR	Agricultural Research Corporation　研究員
		27前	ALEMU DAGNENET SULTAN	Bahir Dar University　准教授
		27前	LIU JIAQI	鳥取大学乾燥地研究センター　プロジェクト研究員
		27前	KUNDU CAROLINE AGAMALA	Kenya Agricultural and Livestock Research Organization (KALRO)　研究員

２　論文提出者（３名）

学位記番号	氏　　名	就職先
乙 第130号	千布　拓生	株式会社地域環境計画
乙 第131号	FARIHA JASIN MANSUR	未定
乙 第132号	山浦　浩二	未定

平成２９（２０１７）年度前期連合一般ゼミナール（日本語）日程表

会場　各連合農学研究科及び構成大学の遠隔講義システム設置室

Place: Video conference room of each University

8:30　9:00　9:10　10:40　10:50　12:20　13:20　14:50　15:00　16:30　17:00

実施日程	準備 30 分	挨拶等 10 分	講　義 （90 分）	休憩 10分	講　義 （90 分）	昼休み 60 分	講　義 （90 分）	休憩 10 分	講　義 （90 分）	
6 月 14日 （水）	遠隔講義システムの立ち上げ	挨拶 連絡 事項等	**Lecture1** 「焼酎造りと微生物」 玉置　尚徳 （鹿児島大学農学部教授） Shochu production and related microorganisms TAMAKI, Hisanori (Kagoshima University)		**Lecture2** 「外生菌根菌ショウロの栽培研究」 霜村　典宏 （鳥取大学農学部教授） Cultivation study on the ectomycorrhizal mushroom *Rhizopogon roseolus* SHIMOMURA, Norihiro (Tottori University)		**Lecture3** 「ミトコンドリア DNA によるアホウドリおよびクマゲラの遺伝的多様性の解析」 黒尾　正樹 （弘前大学農学生命科学部教授） Analyses of genetic diversities of short-tailed albatross and black woodpecker KURO-O, Masaki (Hirosaki University)		**Lecture4** 「高機能性農業用フィルム」 西村　安代 （高知大学農林海洋科学部准教授） Highly Functional Film for Agricultural Greenhouse NISHIMURA, Yasuyo (Kochi University)	
6 月 15 日 （木）	遠隔講義システムの立ち上げ	連絡 事項等	**Lecture5** 「木質材料と木造建築の新技術」 小林　研治 （静岡大学学術院農学領域准教授） New technologies of wood based materials and timber structures KOBAYASHI, Kenji (Shizuoka University)		**Lecture6** 「持続可能な開発と農業」 山崎　亮一 （東京農工大学教授） Sustainable development and agriculture YAMAZAKI, Ryoichi (Tokyo University of Agriculture & Technology)		**Lecture7** 「日本における自然保護地域の意義について考える」 土屋　俊幸 （東京農工大学大学院農学研究院教授） Considering roles of protected areas in Japan TSUCHIYA, Toshiyuki (Tokyo University of Agriculture and Technology)		**Lecture8** 「リンゴのゲノム改変」 小森　貞男 （岩手大学農学部教授） Genome editing in apple KOMORI, Sadao (Iwate University)	
6 月 16 日 （金）	遠隔講義システムの立ち上げ	連絡 事項等	**Lecture9** 「甲状腺ホルモンの比較生化学」 岩澤　淳 （岐阜大学応用生物科学部教授） Comparative biochemistry of thyroid hormones IWASAWA, Atsushi (Gifu University)		**Lecture10** 「イネいもち病菌の非病原力遺伝子の遺伝解析」 草場　基章 （佐賀大学大学院農学研究科准教授） Genetic analysis of cultivar specific avirulence genes in rice blast fungus KUSABA, Motoaki (Saga University)		**Lecture11** 「樹木精油の有効利用について」 伊藤　和貴 愛媛大学大学院連合農学研究科教授） Utilization of the trees essential oil ITOH, Kazutaka (The United Graduate School of Agricultural Sciences Ehime University)		**Lecture12** 「食品由来腸内細菌代謝産物と病態発症との関係性」 清水　英寿 （島根大学生物資源科学部生命工学科准教授） The relationship between food-derived intestinal bacteria metabolites and disease onsets. SHIMIZU, Hidehisa (Shimane University)	

平成２９（２０１７）年度後期連合一般ゼミナール（英語）日程表

会場　各連合大学院及び構成大学の遠隔講義システム設置室

8:30　9:00　9:10　10:40　10:50　12:20　13:20　14:50　15:00　16:30　17:00

実施日程	準備 30 分	挨拶等 10 分	講　義 （90 分）	休憩 10 分	講　義 （90 分）	昼休み 60 分	講　義 （90 分）	休憩 10 分	講　義 （90 分）	
2017.11.15 (Wed) 11 月 15 日 （水）	遠隔講義システムの立ち上げ	挨拶 連絡 事項等	**Lecture 1** Applied research of functional peptides toward practical application IWASAKI, Takashi (Tottori University) 「機能性ペプチドの産業応用研究」 岩﨑　崇 （鳥取大学農学部准教授）		**Lecture 2** Enzymes involved in sulfur-containing compounds biosynthesis KATO, Shin-ichiro (Kochi University) 「含硫化合物の生合成に関わる酵素の特性」 加藤　伸一郎 (高知大学総合研究センター准教授)		**Lecture 3** Impact of climate change on water resources in monsoon Asia FUJII, Hideto (Yamagata University) 「気候変動がアジアモンスーン地域の水資源に与える影響」 藤井　秀人 （山形大学農学部教授）		**Lecture 4** Diversity of flower color in floricultural plants NAKATSUKA, Takashi (Shizuoka University) 「花弁園芸作物における花色の多様性」 中塚　貴司 （静岡大学学術院農学領域助教）	
2017.11.16 (Thu) 11 月 16 日 （木）	遠隔講義システムの立ち上げ	連絡 事項等	**Lecture 5** Animal husbandry and applied technologies in South America ACOSTA AYALA, Tomas Javier (Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine) 「南米における畜産業及び応用技術」 アコスタ　アヤラ　トマス　ハビエル （帯広畜産大学畜産フィールド科学センター准教授）		**Lecture 6** Development of eradicating gear and methods for Japanese invasive swimming crabs Miguel VAZQUEZ ARCHDALE (Kagoshima University) 「日本発外来ワタリガニの根絶漁具開発について」 バスケス･アーチデイル　ミゲル （鹿児島大学水産学部教授）		**Lecture 7** The structure of meat proteins and their processing properties MIYAGUCHI, Yuji (Ibaraki University) 「食肉タンパク質の構造および加工特性」 宮口　右二 （茨城大学農学部教授）		**Lecture 8** Grain Nutrition for monogastric farm animal YAMAMOTO, Akemi (Gifu University) 「単胃家畜における穀物栄養」 山本　朱美 （岐阜大学応用生物科学部教授）	
2017.11.17 (Fri) 11 月 17 日 （金）	遠隔講義システムの立ち上げ	連絡 事項等	**Lecture 9** Insect Viruses and Biotechnology KOBAYASHI, Jun (Yamaguchi University) 「昆虫ウイルスとバイオテクノロジー」 小林　淳 （山口大学大学院創成科学研究科教授）		**Lecture 10** Formation of functional food powder by spray drying YOSHII, Hidefumi (Kagawa University) 「噴霧乾燥による機能性食品粉末の創製」 吉井　英文 （香川大学農学研究科教授）		**Lecture 11** Comparison between Western and Eastern historical views of sustainability (Nachhaltigkeit) principles of forest use SHIBA, Masami (University of the Ryukyus) 「森林利用の持続性（Nachhaltigkeit）原則に関する東西の歴史観の比較」 芝　正己 （琉球大学農学部教授）		**Lecture 12** Structure and function of carbohydrate hydrolyzing enzymes TONOZUKA, Takashi (Tokyo University of Agriculture and Technology) 「糖質加水分解酵素の構造と機能」 殿塚　隆史 （東京農工大学大学院農学研究院教授）	

平成２９年度各専攻特論 開講表

開講日	時 間	番 号	講義題目及び講師名			備考
	9:25-9:30				「研究科長挨拶」	
８月１日（火） 1st Aug. (Tue.)	9:30 ～ 11:45	Lecture １－１	生物生産科学特論Ⅱ	Advanced Bioproduction Science Ⅱ	「Mega-urbanization and its influences on the suburban landscape changes in Asian region using remotely sensed data」 (アジアの巨大都市の拡大と近郊地域における農村景観の変遷 - 衛星リモートセンシングによる解析) 長澤　良太　Ryota NAGASAWA　(鳥取大学)	各135分 135mins 英語 English
	12:45 ～ 15:00	Lecture １－２			「Evaluation and Application of Evergreen Azalea Resources of Japan」 (本邦のツツジ遺伝資源の評価と活用) 小林　伸雄　Nobuo KOBAYASHI　(島根大学)	
	15:00 ～ 17:15	Lecture １－３			「Economic Growth, and Japanese Agriculture and Rural Region」 (経済成長と日本の農業・農村) 能美　誠　Makoto NOHMI　(鳥取大学)	
８月２日（水） 2nd Aug. (Wed.)	9:30 ～ 11:45	Lecture ２－１	生物環境科学特論Ⅰ	Advanced Bioenvironmental Science Ⅰ	「きのこにおける子実体発生中の遺伝子発現」 (Gene expression during fruiting body development in mushrooms) 會見　忠則　Tadanori AIMI　(鳥取大学)	各135分 135mins 日本語 Japanese
	12:45 ～ 15:00	Lecture ２－２			「誘電率水分計の基礎と応用」 (Foundation and application of dielectric moisture sensors) 猪迫　耕二　Koji INOSAKO　(鳥取大学)	
	15:00 ～ 17:15	Lecture ２－３			「湖沼水環境に対する河川流域の影響」 (Influence of river watershed against lake water environment) 宗村　広昭　Hiroaki SOMURA　(島根大学)	
８月３日（木） 3rd Aug. (Thur.)	9:30 ～ 11:45	Lecture ３－１	生物資源科学特論Ⅱ	Advanced Bioresources Science Ⅱ	「Regulation of gene expression in response to oxidative stress in higher plants」 (高等植物の酸化的ストレス応答における遺伝子発現制御) 藪田　行哲　Yukinori YABUTA　(鳥取大学)	各135分 135mins 英語 English
	12:45 ～ 15:00	Lecture ３－２			「Control mechanisms of hair regenelation」 (毛髪再生の調節機構) 松崎　　貴　Takashi MATSUZAKI　(島根大学)	
	15:00 ～ 17:15	Lecture ３－３			「Analysis of polyphenolic antioxidants from regional bioresources and their health benefits」 (地域の生物資源に由来するポリフェノール性抗酸化物質の分析と健康機能) 横田　一成　Kazushige YOKOTA　(島根大学)	
８月４日（金） 4th Aug. (Fri.)	9:30 ～ 11:45	Lecture ４－１	国際乾燥地科学特論Ⅰ	Advanced Global Arid Land Science Ⅰ	「乾燥地の灌漑農地における土壌塩類化の実態と要因解析」 (Influence of soil properties and irrigation water quality on soil salinization/sodication in irrigated farmlands of arid regions) 遠藤　常嘉　Tsuneyoshi ENDO　(鳥取大学)	各135分 135mins 日本語 Japanese
	12:45 ～ 15:00	Lecture ４－２			「乾燥地の気候と風食、黄砂」 (Climate, wind erosion, and aeolian dust in drylands) 黒崎　康典　Yasunori KUROSAKI　(鳥取大学)	
	15:00 ～ 17:15	Lecture ４－３			「乾燥地における微生物の生態と利用」 (Ecology and use of microorganisms in drylands) 谷口　武士　Takeshi TANIGUCHI　(鳥取大学)	

鳥取大学大学院連合農学研究科
The United Graduated School of Agricultural Sciences, Tottori University

場　所
Venue

鳥取大学農学部１号館１Ｆ　連大セミナー室
Faculty of Agriculture building No. 1, 1F UGSAS Seminar room, Tottori University

島根大学生物資源科学部２号館６Ｆ視聴覚室
Faculty of Life and Environmental Science building No. 2, 6F Audiovisual room, Shimane University

山口大学連合獣医学研究科棟４Ｆ　第１講義室
The United Graduate School of Veterinary Science building 4F Room No.1, Yamaguchi University

平成29年度　鳥取大学大学院連合農学研究科「科学コミュニケーション」日程表（案）

Schedule of the "Academic Communication of Science" 2017

場所：島根県立青少年の家（サン・レイク）
Place：Shimane Prefectural Youth Center SUN LAKE

		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1st day	第1日目 10月25日（水） Oct. 25 (Wed)					バス申込者は10:50までに事務局前に集合 Bus service at 10:50 from Administration Bureau (Tottori Univ.)	バス申込者は13:00までに松江駅前ユニバーサルホテル前に集合 Bus service at 13:00 at Universal Hotel Matuse main bldg. (JR Matsue Station)	受付 Registration	開講式 Opening Ceremony	口頭発表 Oral Presentation ① 進行 Chair 吉清　恵介氏（島根大学） Dr. Keisuke Yoshikiyo (Shimane Univ.) 林　昌平氏（島根大学） Dr. Shohei Hayashi (Shimane Univ.)		自由時間 Free Time	夕食 Supper	入浴 Bath Time		ポスターコアタイム① Poster Presentation ①	消灯 Lights-out
2nd day	第2日目 10月26日（木） Oct. 26 (Thu)	起床&清掃 Wake-up & Cleaning	朝食 Breakfast	口頭発表 Oral Presentation ② 進行 Chair 吉清　恵介氏（島根大学） Dr. Keisuke Yoshikiyo (Shimane Univ.) 林　昌平氏（島根大学） Dr. Shohei Hayashi (Shimane Univ.)			昼食 Lunch	自由時間 Free time	特別講義 Special Lecture 講師：工藤　昭英氏 （東京農工大学・大学院システム応用学府・リーディング大学院プログラム・客員教授） Dr. Akihide Kudoh (Prof., Leading Graduate School Program, Tokyo University of Agriculture & Technology) 「Business, Innovation and Negotiation」*		特別講義 Special Lecture 講師：ホーク・フィリップ氏 （静岡県立大学・薬学部・科学英語分野・講師） Dr. Philip Hawke (Associate Prof., Scientific English Program, Graduate School of Integrated Pharmaceutical and Nutritional Sciences, University of Shizuoka) 「Tell your scientific story clearly and simply: Five ways to make your oral presentations more effective」**		自由時間 Free Time	夕食 Supper	入浴 Bath Time	懇親会 Mixer	ポスターコアタイム② Poster Presentation ②	消灯 Lights-out
3rd day	第3日目 10月27日（金） Oct. 27 (Fri)	起床&清掃 Wake-up & Cleaning	朝食 Breakfast	★	若手研究者特別セミナー Young scientist seminar 吉清　恵介氏 Dr. Keisuke Yoshikiyo 林　昌平氏 Dr. Shohei Hayashi	アンケート記入 質疑応答 Questionnaire プレゼンテーション賞発表 Presentation Award	片付清掃 Cleaning	解散 Breakup バス申込者を松江駅まで送迎 Bus service to Tottori Univ. via JR Matsue Station									

＊：『ビジネス、イノベーションと交渉術』
＊＊：『科学をクリアー＆シンプルに語る：口頭発表をより効果的にするための5つの法則』

★記念撮影（8:45 玄関前集合・雨天時は玄関ホール）
Commemorative photo : In front of the Main Entrance at 8:45 (In case of rain, at Entrance Hall)

第２部　教員の研究活動

第２部　教員の研究活動

第１章　公　表　論　文

1 生物生産科学専攻

1）農業生産学連合講座

【鳥取大学】

著　書

1) 竹村圭弘：マメナシ台木による発芽不良の抑制効果．最新農業技術・『果樹 vol.10』(ISBN:978-4-540-17055-3)．農山漁村文化協会，東京，pp. 181-184（2017 年 6 月）
2) 田村文男：ニホンナシの果肉障害発生とこれまでの研究成果，園芸学研究 **16**：1-10（2017 年 6 月）

論　文

1) Zhu, G., Hayashi, M., Shimomura, N., Yamaguchi, T. and Aimi, T.: Differential expression of three α-amylase genes from the basidi omycetous fungus *Pholiota microspora*. Mycoscience, **58**: 188-191 (May, 2017)
2) Kirimura, S., Kondo, K., Nakata, N., Yamaguchi, T., Nonami, K. and Matsuzoe, N.: The effect of shading against strong solar radiation during high-temperature seasons on the growth, quality, and mineral content of Mizuna (*Brassica rapa* L. Japonica Group) in a hydroponic system. Journal of Japanese Society of Agricultural Technology Management, **24**: 17-24 (Jun., 2017)
3) Sasaki, K., Fujita, D., Koide, Y., Lumanglas, P.D., Gannaban, R.B., Tagle, A.G., Obara, M., Fukuta, Y., Kobayashi, N. and Ishimaru, T.: Fine mapping of a quantitative trait locus for spikelet number per panicle in a new plant type rice and evaluation of a near-isogenic line for grain productivity". Journal of Experimental Botany, **68**: 2693-2702. doi: 10.1093/jxb/erx128 (May, 2017)
4) Tomita, A., Sato, T., Uga, Y., Obara, M. and Fukuta, Y.: Genetic variation of root angle distribution in rice (*Oryza sativa* L.) seedlings. Breeding Science **67**: 181-190. doi: 10.1270/jsbb.16185 (Jun., 2017)
5) 井手上達彦・近藤謙介・中田昇・山口武視・野波和好：追肥量の違いが初夏どり茎ブロッコリーの生育，収量，アスコルビン酸含量，全糖含量，および硝酸イオン濃度に及ぼす影響．農業生産技術管理学会誌 **24**: 61-67（2017 年 9 月）
6) Khan, M.A.I., Latif, M.A., Khalequzzaman, M., Tomita, A., Ali, M.A. and Fukuta, Y.: Genetic variation of resistance to blast (*Pyricularia oryzae* Cavara) in rice (*Oryza sativa* L.) germplasms of Bangladesh. Breeding Scince, **67**: 493-499. doi: 10.1270/jsbbs.17039 (Dec., 2017)
7) 中原浩貴・足立里奈・近藤謙介・安萍・松添直隆：塩処理条件下における異なる栽培温度と $CaCl_2$ 添加が塩生植物 *Suaeda salsa* の生育と無機成分吸収に及ぼす影響．日本砂丘学会誌，**64**: 39-48（2017 年 12 月）
8) Odjo, T., Koide, Y., Silue, D., Yanagihara, S., Kumashiro, T. and Fukuta, Y.: Genetic variation in blast resistance in rice germplasm from West Africa. Breeding Science, **67**: 500-508. doi: 10.1270/jsbbs.17051 (Dec., 2017)
9) Tanaka, H., Nabeuchi, C., Kurogaki, M., Garg, M., Saito, M., Ishikawa, G., Nakamura, T. and Tsujimoto, H.: A novel compensating wheat–*Thinopyrum elongatum* Robertsonian translocation line with a positive effect on flour quality. Breeding Science, **67**: 509-517 (Dec., 2017)
10) Koide, Y., Obara, M., Yanagihara, S. and Fukuta, Y.: Identification of QTLs for agronomic characteristics in an upland New Rice for Africa (NERICA) variety. JARQ **52**: 29-37 (Jan., 2018)

【島根大学】

著　書

1) Matsumoto, T. and Niino, T.: Development of vitrification method, Manual of Cryopreservation Methods using Cryo-plate ((Edited by Niino, T., et al., ISBN: 978-4-924843-85-1), Plant Tissue Culture and Cryopreservation Group, Jalisco, pp. 8-15 (Apr., 2017)
2) Asao, T. and Asaduzzaman, M.: Amino Acid-New Insights and Roles in Plant and Animal. (Edited by Asao, T., Asaduzzaman, Md, ISBN: 978-953-51-3241-7), INTECH, Croatia, pp. 284 (Jun., 2017)
3) 松本真悟 : 地力の意義. 土壌サイエンス入門（木村真人・南條正巳編, ISBN: 978-4-8300-4135-8C3061）. 文永堂出版，東京，pp. 225-226（2018 年 2 月）

論　文

1) Cheon, K.S., Nakatsuka, A., Tasaki, K. and Kobayashi, N.: Floral morphology and MADS gene expression in double-flowered Japanese evergreen azalea. The Horticulture Journal, **86**: 269-276 (Apr., 2017)
2) Dhungana, S.A., Kunitake, H., Niino, T., Yamamoto, S., Fukui, K., Tanaka, D., Maki, S. and Matsumoto, T.: Cryopreservation of blueberry shoot tips derived from in vitro and current shoots using D cryo-plate technique. Plant Biotechnology, **34**: 1-5 (Apr., 2017)
3) 鶴永陽子・高橋哲也・松本真悟・永田善明・吉野勝美：天然ウップルイノリの色調，食感，ミネラル含量，揮発成分ならびに形状．日本食品保蔵科学会誌，**43**：63-70（2017 年 4 月）
4) Yamakia, T., Otani, M., Ono, K., Mimura, T., Oda, K., Minamii, T., Matsumoto, S., Matsuo, Y., Kawamukai, M. and Akihiro, T.: Isolation and characterization of rice cesium transporter genes from a rice‐transporter‐enriched yeast expression library. Physiologia Plantarum, **160**: 425-436 (May, 2017)
5) Berruti, A., Demasi, S., Lumini, E., Kobayashi, N., Scariot, V. and Bianciotto, V.: Wild *Camellia japonica* specimens in the Shimane prefecture (Japan) host previously undescribed AMF diversity. Applied Soil Ecology, **115**: 10-18 (Jul., 2017)
6) Takahashi, T., Tsurunaga, Y., Schmidt, W.F. and Yoshino, K.: Functional evaluation of horse chestnut seed and its application in the production of compounded paper for effective utilization of an untapped resource. Journal of Wood Science, **63**: 484-495 (Jul., 2017)
7) Katayama-Ikegami, A., Suehiro, Y., Katayama, T., Jindo, K., Itamura, H. and Esumi, T.: Recombinant expression, purification, and characterization of polyphenol oxidase 2 (VvPPO2) from “Shine Muscat” (*Vitis labruscana* Bailey × *Vitis vinifera* L.). Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **81**: 2330-2338 (Sep., 2017)
8) Ohata, K., Togano, Y., Matsumoto, T., Uchida, Y., Kurahashi, T. and Itamura, H.: Selection of prune (*Prunus domestica* L.) cultivars suitable for the East Asian temperate monsoon climate: Ripening characteristics and fruit qualities of certain prunes in a warm southwest region of Japan. The Hoticulture Journal, **86**: 437-446 (Oct., 2017)
9) 郷原優・千慶晟・中務明・小林伸雄：日本の常緑性ツツジ品種における見染性形質の花器形態と遺伝性．園芸学研究，**16**: 383-390（2017 年 10 月）
10) Kobayashi, N., Sugai, K., Tsuji, T. and Nakatsuka, A.: Genetic relationship of *Rhododendron ripense* Makino to Japanese evergreen azalea cultivars evaluated by SSR markers. Journal of Plant Genetics and Breeding, **1**: 101-103 (Dec., 2017)
11) Ariyanti, N.A., Torikai, K., Kirana, R.P., Hirata, S., Sulistyaningsih, E., Ito, S., Yamauchi, N., Kobayashi, N. and Shigyo, M.: Comparative study on phytochemical variations in Japanese F1 varieties of bulb onions and South-East Asian shallot landraces. The Horticulture Journal, **87**: 63-72 (Jan., 2018)
12) Cheon, K.S., Nakatsuka, A., Tasaki, K. and Kobayashi, N.: Long-lasting corolla cultivars in Japanese azaleas. -A mutant AP3/DEF homologue identified in traditional azalea cultivars from more than 300 years ago. Frontiers in Plant Science, **8**: 2239 (Jan., 2018)
13) Masukawa, T., Cheon, K.S., Mizuta, D., Nakatsuka, A. and Kobayashi, N.: Insertion of a retrotransposon into a *flavonoid 3'-hydroxylase* homolog confers the red root character in the radish (*Raphanus sativus* L. var. *longipinnatus* LH Bailey). The Horticulture Journal, **87**: 89-96 (Jan., 2018)

14) Tanaka, H., Murai, K., Nakanishi, T., Tezuka, T., Shiozaki, S. and Oda, M.: Storage of plug seedlings of tomato under limited fertilization and growth, flowering and yield after planting. The journal of Horticultural Science and Biotechnology, 2018 (published online DOI: 10.1080/14620316.2018.1439408) (Jan., 2018)
15) Itamura, H., Yoshibayashi, R., Ohata, H., Hashimoto, H., Morihara, T., Sun, N., Esumi, T. and Nakatsuka, A.: 'Sixth Industrialization' of 'Saijo' persimmon: development of products for alleviating drunkenness. Acta Horticulturae, **1195**: 161-168 (Mar., 2018)
16) Nakatsuka, A., Sun, N., Esumi, T. and Itamura, H.: Effect of defoliation and wounding on expression of pectic polysaccharide-degrading enzyme genes in immature 'Hiratanenashi' persimmon fruit on the tree. Acta Horticulturae, **1195**: 239-242 (Mar., 2018)
17) 鶴永陽子・斉藤真苗・安木健人・高橋哲也：冷凍貯蔵されたクリ新品種‘ぽろたん’の付加価値加工品の技術開発．日本食品科学工学会誌，**65**：111-117（2018 年 3 月）
18) 鶴永陽子・斉藤真苗・安木健人・高橋哲也：クリ新品種‘ぽろたん’の貯蔵条件が甘露煮の品質に及ぼす影響．日本食品科学工学会誌，**65**：104-110（2018 年 3 月）

その他

1) Kobayashi, N. and Kurashige, Y.: The secret vivid-red azalea in Noto peninsula, Japan -Noto Kirishima Azalea Guide book- (ISBN: 978-4-9908297-1-1). The Laboratory of Plant Breeding, Faculty of Life and Environmental Science, Shimane University, Shimane, 39p. (Mar., 2018)
2) 松本真悟：雲州人参産地再生プロジェクト．平成 28 年度戦略的機能強化推進経費成果報告書，pp.2-7（2018 年 3 月）

【山口大学】

著　書

1) 山本晴彦：帝国日本の気象観測ネットワーク Ⅳ 樺太庁（ISBN：978-4897323671）．農林統計出版，東京，377p.（2017 年 6 月）
2) 山本晴彦：帝国日本の気象観測ネットワーク Ⅴ 南洋庁（ISBN：978-4897323756）．農林統計出版，東京，262p.（2017 年 12 月）

論　文

1) 谷中美貴子・高田兼則・船附雅子・石川直幸・高橋肇：日本麺用コムギにおける *Glu-A1* と *Glu-D1* 座支配のグルテニンサブユニット構成，タンパク質含有率の違いが製麺適性に及ぼす影響．日本作物学会紀事，**86**：169-176（2017 年 4 月）
2) Anzai, H, Oishi, K., Kumagai, H., Hosoi, E., Nakanishi, Y. and Hirooka, H.: Interspecific comparison of allometry between body weight and chest girth in domestic bovids. Scientific Report **7**(1): 4817. doi:10.1038/s41598-017-04976-z (Jul., 2017)
3) Abdelrahman, M., El-Sayed, M., Sato, S., Hirakawa, H., Ito, S., Tanaka, K., Mine, Y., Sugiyama, N., Suzuki, Y., Yamauchi, N. and Shigyo, M.: RNA-sequencing-based transcriptome and biochemical analyses of steroidal saponin pathway in a complete set of *Allium fistulosum* - *A. cepa* monosomic addition lines, PLoS ONE, **12**(8) e0181784, doi: 10.1371/journal.pone.0181784 (Aug., 2017)
4) Sun, Z., Wang, X., Yamamoto, H., Tani, H., Zhong, G., Yin, S.: An attempt to introduce atmospheric CO_2 concentration data to estimate the gross primary production by the terrestrial biosphere and analyze its effects, Ecological Indicators, **84**: 218-234 (Aug., 2017)
5) 鎌田英一郎・高橋肇・稲葉俊二・荒木英樹・丹野研一：山口県の中山間地におけるコムギ・裸麦 4 品種の収量性からみた播種適期．日本作物学会紀事，**86**：375-381（2017 年 10 月）
6) 山本晴彦・山崎俊成・坂本京子・山下奈央：2017 年 7 月 5 日に発生した九州北部における豪雨と災害の特徴．自然災害科学，**36**(3)：257-279（2017 年 11 月）

7) 南拓人・高山 成・山本晴彦・山崎俊成・王秀峰：人工衛星による中国黒龍江省松嫩平原における稲作拡大状況のマッピング．日本農業気象学会近畿支部講演論文集，**10**：8-13（2017 年 12 月）
8) Nomura, M., Aiamla-or, S., Tanaka, S., Shigyo, M., Masuda, Y. and Yamauchi, N.: Effect of Reactive Oxygen Species on Quality Maintenance of Broccoli Florets with Electrostatic Atomized Water Particle Treatment, Food Chemistry, **237:** 749-755 (Dec., 2017)
9) 山本晴彦:わが国で発生する豪雨災害の特徴と洪水により被災した住宅地の土地利用変遷. 安全工学, **56**(6)：447-454（2017 年 12 月）
10) 山本晴彦・山崎俊成・坂本京子・山下奈央：2017 年台風 18 号により大分県中南部で発生した豪雨と洪水災害の特徴．自然災害科学，**36**(4)：381-397（2018 年 2 月）
11) 山崎俊成・山本晴彦・王秀峰・高山 成：中国東北部の寒冷地帯における稲作拡大の要因解析 第 3 報 温暖化による稲作期拡大および冷害リスク低減への影響評価．自然災害研究協議会中国地区部会研究論文集，**4**：41-44（2018 年 3 月）
12) 南家進吾・山本晴彦・山崎俊成・高山成・王秀峰：中国内蒙古自治区における降水量の長期変動解析．自然災害研究協議会中国地区部会研究論文集，**4**：51-54（2018 年 3 月）

その他

1) 執行正義：新しい LED 光照射技術と植物工場．アグリバイオ，**7:** 96-99（2017 年 7 月）
2) 執行正義：植物工場における光利用．電気評論，**102:** 30-34（2017 年 9 月）
3) 執行正義：ネギ類オミクス研究の最新情報．アグリバイオ，**11:** 24-27（2017 年 10 月）

2）森林資源学連合講座

【鳥取大学】

著　書

1) 日置佳之：都市の生物多様性指標は緑地計画に寄与するか？ランドスケープ研究 **81**(4) : 356-359（2018 年 1 月）
2) 日置佳之：緑道論集．pp.91．鳥取（2018 年 2 月）

論　文

1) Novresiandi, D.A. and Nagasawa, R.: C-Band Dual-Polarization Synthetic Aperture Rader Application for Peat Depth Classification: A Case Study in Siak Regency, Riau Province, Indonesia. Progress In Electromagnetics Research M, **61**: 29-41(Jun., 2017)
2) 千布拓生・日置佳之：自然公園における生物多様性保全に配慮した植生計画の策定手法の検討－大山隠岐国立公園奥大山地区を事例として－．景観生態学．**22**(1)（2017 年 7 月）
3) Haga, H., Moriishida, T., Morishita, N. and Fujimoto, T.: Properties of small instream wood as a logjam clogging agent: Implications for clogging dynamics based on wood density, water content, and depositional environment. Geomorphology, **296**: 1-10 (Aug., 2017)
4) 辻真弥・日置佳之：種特性からみた外来植物の侵略性評価モデルの作成．日本緑化工学会誌．**43**(1)：33-38（2017 年 8 月）
5) Sugii, S., Fujimoto, T., Tsutsumi, H., Inagaki, T. and Tsuchikawa, S.: Dynamic behavior of wood chemical components under drying process measured by near-infrared spectroscopy. Journal of Near Infrared Spectroscopy, **25**: 400-406 (Sep., 2017)
6) 堤晴彩・織辺俊爾・芳賀弘和・藤本高明：振動スペクトルに基づいた立木材質の非破壊推定．木材学会誌，**63**：291-296（2017 年 11 月）

7) 福本桂子・太田徹志・溝上展也・岩永史子・吉田茂二郎・寺岡行雄・加治佐剛：下刈り回数，斜面方位および植栽密度の違いがスギ植栽木の枯死および誤伐に与える影響．森林計画学会誌, **51**: 1-7（2017 年 12 月）
8) Iwasato, M. and Nagamatsu, D.: Plant species diversity and habitat conditions in a protected large coastal dune area of western Japan. Lnadscape and Ecological Engineering, **14**: 99-113 (Jan., 2018)
9) Rrima, R.M. and Nagasawa, R.: Identification and Classification of Complex Agricultural Croplands Using Multi-Temporal ALOS-2/PALSAR-2 Data. Journal of Agricultural Science, **10**(2): 58-70 (Feb., 2018)

その他

1) 永松大・土江芙美・坂田成孝・冨森加耶子：鳥取市多鯰ヶ池湖岸の植物相と保全上の問題点．山陰自然史研究，**14**：1-8（2017 年 4 月）
2) 永松大・清末幸久・矢田貝繁明・坂田成孝・時岡昭人：鳥取県内におけるヒメノヤガラとミヤマツチトリモチの新規確認．山陰自然史研究，**14**：31-33（2017 年 4 月）
3) 米田亜沙美・岩永史子・Chiu Chen-Wei・沖田総一郎・山中典和・山本福壽：イタヤカエデの樹液溢出量と樹液流速の関係および環境変動の観察，樹木医学研究，**21**：71-72（2017 年 4 月）
4) 日置佳之：台湾の自然保護区の緑道．グリーンエイジ，**521**：32-35（2017 年 5 月）
5) 日置佳之：パリの緑道．グリーンエイジ，**522**：32-35（2017 年 6 月）
6) 日置佳之：マドリッド・リオ・パーク －世界最大級の都心部帯状公園化事業－．グリーンエイジ，**523**：39-40（2017 年 7 月）
7) 日置佳之：生態系ネットワークの形成に人の利用や働きかけが果たす役割－生態的回廊と緑道の関係を通して考察－．グリーンエイジ，**524**：10-13（2017 年 8 月）
8) 日置佳之：大河川の緑道．グリーンエイジ，**525**：41-44（2017 年 9 月）
9) 沖田総一郎・谷口真吾・谷口武士・岩永史子・山本福壽・山中典和：酸欠と塩ストレスがマングローブ 2 種の苗木の成長と生理に及ぼす影響．樹木医学研究，**21**：193-200（2017 年 10 月）
10) 日置佳之：法令からみた緑道．グリーンエイジ，**527**：36-39（2017 年 11 月）
11) 日置佳之：観光都市の緑道．グリーンエイジ，**528**：26-29（2017 年 12 月）
12) 日置佳之：緑道の標識．グリーンエイジ，**529**：26-29（2018 年 1 月）
13) 日置佳之：天井川の緑道．グリーンエイジ，**530**：28-31（2018 年 2 月）

【島根大学】

著　書

1) 伊藤勝久：農業・農村の新しい取り組み（第 6 章），森林・林業の新しい取り組み（第 7 章），農山村のコミュニティー（第 10 章），都市と農山村の比較検討（第 15 章）．伊藤勝久，『都市と農山村から見る身近な経済』（放送大学テキスト，伊藤勝久・坂田裕輔・新井圭太・坂井素思共著，ISBN: 978-4-595-31880-1）所収，放送大学教育振興会，296p，108-126（第 6 章），127-146（第 7 章），182-201（第 10 章），273-290（第 15 章），（2018 年 1 月）

論　文

1) 久保満佐子・小林美珠・石井利夫：山梨県甘利山の半自然草原における人為的管理が植物の開花に及ぼす影響．日本緑化工学会誌，**42**(4)：533-542（2017 年 5 月）
2) 久保満佐子・田中桃香・河野圭太：ニホンジカの採食下にある弥山山地の埋土種子組成．島根大学生物資源科学部研究報告，**22**：21-26（2017 年 9 月）
3) 飯塚康雄・大貫真樹子・久保満佐子・船久保敏：自然侵入促進工による緑化のり面に成立する植生と気候および施工要因の関係．日本緑化工学会誌，**43**(3)：484-498（2018 年 2 月）

その他

1) 伊藤勝久：「林家の経営マインドについて　―森林所有者アンケート結果の報告―Ⅰ」，山林 **1598**，pp.18-26，大日本山林会（2017 年 7 月）
2) 伊藤勝久：「森林の二酸化炭素吸収機能を考える～その意義と保全対策～」，NOSEIKEN **377**，pp.2-7，島根農政研究会（2017 年 7 月）
3) 伊藤勝久：「林家の経営マインドについて　―森林所有者アンケート結果の報告―Ⅱ」（完），山林 **1599**，pp.26-35，大日本山林会（2017 年 8 月）
4) 山下多聞・橋本哲・藤巻玲路・尾崎嘉信・葛西絵里香・黒崎勇人：三瓶演習林の土壌断面の観察．島根大学生物資源科学部研究報告，**22**：33-38（2017 年 9 月）
5) 久保満佐子・小林美珠・石井利夫：山梨県甘利山の半自然草原における人為的管理によるミヤコザサ *Sasa nipponica* 現存量の変化．日本緑化工学会誌，**43**(2)：382-384（2017 年 11 月）

3）経済・経営学連合講座

【鳥取大学】

著　書

1) 能美誠：農村地域における諸活動と住民流動の評価と展望―高齢化・人口減少時代のなかで―（ISBN978-4-89732-374-9）．農林統計出版，東京，210p. (2017 年 12 月)
2) 古塚秀夫：平飼い養鶏・無添加スイーツ・通販，地域連携によって切り開く地域活性化―鳥取県・有限会社ひよこカンパニー―．戦後日本の食料・農業・農村第８巻　食料・農業・農村の六次産業化（戦後日本の食料・農業・農村編集委員会編集，INBN:978-4-541-04171-5）．農林統計協会，東京，pp.173-195（2018 年 2 月）

論　文

1) 万里：牛肉価格の長期可変型周期変動分析，農業市場研究，**26**(1)：1-7（2017 年 6 月）
2) Siliphouthone, I. and Yasunobu, K.: Characteristics of social capital and its determinants in rural areas of Laos. Japanese Journal of Farm Management, **55**(2): 81-86 (Jul., 2017)
3) 李明圓・松田敏信：中国都市部と農村部における家計消費需要の比較―需要システムによる推定―．農業生産技術管理学会誌，**24**：51-60（2017 年 9 月）
4) 能美誠：農産物出荷・販売先に関する等質地域区分―重複許容型地域区分結果簡素化の試み―．農業経営研究，**5**(3)：59-64（2017 年 10 月）
5) 能美誠：広域圏内市町村の通勤・転居構造とその変化に関する考察―典型状態合成法の提示と適用―．農村計画学会誌，**36**（論文特集号）：296-303（2017 年 11 月）
6) 片野洋平・笠波春菜：外的情報を利用した危険家屋発生要因抽出の試み―混合研究法を用いた地域社会の事例から―．環境情報科学学術研究論文集，**31**：207-212（2017 年 11 月）
7) Dinku, S.Y. and Matsuda, T.: Regional effects on the demand for meat in Japan. Journal of the Japanese Society of Agricultural Technology Management, **24**: 103-117 (Dec., 2017)

その他

1) 片野洋平：「新林業時代 増える森林管理の放棄」．山陰中央日報，（2017 年 8 月）
2) 片野洋平：地域社会における放置される資産についての研究．鳥取大学環境報告書，pp.22（2017 年 9 月）

【島根大学】

論　文

1) 谷口桃子・石田章・井上憲一：母親の食育関心度と食行動との関連性および食育関心度の規定要因に関する考察．食農資源経済論集，**68**(2)：21-32（2017 年 10 月）

その他

1) 井上憲一：六次産業化に向けた域学連携，耕畜連携による集落営農放牧の展開条件．平成 29 年度島根大学農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター報告書，73-75（2018 年 3 月）
2) 井上憲一・保永展利・髙田晋史・松本敏一・板村裕之：ひと結びー松江の魅力再発見プロジェクトー．平成 29 年度島根大学農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター報告書，78-79（2018 年 3 月）

2 生物環境科学専攻

1）生産環境工学連合講座

【鳥取大学】

論　文

1) 緒方英彦・加藤諭・清水邦宏・金子英敏：無機系補修材料の付着強さ試験のためのアンカー治具および試験方法の開発に関する基礎的研究，コンクリート工学年次論文集，**39**(1)：1729-1734（2017 年 7 月）
2) 藤本光伸・兵頭正浩・緒方英彦：アンカー固定方式パネル工法におけるグラウト材充填時のアンカー引抜荷重に関する考察，コンクリート構造物の補修，補強，アップグレード論文報告集，**17**：581-586（2017 年 10 月）
3) 緒方英彦・加藤諭・清水邦宏・金子英敏・石神暁郎：アンカー引抜試験による表層部コンクリートの凍害劣化診断のための試験条件およびアンカー治具の開発に関する研究，コンクリート構造物の補修，補強，アップグレード論文報告集，**17**：669-674（2017 年 10 月）
4) 藤本光伸・兵頭正浩・緒方英彦：アンカー固定方式パネル工法におけるグラウト材充填時のアンカー引抜荷重に関する考察，アップグレードシンポジウム論文集，pp.581-586（2017 年 10 月）
5) Anzai, T., Goto, S., Ando, S., Inosako, K., Espanto, B.B.P. and Saito, T.: Utilization of nitrogen fertilizer in the early growth stage of sugarcane and leaching of nitrate-nitrogen: A case study on Negros Island, the Philippines. Tropical Agriculture and Development, **61**(4): 184-193 (Dec., 2017)
6) 兵頭正浩・石井将幸・緒方英彦・岸本圭司・畑中哲夫・奥田忠弘：ひび割れを付した RC 管に対する断面内剛性の評価．**85**(2)：I_185-I_190 農業農村工学論文集（2017 年 12 月）
7) 兵頭正浩・大山幸輝・井川秀樹・石井将幸・下庄里奈・緒方英彦：製品規格の変遷および製造業者の違いが RC 管の断面内剛性に与える影響評価，農業農村工学会論文集，**86**(1)：I_19-I_25（2018 年 1 月）

その他

1) Ooyama, K., Hyodo, M., Ogata, H. and Ishii, M.: Analysis by Internal Loading Method of Locally Loaded Centrifugal Reinforced Concrete Pipe, Asian Conference on Engineering and Natural Science, pp.167-174, February 06-08, Osaka (Jan., 2018)

【島根大学】

著　書

1) 谷野章：農業施設に関わる研究・技術の最近の展開－温室栽培における太陽光発電利用の動向－．農業施設，**49**：1-7（2018 年 3 月）

論　文

1) 杉谷優一・宗村広昭・武田育郎：宍道湖・中海へ流入する 2 河川における溶存態有機物の挙動. Laguna, **23**：47-58（2017 年 6 月）
2) 橋本健・矢島啓：気象条件の最大化による可能最大降水量(PMP)と可能最大洪水(PMF)の推定．水文・水資源学会誌，**30**(6)：356-372（2017 年 11 月）
3) Yajima, H. and Derot, J.: Application of random forest model for chlorophyll-a forecast in fresh and brackish water bodies in Japan, using multivariate long-term databases. Journal of Hydroinformatics, **20**(1): 206-220 (Nov., 2017)
4) 兵頭正浩・石井将幸・緒方英彦・岸本圭司・畑中哲夫・奥田忠弘：ひび割れを付した RC 管に対する断面内剛性の評価．**85**(2)：I_185-I_190 農業農村工学論文集（2017 年 12 月）
5) 増木新吾・矢島啓・管原庄吾：アオコ発生時のダム湖における集中観測から得られた水質の変動と栄養塩の関係．土木学会論文集，B1(水工学)，**74**(4)：I_367-372（2018 年 2 月）
6) 矢島啓・眞鍋幸嗣：袋川感潮域における下水処理水の放流が河川水質に与える影響．土木学会論文集 B1(水工学)，**74**(4)：I_379-384（2018 年 2 月）

その他

1) Cossu, M., Yano, A., Murgia, L., Ledda, L., Deligios, P.A., Sirigu, A., Chessa, F. and Pazzona, A.: Effects of the photovoltaic roofs on the greenhouse microclimate. Acta Horticulturae, **1170**: 461-468 (Jul., 2017)
2) Cossu, M., Ledda, L., Deligios, P.A., Sirigu, A., Murgia, L., Pazzona, A. and Yano, A.: Solar light distribution inside a greenhouse with the roof area entirely covered with photovoltaic panels. Acta Horticulturae, **1182**: 47-55 (Dec., 2017)

2）環境科学連合講座

【鳥取大学】

著　書

1) 前川二太郎：担子菌門・子嚢菌門．新分類牧野日本植物図鑑（邑田仁・米倉浩司編，ISBN: 978-4-8326-1051-4）．北隆館，東京，pp. 1407–1426（2017 年 6 月）
2) 早乙女梢・會見忠則：5 章 きのこの育種と遺伝子多様性の解析 第 1 節 きのこの育種・利用技術．きのこの生理機能と応用開発の展望（江口文陽監修，ISBN: 978-4-907002-66-4）．S&T 出版株式会社，東京，pp 158-163（2017 年 9 月）
3) 霜村典宏：菌根菌資源の可能性．きのこの生理機能と応用開発の展望（江口文陽監修，ISBN: 978-4-907002-66-4），S&T 出版株式会社，東京，pp 151-157（2017 年 9 月）
4) 児玉基一朗：トマト．乾燥地フォトブックシリーズ vol.2，乾燥地の有用植物　食べる植物（辻本壽・留森留士編，ISBN: 978-4-86611-106-3）．今井出版，鳥取，pp. 90-91（2018 年 2 月）
5) Ichiyanagi, T.: Recent synthetic approaches to inner-core oligosaccharides of lipopolysaccharides and lipooligosaccharides. Trends in Glycoscience and Glycotechnology, **30**, E25-E32, J11-J18 (Mar., 2018)

論　文

1) Gao, Q., Nakano, S., Aimi, T. and Shimomura, N.: Comparison of salt tolerance of ectomycorrhizal mushroom *Rhizopogon roseolus* in soil and on agar. Mushroom Science and Biotechnology, **25**: 17-22 (Apr., 2017)
2) Nogal-Prata, S., Maekawa, N., Matozaki, T., Dueñas, M., Martin, M.P. and Telleria, M.T.: Based on DNA sequences of ITS and *rpb2*, *Amylostereum orientale* is reported for the first time in Japan. Mycoscience, **58**: 169–173 (May, 2017)

3) Ube, N., Nishizaka, M., Ichiyanagi, T., Ueno, K., Taketa, S. and Ishihara, A.: Evolutionary changes in defensive metabolism in the Hordeum genus. Phytochemistry, **141**: 1-10 (May, 2017)
4) Zhu, G., Hayashi, M., Shimomura, N., Yamaguchi, Y., and Aimi, T.: Differential expression of three α-amylase genes from the basidiomycetous fungus *Pholiota microspora.* Mycoscience, **58**: 188-191 (May, 2017)
5) Ishihara, A., Kumeda, R., Hayashi, N., Yagi, Y., Sakaguchi, N., Kokubo, Y., Ube, N., Tebayashi, S. and Ueno, K.: Induced accumulation of tyramine, serotonin, and related amines in response to *Bipolaris sorokiniana* infection in barley. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **81**: 1090-1098 (Jun., 2017)
6) Cho, H., Kim, O., Lee, Y., Kang, L.J., Nguyen, C.N., Ishihara, A. and Kim, H.E.: Feruloylserotonin inhibits hydrogen peroxide-induced melanogenesis and apoptosis in B16F10 and SK-Mel-2 melanoma cells. Biochemical and Biophysical Research Communications, **491**: 973-979 (Sep., 2017)
7) Ube, N., Nishizaka, M., Ichiyanagi, T., Ueno, K., Taketa, S. and Ishihara, A.: Evolutionary changes in defensive specialized metabolism in the genus *Hordeum.* Phytochemistry, **141**: 1-11 (Sep., 2017)
8) Nakano, S., Gao, Q., Aimi, T. and Shimomura, N.: Improvement of basidiospore germination and mycelial growth of the ectomycorrhizal mushroom *Rhizopoon roseolus* in axenic conditions. Mushroom Science and Biotechnology, **25**: 94-99 (Oct., 2017)
9) Narita, K., Sato, H., Minami, A., Kudo, K., Gao, L., Liu, C., Ozaki, T., Kodama, M., Lei, X., Taniguchi, T., Monde, K., Yamazaki, M., Uchiyama and M., Oikawa, H.: Focused genome mining of structurally related sesterterpenes: enzymatic formation of enantiomeric and diastereomeric products. Organic letters **19**: 6696-6699 (Nov., 2017)
10) 米山彰造・安東夏都実・東智則・佐藤真由美・牛島秀爾・松本晃幸：タモギタケ胞子欠損性変異体に関する遺伝学的および細胞学的析．日本菌学会会報，**58**：41-50（2017 年 11 月）
11) Tanaka, K., Fukuda, M., Amaki, Y., Sakaguchi, T., Inai, K., Ishihara, A. and Nakajima, H.: Prumycin, produced by Bacillus amyloliquefaciens SD-32, is important in biocontrol against cucumber powdery mildew disease. Pest Management Science, **73**: 2419-2428 (Dec., 2017)
12) Burns, M., Hedin, M. and Tsurusaki, N.: Population genomics and geographical parthenogenesis in Japanese harvestmen (Opiliones, Sclerosomatidae, *Leiobunum*). Ecology and Evolution, **8**: 36–52 (Jan., 2018)
13) Ishihara, A., Ide, Y., Bito, T., Ube, N., Endo, N., Sotome, K., Maekawa, N., Ueno, K. and Nakagiri, A.: Novel tyrosinase inhibitors from liquid culture of *Neolentinus lepideus.* Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **82**: 22-30 (Jan., 2018)
14) 阿部寛史・田淵諒子・奥田康仁・松本晃幸：三つの異なる空間スケールにおける SSR マーカーを用いた外生菌根菌ショウロの遺伝構造解析．日本森林学会誌，**100**：8-14（2018 年 2 月）
15) Morimoto, N., Ueno, K., Teraishi, M., Okumoto, Y., Mori, N. and Ishihara, A.: Induced phenylamide accumulation in response to pathogen infection and hormone treatment in rice (*Oryza sativa*). Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **82**: 407-416 (Mar., 2018)
16) Ogura-Tsujita, Y., Gebauer, G., Hui, X.H., Fukasawa, Y., Umata, H., Tetsuka, K., Kubota, M., Schiebold, J.M.I., Yamashita, S., Maekawa, N., Maki, M., Isshiki, S. and Yukawa, Y.: The giant mycoheterotrophic orchid *Erythrorchis altissima* is associated mainly with a divergent set of wood-decaying fungi. Molecular Ecology, **27**: 1324–1337 (Mar., 2018)

その他

1) 鶴崎展巨・唐沢重考・柴田祥明・飯田礼康・越田佳苗・塚本錬平・長谷川和樹・福井順也・村瀬真史・和田将典：鳥取砂丘におけるハンミョウ 2 種の成虫の季節消長とエリザハンミョウの個体数推定（2016 年）．山陰自然史研究，**14**，pp. 9-16（2017 年 4 月）
2) 中桐昭：特集「カビ・きのこの学名、和名、その所以」はじめに：学名と和名．かびと生活，**10**：3-5（2017 年 12 月）
3) 宇部尚樹・石原亨：「今日の話題」イネ科植物における二次代謝の進化－スクラップ・アンド・ビルドによって二次代謝が多様になったー．化学と生物，**56**：73-75（2018 年 2 月）

【島根大学】

論　文

1) 桑原智之・山本祥平・吉田俊介・西政 敏・帯刀一美・佐藤利夫：竹チップ燃焼残渣からのカリウム回収の検討．廃棄物資源循環学会論文誌，**28**：50-57（2017 年 4 月）
2) 乾隆帝・赤松良久・高原輝彦・後藤益滋・一松晃弘：流水中におけるカワムツの生物量と環境 DNA 量の関係性－水路実験と野外への適用－．河川技術論文集，**23**：651-656（2017 年 6 月）
3) Kuwabara, T., Tsuboi, K., Yamamoto, S., Nishi, M., Tatewaki, K., Maeno, M., Yoshida, S. and Sato, T.: Phosphorus Recovery from Combustion Ash of Cow Dung Pellet and Sewage Sludge Pellet. Journal of the Society of Inorganic Materials, Japan, **24**: 191-199（Jul., 2017）
4) Tamura, T., Uchida, K. and Ueno, M.: Inhibitory activity of Buckwheat leaf extracts against the rice blast disease caused by *Magnaporthe oryzae*. Journal of Japanese Society of Agricultural Technology Management, **24**: 75-79 (Sep., 2017)
5) Arase, S., Roxana, Y.P., Kihara, J. and Ueno, M.: Elicitor(s) production is involved in red-light-induced resistance during spore germination of *Bipolaris oryzae* in the presence of host tissues. Journal of General Plant Pathology, **83:** 337-343 (Nov., 2017)
6) Doi, H., Akamatsu, Y., Watanabe, Y., Goto, M., Inui, R., Katano, I., Nagano, M., Takahara, T. and Minamoto, T.: Water sampling for environmental DNA surveys by using an unmanned aerial vehicle. Limnology and Oceanography: Methods, **15**: 939-944 (Nov., 2017)
7) Chambert, T., Pilliod, DS., Goldberg, CS., Doi, H. and Takahara, T.: An analytical framework for estimating aquatic species density from environmental DNA. Ecology and Evolution, **8**: 3468-3477 (Mar., 2018)
8) Mohammad, N.H., Tamura, T. and Ueno, M.: Inhibitory activity of *Paenibacillus* sp. isolated from soil in Gotsu city, Shimane Prefecture, against *Xanthomas oryzae* pv. *oryzae,* the causal agent of rice bacterial leaf blight. Advances in Microbiology, **8**: 197-210 (Mar., 2018)
9) Nguyen, Q.T., Ueda, K., Tamura, T., Kihara, J., Itoh, K., Yoshikiyo, K., Sakaguchi, Y. and Ueno, M.: Antifungal activity of a novel compound purified from the culture filtrate of *Biscogniauxia* sp. O821 against the rice blast fungus *Magnaporthe oryzae*. Journal of General Plant Pathology, **84:** 142-147 (Mar., 2018)

その他

1) Ko, K.S.D., Thida, L., Tamura, T., Uchida, K., Kihara, J. and Ueno, M.: Inhibitory potency of microbes isolated from soil in Shimane Prefecture against diseases in rice. Bulletin of the Faculty of Life and Environmental Science Shimane University, **22**: 13-16 (Sep., 2017)
2) Tamura, T., Uchida, K., Kihara, J. and Ueno, M.: Efficacy of buckwheat straw extracts against the rice blast fungus *Magnaporthe oryzae.* Bulletin of the Faculty of Life and Environmental Science Shimane University, **22**: 17-20 (Sep., 2017)
3) 高原輝彦 : 水生動物の生物量, 季節分布と移動における環境 DNA を用いた推定．環境技術, **46**: 636-641（2017 年 12 月）
4) 源利文・内井喜美子・高原輝彦・土居秀幸 : 環境 DNA モニタリング手法の課題と展望．環境技術，**46**：648-652（2017 年 12 月）
5) 佐藤利夫・桑原智之・橋口亜由未 : 21 世紀の水資源問題と紫外線技術，セラミックス，**53** : 62-65（2018 年 2 月）
6) 荒西太士・伊藤康宏・堀之内正博・藤原純子・吉岡秀和・田中智美：ダム湖アユの再生産および生活史の遺伝生態調査（国土交通省平成 29 年度受託研究報告書）22p.（2018 年 3 月）
7) 泉洋平：島根県松江市および安来市における柑橘を加害する昆虫種の調査．ホシザキグリーン財団研究報告，**21**：139-141（2018 年 3 月）
8) 堀之内正博 : 中海漁業協同組合　平成 29 年度グリーンワーカー事業（国指定中海鳥獣保護区カワウ胃内容物等調査業務）（堀之内は胃内容物調査に関する部分の執筆を担当）59p.（2018 年 3 月）

【山口大学】

論　文

1) Kuribayashi, K., Kobayashi, Y., Yokoyama, K. and Fujii, K.: Digested sludge-degrading and hydrogen-producing bacterial floras and their potential for biohydrogen production. International Biodeterioration & Biodegradation, **120**: 58-65 (May, 2017)
2) Abdelrahman, M., El-Sayed, M., Sato, S., Hirakawa, H., Ito, S., Tanaka, K., Mine, Y., Sugiyama, N., Suzuki, M., Yamaguchi, N. and Shigyo, M.: RNA-sequencing-based transcriptome and biochemical analyses of steroidal saponin pathway in a complete set of *Allium fistulosum* - *A. cepa* monosomic addition lines. PLoS One, **12**(8): e0181784. doi: 10.1371/journal.pone. 0181784 (Aug., 2017)
3) Yanagi, Y., Kitayama, K. and Fujitake, N.: Transformation of soil fulvic acid by immobilized laccase from *Trametes villosa*. Humic Substances Research, **13**: 5-12 (Aug. 2017)
4) Ohashi, M., Maekawa, Y., Hashimoto, Y., Takematsu, Y., Hasin, S. and Yamane, S.: CO_2 emission from subterranean nests of ants and termites in a tropical rain forest in Sarawak, Malaysia. Applied Soil Ecology, **117–118**: 147–155 (Sep., 2017)
5) Ariyanti, N.A., Torikai, K., Kirana, R.P., Hirata, S., Sulistyaningsih, E., Ito, S., Yamauchi, N. and Kobayashi, N.: Shigyo, M.: Comparative study on phytochemical variations in Japanese F_1 varieties of bulb onions and South-East Asian shallot landraces. Horticulture Journal, **87**: 63-72 (Feb., 2018)

3 生物資源科学専攻

1）生物機能科学連合講座

【鳥取大学】

論　文

1) Tokai, S., Bito, T., Shimizu, K. and Arima, J.: Effect of oxidation of the non-catalytic β-propeller domain on the substrate specificity of prolyl oligopeptidase from *Pleurotus eryngii*. Biochemical and Biophysical Research Communications, **487**: 356-361 (May, 2017)
2) Matsui, H., Nomura, Y., Egusa, M., Hamada, T., Hyon, G.S., Kaminaka, H., Watanabe, Y., Ueda, T., Trujillo, M., Shirasu, K. and Nakagami, H.: The GYF domain protein PSIG1 dampens the induction of cell death during plant-pathogen interactions. PLoS Genetics, **13**: e1007037（2017 年 10 月）

【島根大学】

著　書

1) Inui, H., Ishikawa, T. and Tamoi, M.: Wax ester fermentation and its application for biofuel production. *In Euglena: Biochemistry, Cell and Molecular Biology* (Edited by Shigeoka, S. and Schwartzbach, S.D., ISBN: 978-3-319-54908-8) Springer International Publishing, Switzerland, pp. 269-283 (Apr., 2017)
2) Ishikawa, T., Tamaki, S., Maruta, T. and Shigeoka, S.: Biochemistry and physiology of reactive oxygen species in Euglena. *In Euglena: Biochemistry, Cell and Molecular Biology* (Edited by Shigeoka, S. and Schwartzbach, S.D., ISBN: 978-3-319-54908-8) Springer International Publishing, Switzerland, pp. 47-64 (Apr., 2017)
3) 井田くるみ・内田貴之・赤間一仁・二川健：食品に秘められたサイエンス　第 11 回　米から宇宙へ - unloading による筋萎縮を克服する．実験医学 **35**（9）（今井眞一郎ら編，ISBN：978-4-7581-0164-6）．羊土社，東京，pp.1530-1533（2017 年 6 月）
4) Kondoh, M., Mougi, A.: What kind of interaction-type diversity matters for community stability? *In Adaptive Food Webs: Stability and Transitions of Real and Model Ecosystems* (Edited by Moore, J.C., Ruiter, P.C., McCann, K.S., Wolters, V., ISBN: 978-1-107-18211-0) Cambridge University Press. (Dec., 2017)

5) 戒能智宏・川向誠：第 5 章　酵母によるコエンザイム Q_{10} の生産．酵母菌・麹菌・乳酸菌の産業応用展開（五味勝也、阿部敬悦監修，ISBN: 978-4-7813-1317-7）シーエムシー出版，東京，pp.40-47（2018 年 1 月）
6) Ishikawa, T., Maruta, T., Yoshimura K. and Smirnoff, N.: Biosynthesis and regulation of ascorbic acid in plants. *In Antioxidants and Antioxidant Enzymes in Higher Plants* (Edited by Gupta, D.K., Palma, J.M. and Corpas, F.J., ISBN 978-3-319-75087-3) Springer International Publishing, Switzerland, pp.163-179 (Mar., 2018)
7) Maruta, T. and Ishikawa, T.: Ascorbate peroxidase functions higher plants: the control of the balance between oxidative damage and signaling. *In Antioxidants and Antioxidant Enzymes in Higher Plants* (Edited by Gupta, D.K., Palma, J.M. and Corpas, F.J., ISBN: 978-3-319-75087-3) Springer International Publishing, Switzerland, pp.41-59 (Mar., 2018)
8) Maruta, T. and Ishikawa, T.: Ascorbate peroxidases: crucial roles of antioxidant enzymes in plant stress responses. *In Ascorbic Acid in Plant Growth, Development and Stress Tolerance* (Edited by Hossain, M.A., Munné-Bosch, S., Burritt, D.J., Vivancos, P.D., Fujita, M. and Lorence, A., ISBN: 978-3-319-74056-0) Springer International Publishing, Switzerland, pp.111-127 (Mar., 2018)
9) Yoshimura, K. and Ishikawa, T.: Chemistry and metabolism of ascorbic acid in plants. *In Ascorbic Acid in Plant Growth, Development and Stress Tolerance* (Edited by Hossain, M.A., Munné-Bosch, S., Burritt, D.J., Vivancos, P.D., Fujita, M. and Lorence, A., ISBN: 978-3-319-74056-0) Springer International Publishing, Switzerland, pp. 1-23 (Mar., 2018)

論　文

1) Brikis, C.J., Zarei, A., Trobacher, C.P., DeEll, J.R., Akama, K., Mullen, R.T., Bozzo, G.G. and Shelp, B.J.: Ancient Plant Glyoxylate/Succinic Semialdehyde Reductases: GLYR1s Are Cytosolic, Whereas GLYR2s Are Localized to Both Mitochondria and Plastids. Frontiers in Plant Science doi: 10.3389/fpls.2017.00601, (Apr., 2017)
2) Sugahara, R., Tanaka, S., Joraku, A. and Shiotsuki, T.: Two types of albino mutants in desert and migratory locusts are caused by gene defects in the same signaling pathway. Gene, **608**: 41-48 (Apr., 2017)
3) Watanabe, Y., Suga, T., Narusawa, S., Iwatsuki, M., Nonaka, K., Nakashima, T., Shinohara, Y., Shiotsuki, T., Ichimaru, N., Miyoshi, M., Asami, Y., Ōmura, S. and Shiomi, K.: Decatamariic acid, a new mitochondrial respiration inhibitor discovered by pesticidal screening using drug-sensitive *Saccharomyces cerevisiae*. Journal of Antibiotics, **70**: 395-399 (Apr., 2017)
4) Aboulela, M., Tanaka, Y., Nishimura, K., Mano, S., Kimura, T. and Nakagawa, T.: A dual-site gateway cloning system for simultaneous cloning of two genes for plant transformation. Plasmid, **92**: 1-56 (May, 2017)
5) Aboulela, M., Tanaka, Y., Nishimura, K., Mano, S., Nishimura, M., Ishiguro, S., Kimura, T. and Nakagawa, T.: Development of an R4 dual-site (R4DS) gateway cloning system enabling the efficient simultaneous cloning of two desired sets of promoters and open reading frames in a binary vector for plant research. PLOS ONE, **12**: e0177889 (May, 2017)
6) Tanaka, Y., Ogawa, T., Maruta, T., Yoshida, Y., Arakawa, K. and Ishikawa, T.: Glucan Synthase-Like 2 is indispensable for paramylon synthesis in *Euglena gracilis*. FEBS Letters, **591**: 1360-1370 (May, 2017)
7) Zeng, B., Huang, Y., Shiotsuki, T., Bai, H., Palli, S.R., Huang, Y. and Tan, A.: The FOXO transcription factor controls insect growth and development by regulating juvenile hormone degradation in the silkworm, *Bombyx mori*. Journal of Biological Chemistry, **292**: 11659-11669 (May, 2017)
8) Kato, S., Soshino, M., Takaichi, S., Ishikawa, T., Nagata, N., Asahina, M. and Shinomura, T.: Suppression of the phytoene synthase gene (*EgcrtB*) alters carotenoid content and intracellular structure of *Euglena gracilis*. BMC Plant Biology, **17**: 125 (Jul., 2017)
9) Nakazawa, M., Hayashi, R., Takenaka, S., Inui, H., Ishikawa, T., Ueda, M., Sakamoto, T., Nakano, Y. and Miyatake, K.: Physiological functions of pyruvate: $NADP^+$ oxidoreductase and 2-oxoglutarate decarboxylase in *Euglena gracilis* under aerobic and anaerobic conditions. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **81**: 1386-1393 (Jul., 2017)

10) Nishino, K., Kushima, M., Kaino, T., Matsuo, Y. and Kawamukai, M.: Urea enhances cell lysis of *Schizosaccharomyces pombe ura4* mutants. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **81**(7): 1444-1451 (July, 2017)
11) Yamaguchi, A., Matsumura, R., Matsuzaki, T., Nakamura, W., Node, K. and Akashi, M.: A simple method using ex vivo culture of hair follicle tissue to investigate intrinsic circadian characteristics in humans. Scientific Reports, **7**: 6824 (Jul., 2017)
12) Suzuki, Y., Shiotsuki, T., Jouraku, A., Miura, K., and Minakuchi, C.: Benzoylurea resistance in western flower thrips *Frankliniella occidentalis* (Thysanoptera: Thripidae): the presence of a point mutation in chitin synthase 1, Journal of Pesticide Science, **42**: 93-96 (Aug., 2017)
13) Yamaki, T., Otani, M., Ono, K., Mimura, T., Oda, K., Minamii, T., Matsumoto, S., Matsuo, Y., Kawamukai, M. and Akihiro, T.: Isolation and characterization of rice cesium tansporter genes from a rice-transporter-enrihced yeast expression library. Physiologia Plantarum, **160**: 425-436 (Aug., 2017)
14) Mitani, N., Mougi, A.: Population cycles emerging through multiple interaction types. Royal Society Open Science, **4**:170536. (Sep., 2017)
15) Mougi, A.: Persistence of a stage-structured food-web. Scientific Reports, **7**:11055. (Sep., 2017)
16) Sugahara, R., Tanaka, S., Joraku, A., and Shiotsuki, T.: RNAi-mediated knockdown of SPOOK reduces ecdysteroid titers and causes precocious metamorphosis in the desert locust *Schistocerca gregaria*, Developmental Biology, **429**: 71-80 (Sep., 2017)
17) Tomiyama, T., Kurihara, K., Ogawa, T., Maruta, T., Ogawa, T., Ohta, D., Sawa, Y. and Ishikawa, T.: Wax ester synthase/diacylglycerol acyltransferase isoenzymes play a pivotal role in wax ester biosynthesis in *Euglena gracilis*. Scientific Reports, **7**: 13504 (Oct., 2017)
18) Shiomi, K., Watanabe, Y., Asami, Y., Narusawa, S., Hashimoto, S., Iwatsuki, M., Nonaka, K., Shinohara, Y., Shiotsuki, T., Ichimaru, N., Miyoshi, H., and Ōmura, S.: Ascosteroside D, a new mitochondrial respiration inhibitor discovered by pesticidal screening using insect ADP/ATP carrier protein-expressing *Saccharomyces cerevisiae.* Journal of Antibiotics, **71**: 146-148 (Oct., 2017)
19) Yamaguchi, S., Kawakami. K., Satoh, K., Fukunaga, N., Akama, K. and Matsumoto, K.I.: Suppression of hepatic dysfunction in tenascin-X-deficient mice fed a high-fat diet. Molecular Medicine Reports, **16**: 4061-4067 (Oct., 2017)
20) Cheng, T., Wu, J., Wu, Y., Chilukuri, R.V., Huang, L., Yamamoto, K., Li, F., Li, W., Chen, Z., Guo, H., Liu, J., Li, S., Wang, X., Li, P., Liu, D., Guo, Y., Fu, B., Li, Z., Liu, C., Chen, Y., Tomar, A., Hilliou, F., Montagne, N., Jacqin-Joly, E., d'Alencon, E., Seth, R.K., Bhatnagar, R.K., Jouraku, A., Shiotsuki, T., Kadono-Okuda, K., Promboon, A., Smagge, G., Arunkumar, K.P., Kishino, H., Goldsmith, M.R., Feng, Q., Xia, Q. and Mita, K.: Genomic adaptation to polyphagy and insecticides in a major East Asian noctuid pest, Nature Ecology and Evolution, **1**:1747-1756 (Nov., 2017)
21) Azad, A.K., Ahmed, J., Alum, M.A., Hasan, M.M., Ishikawa, T. and Sawa, Y.: Prediction of arsenic and antimony transporter major intrinsic proteins from the genomes of crop plants. International Journal of Biological Macromolecules, **107**: 2630-2642 (Feb., 2018)
22) Kimura, M. and Ishikawa, T.: Suppression of DYRK orthologs expression affects wax ester fermentation in *Euglena gracilis*. Journal of Applied Phycology, **30**: 367-373 (Feb., 2018)
23) Takenaka, K., Tanabe, T., Kawamukai, M. and Matsuo, Y. : Overexpression of the transcription factor Rst2 in *Schizosaccharomyces pombe* indicates growth defect, mitotic defects, and microtubule disorder. Bioscience Biotechnology and Biochemistry **82**(2): 247-257 (Feb., 2018)
24) Aboulela, M., Nakagawa, T., Oshima, A., Nishimura, K. and Tanaka, Y.: The *Arabidopsis* COPII components, AtSEC23A and AtSEC23D, are essential for pollen wall development and exine patterning. Journal of Experimental Botany, **69**: 1615–1633 (Mar., 2018)
25) Iwaoka, Y., Nishino, K., Ishikawa, T., Ito, H., Sawa, Y. and Tai, A.: Affinity resins as new tools for identifying target proteins of ascorbic acid. Analyst, **143**: 874-882 (Mar., 2018)
26) Shibata, S., Arimura, S., Ishikawa, T. and Awai, K.: Alterations of membrane lipid content correlated with chloroplasts and mitochondria development in *Euglena gracilis*. Frontiers in Plant Science, **9**: 370 (Mar., 2018)

その他

1) 松崎貴：器官培養および三次元培養を用いた育毛研究．毛髪科学 **119**：13-27 (2017 年 4 月)
2) 戒能智宏・川向誠：コエンザイム Q_{10} 増産技術の開発．BIO INDUSTRY，**34**：63-71（2017 年 5 月）
3) 寺井佑介・吉村和也・石川孝博・丸田隆典：植物におけるトリニトロトルエン毒性〜モノデヒドロアスコルビン酸還元酵素の関与〜．ビタミン，**91**：366-368（2017 年 6 月）
4) 寺井佑介・三冨弦・吉村和也・石川孝博・丸田隆典：デヒドロアスコルビン酸還元酵素の新たな役割〜酸化型グルタチオンを介した細胞死誘導への寄与〜．ビタミン，**91**：660-661（2017 年 11 月）
5) 松崎貴：毛髪の長さ・太さ・形を決める毛周期のしくみ．皮膚と美容 **49**：152-161 (2017 年 12 月)
6) 塩月孝博 : 農薬の代謝と昆虫カルボキシルエステラーゼ．蚕糸・昆虫バイオテック，**86** : 143-149（2017 年 12 月）
7) 小川貴央:植物の補酵素型ビタミン代謝における Nudix hydrolase ファミリーの生理的役割. ビタミン，**92**：53-62（2018 年 2 月）
8) 三冨弦・寺井佑介・吉村和也・石川孝博・丸田隆典：葉緑体から核への直接的な H_2O_2 シグナル輸送〜逆行性シグナルとアスコルビン酸ペルオキシダーゼ〜．ビタミン，**92**：143-145（2018 年 3 月）
9) 西田郁久・戒能智宏：島根県の特色ある食品素材中における機能性成分の分析．平成 29 年度戦略的研究経費成果報告書「特産食品機能強化プロジェクト」，**28**（2018 年 3 月）
10) 西川彰男：３種のカレイのコラーゲンの Hydroxyproline（Hypro）による分析，平成 29 年度戦略的機能強化推進経費成果報告書，p.22（2018 年 3 月）

【山口大学】

著　書

1) Kosaka, T., Murata, M. and Yamada, M.: Survival strategy of *Escherichia coli* in stationary phase: involvement of σ^E-dependent programmed cell death. *In Escherichia coli: Recent Advances on Physiology, Pathogenesis and Biotechnological Applications* (Edited by Samie, A., ISBN: 978-953-51-3329-2, doi.org/10.5772/67672), INTECH, pp. 383-403 (Jul, 2017)
2) Mano, J. and Biswas, M.S.: Analysis of reactive carbonyl species generated under oxidative stress. *In Plant Programmed Cell Death: Methods and Protocols* (Edited by De Gara, L. and Locato, V., ISBN: 978-1-4939-7668-3), Springer, pp. 117-124 (Nov., 2017)

論　文

1) Khumkarjorn, N., Thanonkeo, S., Yamada, M., Klanrit, P. and Thanonkeo, P.: Agrobacterium-mediated transformation of Dendrobium orchid with the flavanone 3-hydroxylase gene, Turkish J. Botany, **41**: 442-454 doi: 10.3906/bot-1701-13 (Apr, 2017)
2) Mansur, F.J., Yamada, K., Morishige, N. and Azakami, H.: Genomic recombination enhances pathogenic factors in the periodontopathogenic bacterium *Eikenella corrodens*, Advanced in Microbiology, **7**: 231-240 (Apr., 2017)
3) Matsutani, M., Nantapong, N., Murata, R., Paisrisan, P., Hirakawa, H., Kataoka, N., Yakushi, T. and Matsushita, K.: Complete genome sequencing of newly isolated thermotolerant *Corynebacterium glutamicum* N24 provides a new insights into its thermotolerant phenotype. Journal of Biotechnology, **247**: 29-33 (Apr., 2017)
4) Sottirattanapan, P., Nantachai, K., Daduang, S., Funahashi, T. and Yamada, M.: Purification and characterization of amylase from roots of *Paederia foetida* Linn. Biocatalysis and Agricultural Biotechnology, **10**: 329-335 (Apr., 2017)
5) Kataoka, N., Vangnai, A.S., Pongtharangkul, T., Yakushi, T. and Matsushita, K.: Butyrate production under aerobic growth conditions by engineered *Escherichia coli*. Journal of Bioscience and Bioengineering, **123**: 562-568 (May, 2017)

6) Tasaki, E., Matsumoto, S., Tada, H., Kurahashi, T., Zhang, X., Fujii, J. and Utsumi, T., Iuchi, Y.: Protective role of testis-specific peroxiredoxin 4 against cellular oxidative stress. Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition, **60**: 156-161 (May, 2017)
7) Mansur, F.J., Takahara, S., Yamamoto, M., Shimatani, M., Karim, M.M., Noiri, Y., Ebisu, S. and Azakami, H.: Purification and characterization of hemolysin from periodonto-pathogenic bacterium *Eikenella corrodens*. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **81**: 1246-1253 (Jun., 2017)
8) Srianta, I., Zubaidah, E., Estiasih, T., Iuchi, Y., Harijono and Yamada, M.: Antioxidant activity of pigments derived from *Monascus purpureus*-fermented rice, corn, and sorghum, International Food Research Journal, **24**: 1186-1191 (Jun., 2017)
9) Charoensuk, K., Sakurada, T., Tokiyama, A., Murata, M., Kosaka, T., Thanonkeo, P. and Yamada, M.: Thermotolerant genes essential for survival at a critical high temperature in thermotolerant ethanologenic *Zymomonas mobilis* TISTR 548. Biotechnol biofuels, **10**: 204 doi: 10.1186/s13068-017-0891-0 (Aug, 2017)
10) Khumkarjorn, N., Thanonkeo, S., Yamada, M. and Thanonkeo, P.: Cloning and expression analysis of a flavanone 3-hydroxylase gene in *Ascocenda* orchid. J. Plant Biochem. Biotechnol. **26**: 179–190, doi: 10.1007/s13562-016-0379-1 (Oct, 2017)
11) Sasaki, K., Kajiura, Z. and Kobayashi, J.: Comparative Analyses of Deletion Mutations and their Pathological Effects of Nucleopolyhedroviruses Isolated from Saturniid Wild Silkworms. Journal of Insect Biotechnology and Serology, **86**: 67-75 (Oct., 2017)
12) Banno, Y., Fujii, T., Fukumori, H., Yamamoto, K. and Kobayashi, J.: Genetic studies on two egg mutants, “small size egg” and “lethal non-diapausing egg” in the silkworm, *Bombyx mori*. Journal of Insect Biotechnology and Serology, **86**: 123-126 (Oct., 2017)
13) Yin, L., Mano, J., Tanaka, K., Wang, S., Zhang, M., Deng, X. and Zhang, S.: High level of reduced glutathione contributes to detoxification of lipid peroxide-derived reactive carbonyl species in transgenic *Arabidopsis* overexpressing glutathione reductase under aluminum stress. Physiol. Plant, **161**: 211-223 (Oct., 2017)
14) Kataoka, N., Vangnai, A.S., Pongtharangkul, T., Yakushi, T. and Matsushita, K.: Production of 1,3-diols in *Escherichia coli*. Bioresource Technology, **245**: 1538-1541 (Dec., 2017)
15) Murata, M., Ishii, A., Fujimoto, H., Nishimura, K., Kosaka, T., Mori, H. and Yamada, M.: Update of thermotolerant genes essential for survival at a critical high temperature in *Escherichia coli*. PLoS ONE **13**: e0189487 (Feb., 2018)

その他

1) 小林淳：バキュロウイルスを利用したバイオテクノロジー．アグリバイオ **1**（14）：1456-1461（2017年 12 月）

2）資源利用化学連合講座

【鳥取大学】

著　書

1) 岩崎崇・石橋純：昆虫由来抗菌ペプチドの応用．抗菌ペプチドの機能解明と技術利用（長岡功監，ISBN: 978-4-7813-1245-3）．CMC 出版，東京，pp. 226-239（2017 年 5 月）
2) Matsunaga, Y., Iwasaki, T. and Kawano, T.: Diverse insulin-like peptides in *C. elegans*. International Biology Review, **1**: 1-15 (May, 2017)
3) Watanabe, F., Yoshimura, K. and Shigeoka, S.: Biochemistry and Physiology of Vitamins in *Euglena*. *In Euglena: Biochemistry, Cell and Molecular Biology* (Edited by Schwartzbach, S.D. and Shigeoka, S., ISBN: 978-3-319-54908-8), Springer International Publishing, pp.65-90 (Jun., 2017)
4) 岩崎崇：新しい細胞ペプチド『ポリヒスチジン』の発見と応用研究．ペプチド医薬品のスクリーニング・安定化・製剤化技術（技術情報協会編，ISBN: 978-4-86104-687-2 C3047）．情報技術協会，東京，pp. 343-352（2017 年 12 月）

論　文

1) Bito, T., Misaki, T., Yabuta, Y., Ishikawa, T., Kawano, T. and Watanabe, F.: Vitamin B_{12} deficiency results in severe oxidative stress, leading to memory retention impairment in *Caenorhabditis elegans*. Redox Biology, **11**: 21-29 (Apr., 2017)
2) Shida, M., Mikami, T., Tamura, J. and Kitagawa, H.: A characteristic chondroitin sulfate trisaccharide unit with a sulfated fucose branch exhibits neurite outgrowth-promoting activity: novel biological roles of fucosylated chondroitin sulfates isolated from sea cucumber *Apostichopus japonicas*. Biochemical and Biophysical Research Communications, **487**: 678-683 (Jun., 2017)
3) 渡邉文雄：ビタミン B_{12} と葉酸の摂取量についての一考察．ビタミン，**91**：595-602（2017 年 10 月）
4) Takeda-Okuda, N., Yamaguchi, Y., Uzawa, J. and Tamura, J.: Synthesis of a biotinylated keratan sulfate tetrasaccharide composed of dimeric Galβ1-4GlcNAc6Sβ. Carbohydrate Research, **452**: 97-107 (Nov., 2017)
5) Bito, T., Teng, F. and Watanabe, F.: Bioactive compounds of edible purple laver *Porphyra* sp. (Nori). Journal of Agricultural and Food Chemistry, **65**: 10685-10692 (Dec, 2017)
6) Matsunaga, Y., Matsukawa, T., Iwasaki, T., Nagata, K. and Kawano, T.: Comparison of physiological functions of antagonistic insulin-like peptides, INS-23 and INS-18, in *Caenorhabditis elegans*. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **82**: 90-96 (Jan., 2018)
7) Watanabe, F. and Bito, T.: Vitamin B_{12} sources and microbial interaction. Experimental Biology and Medicine, **243**: 148-158 (Jan., 2018)
8) Matsushita, K., Nakata, T., Takeda-Okuda, N., Nadanaka, S., Kitagawa, H. and Tamura, J.: Synthesis of chondroitin sulfate CC and DD tetrasaccharides and interactions with 2H6 and LY111. Bioorganic & Medicinal Chemistry, **26**: 1016-1025 (Mar., 2018)

【島根大学】

論　文

1) Aboulela, M., Tanaka, Y., Nishimura, K., Mano, S., Nishimura, M., Ishiguro, S., Kimura, T. and Nakagawa, T.: Development of an R4 dual-site (R4DS) gateway cloning system enabling the efficient simultaneous cloning of two desired sets of promoters and open reading frames in a binary vector for plant research. PLoS One, **12**(5): e0177889 (May, 2017)
2) Nakayama, K., Saito, S., Watanabe, K., Miyashita, H., Nishijima, F., Kamo, Y., Tada, K., Ishizuka, S., Niwa, T., Iwamoto, S. and Shimizu, H.: Influence of AHRR Pro189Ala polymorphism on kidney functions. Biosci Biotechnol Biochem, **81**: 1120-1124 (Jun., 2017)

3) Aboulela, M., Tanaka, Y., Nishimura, K., Mano, S., Kimura, T. and Nakagawa, T.: A dual-site gateway cloning system for simultaneous cloning of two genes for plant transformation. Plasmid, **92**:1-11 (Jul., 2017)
4) Kimura, H., Ogawa, S., Ishihara, T., Maruoka, M., Tokuyama-Nakai, S., Jisaka, M. and Yokota, K.: Antioxidant activities and structural characterization of flavonol O-glycosides from seeds of Japanese horse chestnut (*Aesculus turbinata* Blume). Food Chemistry, **228**: 348-355 (Aug., 2017)
5) Noothalapati, H., Iwasaki, K., Yoshimoto, C., Yoshikiyo, K., Nishikawa, T., Ando, M., Hamaguchi, H. and Yamamoto, T.: Imaging phospholipid conformational disorder and packing in giant multilamellar liposome by confocal Raman microspectroscopy. Spectrochimica Acta Part a-Molecular and Biomolecular Spectroscopy, **187**: 186-190 (Dec., 2017)
6) Aboulela, M., Nakagawa, T., Ohshima, A., Nishimura, K. and Tanaka, Y.: The *Arabidopsis* COPII Components, AtSEC23A and AtSEC23D, are Essential for Pollen Wall Development and Exine Patterning. J. Exp. Bot, **69**(7): 1615-1633 (Jan., 2018)
7) Nguyen, Q.T., Ueda, K., Tamura, T., Kihara, J., Itoh, K., Yoshikiyo, K., Sakaguchi, Y. and Ueno, M.: Antifungal activity of a novel compound purified from the culture filtrate of Biscogniauxia sp O821 against the rice blast fungus *Magnaporthe oryzae*. Journal of General Plant Pathology, **84**: 142-147 (Jan., 2018)
8) Tokuyama-Nakai, S., Kimura, H., Ishihara, T., Jisaka, M. and Yokota, K.: In vitro anti-inflammatory and antioxidant activities of 3,5,4'-trihyroxy-6,7-methylenedioxyflavone-O-glycosides and their aglycone from leaves of *Polygonum inctorium* Lour. Applied Biochemistry and Biotechnology, **184**: 414-431 (Feb., 2018)
9) Rahman, M.S., Hasan, K., Hussain, M.S., Millat, M.S., Sen, N., Islam, M.S., Sarwar, M.S., Noor, W., Kar, A., Uddin, S.M.N. and Yokota, K.: Pathophysiological status of serum antioxidant, macro-minerals and trace elements in patients with metabolic syndrome in Bangladesh. International Journal of Pharmaceutical Sciences and Research, **9**: 1012-1022 (Mar., 2018)

その他

1) 地阪光生・西村浩二：島根県所縁の乳酸菌を用いた雲州人参成分代謝産物生成法の検討．平成 29 年度戦略的機能強化推進経費報告書（2018 年 3 月）
2) 横田一成：地域の生物資源に由来するフラボノール配糖体の食品機能性．平成 29 年度戦略的研究経費「特産食品機能強化プロジェクト」報告書，島根大学，p. 22（2018 年 3 月）
3) 横田一成：医食同源商品化グループ　山陰地域の生物資源に由来するポリフェノール関連物質の分析と健康機能の解析．平成 29 年度農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター報告，島根大学，3 頁（2018 年 3 月）

【山口大学】

著　書

1) Kuribayashi, K., Kobayashi, Y., Yokoyama, K. and Fujii, K.: Digested sludge-degrading and hydrogen-producing bacterial floras and their potential for biohydrogen production. International Biodeterioration & Biodegradation, **120**: 58-65 (May, 2017)
2) Koeduka, T.: Functional evolution of biosynthetic enzymes that produce plant volatiles. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **82**: 192-199 (Feb., 2018)

論　文

1) Onzuka, M., Sekine, Y., Uchida, T., Ishimori, K. and Ozaki, S.: HmuS from Yersinia pseudotuberculosis is a non-canonical heme-degrading enzyme to acquire iron from heme. BBA-General Subjects, **1861**: 1870-1878 (Apr., 2017)

2) Srianta, I., Zubaidah, E., Estiasih, T., Iuchi, Y., Harijono and Yamada, M.: Antioxidant activity of pigments derived from *Monascus purpureus*-fermented rice, corn, and sorghum. International Food Research Journal, **24**(3): 1186-1191 (Jun., 2017)
3) Tasaki, E., Sakurai, H., Nitao, M., Matsuura, K. and Iuchi, Y.: Uric acid, an important antioxidant contributing to survival in termites. PLOS ONE, **12**(6): e0179426 (Jun., 2017)
4) Tawfik, M.M., Yamato, K.T., Kohchi, T., Koeduka, T. and Matsui, K.: *n*-Hexanal and (*Z*)-3-hexenal are generated from arachidonic acid and linolenic acid by a lipoxygenase in *Marchantia polymorpha* L. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **81**: 1148-1155 (Jun., 2017)
5) Mwenda, C.M., Mochizuki, S. and Matsui, K.: Plants distinctively control green leaf volatile and jasmonate pathways, but some pathogens spike the plans. Acta Horticulturae, **1169**: 119-127 (Jul., 2017)
6) Fukuda, K. and Miyata, H.: Does the injection of platelet-rich plasma induce changes in the gene expression and morphology of intact thoroughbred skeletal muscle? Journal of Equine Science **28**(2): 31-39 (Aug., 2017)
7) Watanabe, B., Morikita, T., Tabuchi, Y., Kobayashi, R., Koeduka, T. and Hiratake, J.: An improved synthesis of the potent and selective γ-glutamyl transpeptidase inhibitor GGsTop together with an inhibitory activity evaluation of its potential hydrolysis products. Tetrahedron Letters, **58**: 3700-3703 (Sep., 2017)
8) 池崎和海・芝口翼・杉浦崇夫・宮田浩文：アイシング処置がラット損傷筋の回復過程に及ぼす影響. 体力科学，**66**(5): 345-354（2017 年 10 月）
9) Shinohara, F., Kurisu, G., Hanke, G., Bowsher, C., Hase, T. and Kimata-Ariga, Y.: Structural basis for the isotype-specific interactions of ferredoxin and ferredoxin: NADP+ oxidoreductase: an evolutionary switch between photosynthetic and heterotrophic assimilation. Photosynthesis Research, **134**(3): 281-289 (Dec., 2017)
10) Koeduka, T., Fujita, Y., Furuta, T., Suzuki, H., Tsuge, T. and Matsui, K.: Aromatic amino acid decarboxylase is involved in volatile phenylacetaldehyde production in loquat (*Eriobotrya japonica*) flowers. Plant Biotechnology, **34**: 193-198 (Dec., 2017)
11) Yoshida, Y., Kuroiwa, H., Shimada, T., Yoshida, M., Ohnuma, M., Fujiwara, T., Imoto, Y., Yagisawa, F., Nishida, K., Hirooka, S., Misumi, O., Mogi, Y., Akakabe, Y., Matsushita, K. and Kuroiwa, T.: Glycosyltransferase MDR1 assembles a dividing ring for mitochondrial proliferation comprising polyglucan nanofilaments. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America, **114**: 13284-13289 (Dec., 2017)
12) Tasaki, E., Kobayashi, K., Matsuura, K. and Iuchi, Y.: Long-Lived Termite Queens Exhibit High Cu/Zn-Superoxide Dismutase Activity. Oxidative Medicine and Cellular Longevity, doi: 10.1155/2018/5127251 (Feb., 2018)

その他

1) 赤壁善彦：講義室の環境について．環境保全，**33**：26-28（2017 年 12 月）
2) 松井健二・肥塚崇男：植物は香りをどうして/どのようにして作るの？．AROMA RESEARCH，**73**：29-31（2018 年 2 月）

4 国際乾燥地科学専攻

国際乾燥地科学連合講座

【鳥取大学】

著　書

1) Ouessar, M., Gabriels, D., Tsunekawa, A. and Evett, S. (eds).: Water and Land Security in Drylands: Response to Climate Change (ISBN-13: 978-3319540207), Springer, 348p.（Apr., 2017）
2) 辻本壽・明石欣也：育種による乾燥関連ストレス耐性作物の作出．アグリバイオ特集「乾燥地を救う農業技術」，北隆館，**1**(5)：31-37（2017 年 4 月）
3) 黒崎泰典：7.2 中国四国地方の気候概要 鳥取県の気候．日本気候百科（日下博幸・藤部文昭・吉野正敏・田林明・木村富士男編，ISBN：978-4-621-30243-9）.丸善出版，東京，pp. 300-310（2018 年 1 月）
4) Akashi, K. and Nanasato, Y.: Recent progress in the genetic engineering of biofuel crops. *In Biofuels: Green house gas mitigation and global warming, next generation biofuels and role of biotechnology -A Perspective* (Edited by Kumar, A., Ogita, S. and Yuan, Y.Y., ISBN: 978-81-322-3761-7), Springer, New York. pp.327-339 (Feb., 2018)
5) Gomboluudev, P., Kurosaki, Y., Natsagdorj, L. and Munkhbat, B.O.: Chapter 2. Climate of Mongolia. *In Rangeland Ecosystems of Mongolia* (Edited by Undarmaa, J., Tamura, K., Natsagdorj, L. and Yamanaka, N., ISBN: 978-99978-2-567-4), Munkhiin Useg Co. Ltd., Ulaanbaatar, pp. 74-107 (Mar., 2018)

論　文

1) Fenta, A.A., Yasuda, H., Haregeweyn, N., Belay, A.S., Hadush, Z., Gebremedhin, M.A. and Mekonnen, G.: The dynamics of urban expansion and land use/land cover changes using remote sensing and spatial metrics: the case of Mekelle City of northern Ethiopia. International Journal of Remote Sensing, **38**(14): 4107-4129 (Apr., 2017)
2) Mahdavi, S.M., Neyshabouri, M.R., Fujimaki, H. and Heris, A.M.: Coupled heat and moisture transfer and evaporation in mulched soils. CATENA, **151**: 34-48 (Apr., 2017)
3) Maki, T., Kurosaki, Y., Onishi, K., Lee, K.C., Pointing, S.B., Jugder, D., Yamanaka, N., Hasegawa, H. and Shinoda, M.: Variations in the structure of airborne bacterial communities in Tsogt-Ovoo of Gobi Desert area during dust events. Air Quality, Atmosphere & Health, **10**: 249-260 (Apr., 2017)
4) Sakaguchi, I., Mochizuki, H., Katayama, A., Momose, T. and Fujimaki, H.: Issues of conventional model of transfer of latent heat in soil. International Agrophysics, **31**(2): 303-306 (Apr., 2017)
5) Anzai, T., Goto, S., Ando, S., Inosako, K., Espanto, P.B.B. and Saito, T.: Sugarcane and leaching of nitrate-nitrogen: a case study on Negros island, the Philippines. Tropical Agriculture and Development, **61**: 184-193 (May, 2017)
6) 池浦弘・Keokhamphui Khaykeo・藤巻晴行・安西俊彦・Inkhamseng Somphone：ラオスの乾季水田畑作における残存土壌水分と灌漑の効果．農業農村工学会論文集，85（1）：25-33（2017 年 5 月）
7) Kimura, R.: Validation and application of the monitoring method for degraded land area based on a dust erodibility in eastern Asia. International Journal of Remote Sensing, **38**: 4553-4564 (May, 2017)
8) Yasuda, H., Nandintsetseg, B., Berndtsson, R., Amgalan, G., Shinoda, M. and Kawai, T.: The effects of ocean SST dipole differences on Mongolian summer rainfall. Geofizika, doi: 10.15233/gfz.2017.34.10. (May, 2017)
9) Abd, E.B.H.M., Fujimaki, H., Tokumoto, I. and Saito, T.: Determination of irrigation depths using a numerical model of crop growth and quantitative weather forecast and evaluation of its effect through a field experiment for potato. Journal of the Japanese Society of Soil Physics, **136**: 15-24 (Jun., 2017)
10) Elbashir, A.A.E., Gorafi, Y.S.A., Tahir, I.S.A., Kim, J.S. and Tsujimoto, H.: Wheat multiple synthetic derivatives: a new source for heat stress tolerance adaptive traits. Breeding Science, **67**: 248-256 (Jun., 2017)
11) Ishimoto, Y., Kgokong, S., Yabuta, S., Tominaga, J., Coetzee, T., Konaka, T., Mazereku, C., Kawamitsu, Y., Akashi, K.: Flowering pattern of biodiesel plant Jatropha in frost- and drought-prone regions of Botswana. International Journal of Green Energy, **14**: 908-915 (Jun., 2017)

12) Kinugasa, T. and Hozumi, Y.: Effects of temporally biased watering on the nitrogen response of *Chenopodium album*. Acta Oecologica, **82**: 61–68 (Jun., 2017)
13) Nigussie, Z., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Nohmi, M., Tsubo, M., Aklog, D., Meshesha, D. and Abele, S.: Factors affecting small-scale farmers' land allocation and tree density decisions in an *Acacia decurrens*-based *taungya* System in Fagita Lekoma district, north-western Ethiopia. Small-scale Forestry, **16**(2): 219-233 (Jun., 2017)
14) Zaharaddeen, D.M., Shimizu, K. and Yoshioka, Y.: Comparison of Land and Water Improvement Projects and the Water Management System between Japan and Nigeria, International Journal of Environmental and Rural Development, International Journal of Environmental and Rural Development, **8**: 124-131(Jun., 2017)
15) Nagashima, K., Nishido, H., Kayama, M., Kurosaki, Y., Ohgo, S. and Hasegawa, H.: Composition of Asian dust from cathodoluminescence spectral analysis of single quartz grains. Geology, **45**: 879-882 (Aug., 2017)
16) 劉佳啓・木村玲二：小型風洞において自然界に近い粗度長を伴う境界層を生成する手法の開発．日本砂丘学会誌，**64**：1-8（2017 年 8 月）
17) Shi, W., Du, S., Morina, J., Guan, J., Wang, K., Ma, M., Yamanaka, N., Tateno, R.: Physical and biogeochemical controls on soil respiration along a topographical gradient in a semiarid forest. Agricultural and Forest Meteorology, **247**: 1-11 (Aug., 2017)
18) Kumar, A., Garg, M., Kaur, N., Chunduri, V., Sharma, S., Misser, S., Kumar, A., Tsujimoto, H., Dou, Q.W. and Gupta, R.K.: Rapid development and characterization of chromosome specific translocation line of *Thinopyrum elongatum* with improved dough strength, Frontiers in Plant Science, **8**:1593 (Sep., 2017)
19) Li, H., Tsuchimoto, S., Harada, K., Yamasaki, M., Sakai, H., Wada, N., Alipour, A., Sasai, T., Tsunekawa, A., Tsujimoto, H., Ando, T., Tomemori, H., Sato, S., Hirakawa, H., Quintero, V.P., Zamarripa, A., Santos, P., Hegazy, A, Ali, A.M. and Fukui, K.: Genetic tracing of *Jatropha curcas* L. from its Mesoamerican origin to the world, Frontiers in Plant Science, **8**:1539, doi: 10.3389/fpls.2017.01539 (Sep., 2017)
20) Munkhtsetseg, E., Shinoda, M., Ishizuka, M., Mikami, M., Kimura, R. and Nicolich, G.: A livestock trampling function for potential emission rate of wind-blown dust in a Mongolian temperate grassland. Atmospheric Chemistry and Physics, **17**: 11389-11401 (Sep., 2017)
21) Nigussie, Z., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Nohmi, M., Tsubo, M., Aklog, D., Meshesha, D.T., Abele, S.: Factors influencing small-scale farmers' adoption of sustainable land management technologies in north-western Ethiopia. Land Use Policy, **67**: 57-64 (Sep., 2017)
22) 奥田幸夫・藤巻晴行・北村義信・北川巌：ウズベキスタン国の土壌条件下におけるカットドレーンの適用上の課題と対策．農業農村工学会論文集，**85**（2）：83-90（2017 年 9 月）
23) Sugahara, K., Kaneko, Y., Sakaguchi, S., Ito, S., Yamanaka, K., Sakio, H., Hoshizaki, K., Suzuki, W., Yamanaka, N., Isagi, Y., Momohara, A. and Setoguchi, H.: Quaternary range-shift history of Japanese wingnut (*Pterocarya rhoifolia*) in the Japanese Archipelago evidenced from chloroplast DNA and ecological niche modeling. Journal of Forest Research, **22**: 282-293 (Sep., 2017)
24) Kobayashi, N., Hou, F.J., Tsunekawa, A., Chen, X.J., Yan, T.H. and Ichinohe, T.: Effects of substituting alfalfa hay for concentrate on energy utilization and feeding cost of crossbred Simmental male calves in Gansu Province, China. Grassland Science, **63**(4): 245-254 (Oct., 2017)
25) Fenta, A.A, Yasuda, H., Shimizu, K., Haregeweyn, N. and Woldearegay, K.: Quantitative analysis and implications of drainage morphometry of the Agula watershed in the semi-arid northern Ethiopia. Applied Water Science, **7**(7): 3825-3840 (Nov., 2017)
26) 沖田総一郎・谷口真吾・谷口武士・岩永史子・山本福壽・山中典和：酸欠と塩ストレスがマングローブ 2 種の苗木の成長と生理に及ぼす影響．樹木医学研究，**21**：193-200（2017 年 10 月）
27) Tateno, R., Taniguchi, T., Zhang, J., Shi, W., Zhang, J., Du, S. and Yamanaka, N.: Net primary production, nitrogen cycling, biomass allocation, and resource use efficiency along a topographical soil water and nitrogen gradient in a semi-arid forest near an arid boundary. Plant and Soil, **420**: 209-222 (Nov., 2017)
28) Elbashir, A.A.E., Gorafi, Y.S.A., Tahir, I.S.A., Elhashimi, A.M.A., Abdalla, M.G.A. and Tsujimoto, H.: Genetic variation in heat tolerance-related traits in a population of wheat multiple synthetic derivatives, Breeding Science, **67**: 483-492 (Dec., 2017)

29) Feng, X., An, P., Guo, K., Lia, X., Liu, X. and Zhang, X.: Growth, root compensation and ion distribution in *Lycium chinense* under heterogeneous salinity stress. Scientia Horticulturae, **226**: 24-32 (Dec., 2017)
30) Fenta, A.A., Yasuda, H., Shimizu, K., Haregeweyn, N., Kawai, T., Sultan, D., Ebabu, K. and Belay, A.S.: Spatial distribution and temporal trends of rainfall and erosivity in the Eastern Africa region. Hydrological Processes, **31**: 4555-4567. doi: 10.1002/hyp.11378 (Dec., 2017)
31) Li, Q., Lai, L., Du, H., Cai, W., Guan, T., Zhang, X., Jiang, L., Zheng, Y., Yu, Y., Gao, Y., An, P. and Shimizu, H.: Elevated CO_2 concentrations affect the growth patterns of dominant C_3 and C_4 shrub species differently in the Mu Us Sandy Land of Inner Mongolia. Botany, **95**: 869-877 (Dec., 2017)
32) Nakahara, H., Adachi, R., Kondo, K., An, P. and Matsuzoe, N.: Effects of different cultivation temperatures and $CaCl_2$ addition on growth and absorption of inorganic components in the halophyte *Suaeda salsa* under saline conditions. Sand Dune Research, **64**: 39-48 (Dec., 2017)
33) 大西純也・池浦弘・山中勇・北村義信・藤巻晴行：乾燥地の灌漑農地における簡易 Surge Flow 灌漑法による節水効果−ウズベキスタン共和国での適用事例−．沙漠研究，**27**(3): 91-101（2017 年 12 月）
34) Tanaka, H., Nabeuchi, C., Kurogaki M., Garg, M., Saito, M., Ishikawa, G., Nakamura, T. and Tsujimoto, H.: A novel compensating wheat-*Thinopyrum elongatum* Robertosonian translocation line with positive effect on flour quality. Breeding Science, **67**: 509-517 (Dec., 2017)
35) Yamada, M., Malambane, G., Yamada, S., Suharsono, S., Tsujimoto, H., Mpseki, B. and Akashi, K.: Differential physiological responses and tolerance to potentially toxic elements in biodiesel tree *Jatropha curcas*. Scientific Reports, **8**: 1635-1644 (Jan., 2018)
36) Ebabu, K., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Meshesha, D.T., Aklog, D., Masunaga, T., Tsubo, M., Sultan, D., Fenta, A.A. and Yibeltal, M.: Analyzing the variability of sediment yield: A case study from paired watersheds in the Upper Blue Nile basin, Ethiopia. Geomorphology, **303**: 446-455 (Feb., 2018)
37) Marambane, G., Nonaka, S., Siba, H., Ezura, H., Tsujimoto, H. and Akashi, K.: Comparative effects of ethylene inhibitors on *Agrobacterium*-mediated transformation of drought-tolerant wild watermelon. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, **82**: 433-441, (Feb., 2018)
38) Nigussie, Z., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Adgo, E., Cochrane, L., Floquet, A., Abele, S.: Applying Ostrom's institutional analysis and development framework to soil and water conservation activities in north-western Ethiopia. Land Use Policy, **71**: 1-10 (Feb., 2018)
39) Edet, E.O., Kim J.S., Okamoto, M., Hanada, K., Takeda, T., Kishii, M., Gorafi, Y.S.A. and Tsujimoto, H.: Efficient anchoring of alien chromosome segments introgressed into bread wheat by new *Leymus racemosus* genome-based markers. BMC Genetics, **19**:18 (Mar., 2018)
40) Ishimoto, Y., Yabuta, S., Kgokong, S., Motsepe, M., Tominaga J., Teramoto, S., Konaka, T., Mmopelwa, G., Kawamitsu, Y., Akashi, K. and Ueno, M.: Environmental evaluation with greenhouse gas emissions and absorption based on life cycle assessment for a Jatropha cultivation system in frost- and drought-prone regions of Botswana. Biomass and Bioenergy, **110**: 33-40, https://doi.org/10.1016/j.biombioe.2017.12.026, (Mar., 2018)
41) Li, W., Nishiyama, R., Watanabe, Y., Chien, V.H., Kojima, M., An, P., Tian, L., Tian, C., Sakakibara, H. and Tran, L.S.P.: Effects of overproduced ethylene on the contents of other phytohormones and expression of their key biosynthetic genes. Plant Physiology and Biochemistry, **128**: 170-177 (Mar., 2018)

その他

1) 米田亜沙美・岩永史子・Chiu Chen-Wei・沖田総一郎・山中典和・山本福壽：イタヤカエデの樹液溢出量と樹液流速の関係および環境変動の観察．樹木医学研究，**21**（2）：71-72（2017 年 4 月）
2) 谷口武士：根圏微生物とその生態系修復や農業生産への利用．アグリバイオ，**1**：26-30（2017 年 5 月）

【島根大学】

著　書

1) Masunaga, T. and Marques, F.J.D.: Strategies for Increasing Micronutrient Availability in Soil for Plant Uptake. *In Plant Micronutrient Use Efficiency, Molecular and Genomic perspectives in Crop Plants* (Edited by Hossain, M.A., Kamiya, T., Burritt, D.J., Tran, L.S.P., Fujiwara, T., ISBN: 978-0-12-812104-7), Academic Press, London, pp. 195-208 (Mar., 2018)

論　文

1) Kobayashi, N., Hou, F., Tsunekawa, A., Chen, X., Yan, T. and Ichinohe, T.: Effects of substituting alfalfa hay for concentrate on energy utilization and feeding cost of crossbred Simmental male calves in Gansu Province, China. Grassland Science, **63**: 245–254 (Apr., 2017)
2) Kundu, C.A., Ishii, M., Sato, K., Wanjogu, R.K., Yamauchi, A. and Masunaga, T.: An Assessment of Paddy Production System in Central Kenya with Special Reference to Micronutrients, Journal of Agricultural Science, **9**(6): 49-63 (May, 2017)

【山口大学】

著　書

1) Ibaraki Y.: LED Supplementary Lighting, In Light Emitting Diodes for Agriculture (ed. by Dutta Gupta, S., ISBN: 978-981-10-5806), Springer, pp. 27-36 (Oct., 2017)

第２章　招　待　講　演

1 生物生産科学専攻

1）農業生産学連合講座

【島根大学】

国内学会等

1) 小林伸雄：DNA からみた「のとキリシマツツジ」の品種発達と伝播経路．のとキリシマツツジ講演会～北前船でつながる花文化～，名古屋市立東山動植物園（愛知県名古屋市）（2018 年 3 月）

【山口大学】

国際学会等

1) Shigyo, M.*, Sato, S. and Hirakawa, H.: Toward an integration of phytomedomics and omics approaches to developing functional vegetable variety in *Allium*. Workshop for International Phytomedomics and Nutriomics Consortium (ICPN), Plant & Animal Genome Conference XXVI. San Diego, USA (Jan., 2018)

国内学会等

1) 執行正義：オミクス情報を利用する分子育種を見据えたネギ属植物ゲノム情報の蓄積．平成 29 年度野菜花き課題別研究会「野菜のゲノム情報を活用した育種選抜の現状と展望」（三重県津市）（2017 年 10 月）
2) 山本晴彦：2017 年 7 月 5 日に九州北部で発生した豪雨と水害の特徴．平成 29 年度日本農業気象学会九州支部・日本生物環境工学会九州支部合同大会（北九州学術研究都市産学連携センター）（2017 年 11 月 24 日）
3) 執行正義：植物工場の生産効率向上（執行法）．（株）技術情報センター　植物工場黒字化・生産効率向上と事例分析セミナー（東京都千代田区）（2018 年 2 月）

2）森林資源学連合講座

【島根大学】

国内学会等

1) 井上憲一：中山間地域での耕畜連携システムの展開条件．第 55 回肉用牛研究会大会（ビッグハート出雲，出雲市）（2017 年 11 月）

2 生物環境科学専攻

2）環境科学連合講座

【鳥取大学】

国際学会等

1) Ichiyanagi, T.: Synthetic Study of Branched Inner-core Oligosaccharide of Liopopoly- and Lipooligosaccharide. KoRS-CB Mini-Symposium Carbohydrates: Chemistry and Biology, Germany, Konstanz (Jul., 2017)

2) Shimomura, N.: Establishment of breeding system in the ectomycorrhizal mushroom *Rhizopogon roseolus.* The 2nd International Workshop on Edible Mushroom Cultivation Technology. Cibinong, Bogor, Indonesia (Sep., 2017)
3) Nakagiri, A.: Exploitation of mushroom resources: new approaches for contributing to human health and agriculture. The 14th International Joint Symposium between Korea and Japan, Fukuoka, Japan (Nov., 2017)

国内学会等

1) 石原亨：きのこは宝の山か？−きのこ抽出物からの美白成分の発見−．新技術説明会 JST 東京本部（東京）（2017 年 10 月）
2) 石原亨：きのこは宝の山−きのこ抽出物ライブラリーからの生理活性物質の探索− 第５０回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会　（鳥取県鳥取市）（2017 年 11 月）
3) 一柳剛：合成化学的手法によるリポ多糖の内部コア糖鎖ライブラリ構築と活用．かがわ糖質バイオフォーラム「複合糖質・糖鎖研究会」（香川県高松市）（2018 年 1 月）

【山口大学】

国内学会等

1) 横山和平：土着菌を活かす．ＣＤＵ施用により集積される微生物を用いた土壌伝染性病害の生態学的防除の可能性．環境微生物系学会合同大会シンポジウム「企画 S12 微生物を活用した栽培技術の開発と普及」（東北大学）（2017）

3 生物資源科学専攻

1）生物機能科学連合講座

【島根大学】

国際学会等

1) Nishino, K., Kushima, M., Kaino, T., Matsuo, Y. and Kawamukai, M.: Cell lysis induced in *Schizosaccharomyces pombe ura4* mutants. The 9th international Fission yeast meeting, (May, 2017)
2) Kawamukai, M.: Utilization of fission yeast *Schizosaccharomyces japonicus*. The 7th FerVAAP & The 12th ABBS, Khon Kaen, Thailand (Jul., 2017)
3) Shiotsuki, T.: Functions of Lepidopteran Carboxylesterase and Insecticide Detoxification. Spodpptera International Conference, Chongqing, China (Nov., 2017)

国内学会等

1) Nishikawa, A., Miyata, S., Kawakami, T., Hikiji, Y., Tazawa, I. and Tone, S.: Importance of frogs as an experimental model for evodevo study of interdigital cell death and webbing formation. Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists (50th), Program Book p 93 & p 118 (May, 2017)
2) 松崎貴：毛髪の長さ・太さ・形を決める毛周期のしくみ．日本毛髪科学協会 第 67 回全国セミナー（東京）（2017 年 6 月）
3) 小川貴央：植物の補酵素型ビタミン代謝における Nudix hydrolase ファミリーの生理的役割．日本ビタミン学会第 69 回大会奨励賞受賞講演（神奈川県横浜市）（2017 年 6 月）
4) 石川孝博：オミクス解析によるユーグレナワックスエステル代謝調節機構の解明．ユーグレナ研究会第 33 回大会シンポジウム（北海道帯広市）（2017 年 8 月）

5) 石川孝博：形質転換ユーグレナによるバイオ燃料生産基盤技術の開発．JST 藻類バイオエネルギー領域公開シンポジウム（東京都新宿区）（2017 年 11 月）
6) 川向誠：コエンザイム Q10 と老化、日本農芸化学会 2018 年度大会シンポジウム（2018 年 3 月）

【山口大学】

国内学会等

1) Yamada, M: Genomic aspects on thermotolerance, thermal adaptation and thermal stability, and application of thermotolerant microbes, the 7th Fer VAAP & the 12th ABBS, Abstract p 4, Khon Kean, Thailand, (Jul., 2017)
2) 片岡尚也*・Vangnai A.S・ 藥師寿治・松下一信：大腸菌による 1,3-ジオール類の生産．第 69 回日本生物工学会年次大会（東京都）（2017 年 9 月）（特別口頭発表）
3) 片岡尚也*・Vangnai A.S・藥師寿治・和田大・横田篤・松下一信：好気代謝の改変による *Corynebacterium glutamicum* での効率的ピルビン酸生産．日本農芸化学会 2018 年度大会（愛知県名古屋市）（2018 年 3 月）

2）資源利用化学連合講座

【鳥取大学】

国際学会等

1) Tamura, J.: Systematic synthesis of glycosaminoglycan oligosaccharides. 255th American Chemical Society National Meeting. New Orleans, Louisiana, USA (Mar., 2018)

国内学会等

1) 岩崎崇：細胞膜透過ペプチド『ポリヒスチジン』の発見と動物・植物細胞に対する応用研究．日本農芸化学会中四国支部第 26 回若手研究者シンポジウム（広島県東広島市）（2017 年 10 月）
2) 田村純一：オリゴ糖鎖の精密化学合成．石油・石油化学討論会（鳥取市）（2017 年 11 月）

【島根大学】

国際学会等

1) Yoshikiyo, K.*, Hisatake, R., Yamaguchi, J., Yamamoto, T.: Preparation of nucleus targeting molecular capsule and its intracellular localization. 5th China-Japan Symposium on Nanomedicine. Suzhou, China (Sep., 2017)
2) Noothalapati, H., Kaliaperumal, V., Yamamoto, T. and Hamaguchi, H.: Imaging pharmacology in single yeast cells by confocal Raman microspectroscopy, Fifth Taiwan International Symposium on Raman Spectroscopy, Chiayi, Taiwan (Jun., 2017)
3) Yamamoto, T., Kaneko, A, Enokizu, S., Noothalapati, H., Kawamukai, M., Kaino, T., Ishikawa, T., Tanaka, Y., Ando, M., and Hamaguchi, H.: A Raman imaging study on living single-celled microorganisms, Fifth Taiwan International Symposium on Raman Spectroscopy, Chiayi, Taiwan (Jun., 2017)
4) Yamamoto, T.: Time-resolved intracellular distribution of paramylon and wax ester in Euglena cell by MCR assisted Raman microspectroscopy, Sixth Asian Spectroscopy Conference, Hsinchu, Taiwan, (Sep., 2017)
5) Yamamoto, T. and Noothalapati, H.: Univariate and multivariate Raman imaging studies on living single celled microorganisms, International Conference on Spectroscopy of Biomolecules and Advanced Materials, Christian College, Chengannur, Kerala, India (Oct., 2017)

6) Yokota, K.*, Kimura, H., Nakai, S., Jisaka, M.: Analysis of polyphenolic antioxidants from regional bioresources and their heath benefits for the uses as food additives and nutraceuticals. Invited lecture. International Conference on Emerging Trends in Biotechnology for Waste Conversion and XIV Annual Conversion of Biotech Research Society, Nagpur, (Oct., 2017)
7) Yamamoto, T. and Noothalapati, H.: Raman imaging study on living single-celled microorganisms. Biomedical Molecular Imaging 2017, New Taipei, Taiwan (Nov., 2017)
8) Yokota, K.*, Nakai, S., Kimura, H., Jisaka, M.: Structural characterization of flavonoids from indigo leaves and their health benefits applicable to medicinal and nutraceutical products. Keynote presentation. The 10th Asian Federation of Biotechnology Regional Symposium (ARS 2018), Dhaka, (Jan., 2018)
9) Yamamoto, T.: Raman imaging study on single-celled microorganisms, 90 Years of Raman Effect: Current Status and Future Directions, Bagalore, India (Feb., 2018)

国内学会等

1) 清水英寿 : お肉をたくさん食べるのは健康に良いの？悪いの？-腸内環境から見た違い-. 日本農芸化学会中四国支部第 33 回市民フォーラム（島根県松江市）（2017 年 9 月）
2) 山本達之*・岩﨑啓太・西田達郎・五十嵐良・戒能智宏・寺尾啓二・中田大介・生田直子・安藤正浩・濵口宏夫・川向誠・ヘマンス ヌータラパティ：幾つかの抗酸化剤のγ-シクロデキストリン包接体が分裂酵母の生育に与える影響のラマン分光法による評価，医用分光学研究会第 15 回年会（茨城県つくば市）（2017 年 11 月）

【山口大学】

国内学会等

1) 赤壁善彦：香料化学の実践的活用．第 61 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会．（石川県金沢市）（2017 年 9 月）

4 国際乾燥地科学専攻

国際乾燥地科学連合講座

【鳥取大学】

国際学会等

1) Fujimaki, H.: Optimization of the capacity of reservoirs in water harvesting. Workshop on Innovative Water Resource Management. Tehran, Iran (Jul., 2017)
2) Tsunekawa, A.: Sustainable Land Management to achieve land degradation neutrality. The Sixth Kubuqi International Desert Forum, Kubuqi, China, (Jul., 2017)
3) Akashi, K.: Wild watermelon and the related plant resources in the Kalahari Desert, Botswana: Citrulline metabolism and its physiological effects. International Alumni Symposium 2017, “Natural Compounds: From molecular mechanism to applications”, Technische Universitat Dresden, Gohrisch, Germany. (Sep., 2017)
4) Tsujimoto, H.: Mining useful genes of wild species for sustainable wheat production under climate change. Special Lecture of Triticeae Research Institute, Sichuan Agricultural University. Sichuan, China, (Oct., 2017)
5) Tsujimoto, H.: Impact of climate change on agriculture. Sudan Environmental Forum, University of Khartoum, Khartoum, Sudan, (Feb., 2018)
6) Tsujimoto, H: Wild gene mining for sustainable wheat production under changing climate. 11th International Symposium Exploring the Global Sustainability. Kobe, Japan, (Mar., 2018)

国内学会等

1) 山田智：塩からい水で魚と野菜を育てる -乾燥地での持続的な食料生産をめざして-．平成 29 年度日本農学会シンポジウム（東京都文京区）（2017 年 10 月）

【山口大学】

国内学会等

1) 鈴木賢士 : 降水粒子直接観測が貢献できること～天からの手紙を取りに行く．第 39 回日本気象学会九州支部発表会，電気ビル共創館（福岡）（2018 年 3 月）

第３章　学術賞等の受賞

1 生物生産科学専攻

1）農業生産学連合講座

【島根大学】

鶴永　陽子：島根大学　平成 29 年度女性研究表彰受賞（2017 年 9 月 22 日）

江角　智也：園芸学会奨励賞（2018 年 3 月 24 日）

小林　伸雄：園芸学会　平成 29 年度優秀論文賞（2018 年 3 月 24 日）

中務　　明：園芸学会　平成 29 年度優秀論文賞（2018 年 3 月 24 日）

2）森林資源学連合講座

【鳥取大学】

日置　佳之：ELR2017NAGOYA 優秀ポスター賞（2017 年 9 月）

2 生物環境科学専攻

1）生産環境工学連合講座

【鳥取大学】

猪迫　耕二：平成 29 年度鳥取大学長表彰「生命環境農学科の設置，運営における貢献」

兵頭　正浩：平成 29 年鳥取大学科学研究業績表彰（2018 年 2 月）

【島根大学】

武田　育郎：農業農村工学会優秀論文賞（2017 年 8 月 29 日）

2）環境科学連合講座

【鳥取大学】

石原　　亨：Ube, N.*, Ishikawa, Y., Nishizaka, M., Ueno, M., Tonooka, T., Taketa, S. and Ishihara, A.: Evolutionary changes in defensive secondary metabolism in the genus *Hordeum*. The joint meeting of the 33rd Annual meeting of International Society of Chemical Ecology and the 9th meeting of the Asia Pacific Association of Chemical Ecology. Kyoto, Japan (Aug., 2017) Best Poster Award.

児玉基一朗：Journal of General Plant Pathology（日本植物病理学会英文誌）論文賞受賞（2018 年 3 月 25 日）

前川二太郎：第 18 回日本菌学会賞受賞（2017 年 8 月 29 日）

早乙女　梢：武部祐也・高野麻理子・前川二太郎・中桐昭・早乙女梢：色素の脱色を利用した白色腐朽菌のリグニン分解酵素類の分析．日本きのこ学会第 21 回大会優秀ポスター賞，日本きのこ学会第 21 回大会（宮崎県宮崎市）（2017 年 9 月）

3 生物資源科学専攻

(1) 生物機能科学連合講座

【島根大学】

小川　貴央：日本ビタミン学会奨励賞（2017 年 6 月 9 日）

児玉　有紀：平成 29 年度島根大学女性研究者表彰（2017 年 9 月 22 日）
日本原生生物学会賞（2017 年 11 月 18 日）

石川　孝博：日本学術振興会科研費審査員表彰（2017 年 9 月 29 日）
島根大学若手研究者表彰（2017 年 9 月 22 日）

川向　　誠：島根大学研究表彰（2017 年 9 月 22 日）
日本農芸化学会 2018 年度大会トピックス賞（2018 年 3 月 27 日）
日本農芸化学会 B.B.B. Most cited review Award（2018 年 3 月 15 日）
日本農芸化学会論文賞（Award for Excellence to Authors Publishing in *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry* in 2017（2018 年 3 月 15 日）

戒能　智宏：2017 年 B.B.B. 論文賞（2018 年 3 月 15 日）
日本農芸化学会 2018 年度大会トピックス賞（2018 年 3 月 27 日）

松尾　安浩：2017 年 B.B.B. 論文賞（2018 年 3 月 15 日）

【山口大学】

藥師　寿治：天野エンザイム研究奨励賞（2017 年 6 月 2 日）

第4章　研　究　助　成

1 生物生産科学専攻

1）農業生産学連合講座

【鳥取大学】

科学研究費

田村　文男　基盤研究（C）：温暖化後も栽培可能な少低温要求性ニホンナシの育種と休眠主動遺伝子の同定
山口　武視　基盤研究（C）：塩生植物アッケシソウのバイオ燃料生産能と環境修復能の実証試験による評価
竹村　圭弘　若手研究（B）：少低温要求性ニホンナシ品種の早期選抜方法の検討

その他

近藤　謙介　奨学寄附金：1 件，共同研究：2 件
竹村　圭弘　受託研究：3 件
田村　文男　奨学寄附金：2 件，受託研究：1 件
田中　裕之　共同研究：4 件

【島根大学】

科学研究費

小林　伸雄　基盤研究（B）：日本から海外に渡ったツツジ園芸品種の遺伝的選抜と栽培環境適応に関する研究
中務　　明　基盤研究（C）：白－赤－紫のアントシアニン着色における原因遺伝子の変異解析
鶴永　陽子　基盤研究（C）：渋柿における新しい脱渋方法の開発とその作用機序の解明
小林　和広　挑戦的萌芽研究：発展途上国における作物生産阻害要因を検出するための開花撮影法開発
浅尾　俊樹　特別研究員奨励費：自家中毒発生イチゴの根から滲出したフェノール物質に対する抵抗性メカニズムの解明

その他

浅尾　俊樹　受託研究：1 件，共同研究：2 件
江角　智也　受託研究：2 件，共同研究：1 件
小林　和広　受託研究：1 件
小林　伸雄　共同研究：2 件
松本　敏一　奨学寄付金：1 件，受託研究：2 件，共同研究：2 件
松本　真悟　奨学寄付金：2 件，受託研究：1 件，共同研究：3 件
中務　　明　受託研究：1 件
田中　秀幸　共同研究：1 件
鶴永　陽子　受託研究：1 件，共同研究：1 件

【山口大学】

科学研究費

執行　正義　基盤研究（B）：オミクス統合解析によるニンニク遺伝資源・コアコレクションの構築とその機能性評価

山本　晴彦　基盤研究（B）：中国東北部の冷帯稲作地帯における気象・水資源の 100 年変動に基づく生産リスク予測［海外学術調査］

その他

細井　栄嗣　受託研究：1 件，共同研究：1 件

執行　正義　奨学寄附金：1 件，受託研究：3 件，共同研究：1 件

高橋　　肇　受託研究：2 件

山本　晴彦　奨学寄付金：3 件，受託研究：3 件，共同研究：1 件

2）森林資源学連合講座

【鳥取大学】

科学研究費

長澤　良太　基盤研究（C）：リモートセンシングと Web-GIS を用いた動的土地利用図作成手法の検討

岩永　史子　若手研究（B）：沙漠緑化樹種 *Populus simonii* の埋砂・退砂環境における適応戦略

その他

日置　佳之　奨学寄附金：2 件

岩永　史子　共同研究：1 件

永松　　大　受託研究：3 件，共同研究：1 件

【島根大学】

その他

藤巻　玲路　奨学寄付金：1 件

伊藤　勝久　共同研究：1 件

久保満佐子　奨学寄付金：1 件，受託研究：1 件

3）経済・経営学連合講座

【鳥取大学】

科学研究費

片野　洋平　基盤研究（C）：放置された財の解消に向けて－山林、農地、家屋を対象とした包括的アプローチ－

松田　敏信　基盤研究（C）：マイクロ・マーケティングによる食料・農産物需要の計量経済学的研究

その他

古塚　秀夫　共同研究：1 件
片野　洋平　共同研究：3 件
松田　敏信　共同研究：1 件

【島根大学】

科学研究費

赤沢　克洋　基盤研究（C）：地域資源管理における経験価値マーケティングの戦略展開に関する定量分析

その他

伊藤　康宏　共同研究：2 件

2 生物環境科学専攻

1）生産環境工学連合講座

【鳥取大学】

科学研究費

猪迫　耕二　基盤研究（C）：開発途上国への技術移転を念頭においた塩害農地修復法の確立
兵頭　正浩　若手研究（B）：2017～2019 年度：断面内剛性による埋設とう性管および不とう性管の耐力評価手法の確立

その他

兵頭　正浩　奨学寄付金：2 件，共同研究：1 件
緒方　英彦　奨学寄附金：3 件，共同研究：2 件

【島根大学】

科学研究費

宗村　広昭　基盤研究（C）：渡鳥コハクチョウのもつ営農コスト削減ポテンシャルの検証と湖沼流域への負荷削減効果
谷野　章　　基盤研究（C）：受光角度を自律制御するエネルギー自給型の温室用半透過太陽電池ブラインドシステム

その他

宗村　広昭　共同研究：1 件
石井　将幸　奨学寄附金：2 件
矢島　啓　　奨学寄付金：1 件，受託研究：6 件

2）環境科学連合講座

【鳥取大学】

科学研究費

會見　忠則　基盤研究（C）：きのこは，なぜアルコール発酵できないのか？
一柳　剛　　基盤研究（C）：ヒト抗体が認識する LPS/LOS 内部コア糖鎖の合成とエピトープ解析
石原　亨　　基盤研究（C）：イネにおける抵抗性品種の開発を志向した二次代謝多様性の解明
児玉基一朗　基盤研究（C）：ネクロトロフ病原菌の二次代謝産物生産に依存した腐生・寄生・共生戦略の解明
松本　晃幸　基盤研究（C）：栽培きのこ類の早晩性を決定する QTL の責任遺伝子の同定と検出マーカーの開発
中桐　昭　　基盤研究（C）：菌根性きのこの胞子分離培養法および菌株保存法の開発による菌類遺伝資源の拡充
鶴崎　展巨　基盤研究（C）：ザトウムシ類における地理的核型分化・環状重複的種分化と分類学的改訂
大﨑久美子　若手研究（B）：タバコ病害抵抗性誘導機構を活性化するきのこ揮発性物質の探索とその作用機構
霜村　典宏　基盤研究（C）：海岸林・山林復旧を目的とした耐塩性および強増殖性ショウロ菌の開発
早乙女　梢　若手研究（B）：「エサの喰い方」の多様化から見た木材腐朽性きのこ類の進化の解明

その他

會見　忠則　共同研究：1 件
一柳　剛　　奨学寄附金：1 件，共同研究：2 件
石原　亨　　奨学寄附金：1 件，共同研究：1 件
児玉基一朗　受託研究：1 件，共同研究：6 件
前川二太郎　奨学寄附金：1 件，受託研究：1 件
松本　晃幸　受託研究：1 件
中桐　昭　　共同研究：1 件
鶴崎　展巨　受託研究：1 件
霜村　典宏　受託研究：1 件

【島根大学】

科学研究費

伊藤　和人　基盤研究（B）：安心・多収・良食味を実現するサツマイモの地域適応型エンドファイト利用技術の開発
桑原　智之　基盤研究（C）：三元素系複合含水酸化物を用いた地下水からの有害陰イオンの除去
高原　輝彦　基盤研究（C）：魚類の大量死イベントの予測手法の開発：水中の環境 mRNA とストレス物質を用いて

その他

堀之内正博　奨学寄付金：1 件，共同研究：1 件
泉　　洋平　共同研究：3 件
木原　淳一　共同研究：2 件

桑原　智之　奨学寄付金：1 件，共同研究：2 件
佐藤　利夫　奨学寄付金：1 件，受託研究：1 件，共同研究：1 件
高原　輝彦　奨学寄附金：2 件，受託研究：1 件
上野　誠　　奨学寄附金：1 件，共同研究：2 件
山口　啓子　受託研究：1 件

【山口大学】

科学研究費

竹松　葉子　基盤研究（C）：木材害虫ヤマトシロアリ属の日本における分類および分布と防除への応用
柳　由貴子　基盤研究（C）：アルミニウム一腐植複合体の微生物分解に対する安定性

その他

伊藤　真一　奨学寄付金：1 件，受託研究：1 件，共同研究：4 件
竹松　葉子　奨学寄附金：1 件，共同研究：1 件
横山　和平　奨学寄附金：2 件，共同研究：1 件

3 生物資源科学専攻

1）生物機能科学連合講座

【鳥取大学】

科学研究費

上中　弘典　基盤研究（B）：ナノファイバー化技術を用いたきのこ栽培廃菌床の持続的利用技術の開発
有馬　二朗　基盤研究（C）：リカ粒子形成促進タンパク質の機能を利用した酵素機能呈示シリコーン素材の創出
東　　政明　基盤研究（C）：昆虫の膜脂質特性を与えたリポソームを用いた溶質輸送調節の解析
上中　弘典　挑戦的萌芽研究：ラン科植物の「菌寄生性共生」の成立には相利共生の共通共生経路の遺伝子群が必要か？

その他

有馬　二朗　奨学寄附金：1 件，受託研究：2 件
東　　政明　共同研究：1 件
上中　弘典　奨学寄付金：1 件，受託研究：2 件，共同研究：2 件
岡　真理子　奨学寄附金：1 件，共同研究：1 件

【島根大学】

科学研究費

石川　孝博　基盤研究（B）：光による植物アスコルビン酸生合成調節の分子メカニズム解明

川向　誠　　基盤研究（B）：コエンザイム Q の新規生合成経路の解明
戒能　智宏　基盤研究（C）：コエンザイム Q が関与するシステイン代謝における酸化ストレス制御機構の解析
児玉　有紀　基盤研究（C）：繊毛虫のミドリゾウリムシを用いた細胞内共生の成立・維持機構の解明
中川　強　　基盤研究（C）：植物生殖器官の発達に関わる細胞内商用輸送の機能解析
石川　孝博　挑戦的萌芽研究：新規安定型アスコルビン酸プローブによる植物アスコルビン酸結合タンパク質の探索

その他

赤間　一仁　共同研究：1 件
石川　孝博　奨学寄付金：1 件，受託研究：1 件，共同研究：4 件
川向　誠　　奨学寄付金：1 件，受託研究：1 件
松崎　貴　　奨学寄付金：1 件，共同研究：2 件
小川　貴央　共同研究：1 件
塩月　孝博　奨学寄付金：1 件，共同研究：1 件

【山口大学】

科学研究費

小林　淳　　基盤研究（B）：昆虫中腸幹細胞培養分化系を基盤とした生理学および病理学的実験プラットフォームの構築
真野　純一　基盤研究（B）：レドックスシグナル伝達において活性カルボニル種はどのように特異的作用をもたらすか
高坂　智之　基盤研究（C）：高温性プロピオン酸酸化細菌におけるコハク酸酸化からの水素生成機構の生化学的解明
内海　俊彦　基盤研究（C）：タンパク質 N-ミリストイル化を介した膜タンパク質の新たな機能制御機構の解明
藥師　寿治　基盤研究（C）：基質特異性の「ゆるい」酢酸菌キノプロテイン脱水素酵素による新しい酸化的物質変換系
小林　淳　　挑戦的萌芽研究：逆遺伝学的アプローチによる不均一な蛹期間による両賭け戦略のメカニズム検証
真野　純一　挑戦的萌芽研究：親電子アルデヒド消去能に基づく“第二の抗酸化物質”の探索と動物への有効性評価
片岡　尚也　若手研究（B）：合成代謝経路の構築による“非天然型”短鎖脂肪酸生産技術の開発

その他

小林　淳　　奨学寄付金：1 件，共同研究：1 件
藥師　寿治　奨学寄付金：1 件
山田　守　　受託研究：2 件
片岡　尚也　奨学寄付金：2 件

2）資源利用化学連合講座

【鳥取大学】

科学研究費

岩崎　崇　　基盤研究（B）：ヒスチジンリッチペプチド／タンパク質の細胞内取り込み機構の統合的解明
河野　強　　基盤研究（B）：線虫の休眠打破機構に関する化学生物学的研究
田村　純一　基盤研究（C）：筋ジストロフィー治療のためのバイパス糖鎖の合成研究
渡邉　文雄　基盤研究（C）：食品添加物によるビタミン B12 不活性化機構と生体に及ぼす影響の解明
藪田　行哲　基盤研究（C）：12-オキソフィトジエン酸が関わるレトログレードシグナルの解明

その他

岩崎　崇　　奨学寄付金：2 件
河野　強　　共同研究：1 件
渡邉　文雄　奨学寄附金：2 件，共同研究：1 件
藪田　行哲　共同研究：1 件

【島根大学】

科学研究費

清水　英寿　基盤研究（B）：動物性タンパク質摂取過多に伴い発生する腸内発酵産物が腸内及び各種臓器に及ぼす影響
山本　達之　基盤研究（B）：ラマン分光法を用いた，好酸球性食道炎の非生検診断法の開発
吉清　恵介　若手研究（B）：環状オリゴ糖を用いたエゴマ油の粉末化による食品機能性の強化

その他

西村　浩二　受託研究：1 件，共同研究：2 件
清水　英寿　奨学寄附金：1 件
横田　一成　受託研究：1 件，共同研究：1 件
吉清　恵介　受託研究：1 件

【山口大学】

科学研究費

松井　健二　基盤研究（B）：化学防衛による植物陸上進出・陸域生態系適応戦略の解明
宮田　浩文　基盤研究（B）：筋サテライトセルを活性化する踏み台昇降運動の性別・年齢別検討
藤井　克彦　基盤研究（C）：消化汚泥を基質とした水素発酵に関するバイオテクノロジー研究
井内　良仁　基盤研究（C）：長寿命昆虫ヤマトシロアリの生存戦略
小崎　紳一　基盤研究（C）：感染性胃腸炎を引き起こす病原性細菌のヘム・鉄代謝機構の解明
肥塚　崇男　若手研究（B）：植物香気物質フェニルプロペン生合成経路の解明と代謝工学
宮田　浩文　挑戦的萌芽研究：ヒトの骨格筋特性は他の哺乳動物と異なるか？

その他

赤壁　善彦　共同研究：1 件

藤井　克彦　奨学寄付金：1 件，受託研究：1 件，共同研究：1 件

松井　健二　奨学寄附金：1 件，共同研究：1 件

宮田　浩文　受託研究：1 件

4 国際乾燥地科学専攻

国際乾燥地科学連合講座

【鳥取大学】

科学研究費

恒川　篤史　基盤研究（A）：国際河川・青ナイル川流域における土壌侵食・土壌流亡緩和のための土地管理」［海外学術調査］

黒崎　泰典　基盤研究（B）：ゴビ砂漠の詳細観測に基づく黄砂-地表面過程モデルの構築 [海外学術調査]

辻本　壽　　基盤研究（B）：高温耐性育種のためのコムギ野生植物変異の開拓

山中　典和　基盤研究（B）：黄砂発生域における草原生態系の菌根共生とグロマリン蓄積 [海外学術調査]

明石　欣也　基盤研究（C）：砂漠の野生種スイカにおける光反射機能の分子基盤

安　　萍　　基盤研究（C）：根の細胞壁の化学・物理性と作物の耐塩性の関係の解明

清水　克之　基盤研究（C）：黄土高原・チェックダム堆積土の持続的な農地利用

谷口　武士　若手研究（A）：メタゲノム解析と難培養微生物利用を基盤とした有用な植物－複合微生物共生系の構築

辻本　壽　　挑戦的萌芽研究：共生関係が成立するコムギおよびエンドファイトの遺伝子型の探索

恒川　篤史　地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）：砂漠化対処に向けた次世代型「持続可能な土地管理（SLM）」フレームワークの開発

その他

明石　欣也　奨学寄附金：2 件，共同研究：1 件

安　　萍　　奨学寄付金：3 件，共同研究：10 件

藤巻　晴行　共同研究：3 件

木村　玲二　受託研究：1 件，共同研究：7 件

衣笠　利彦　共同研究：1 件

齊藤　忠臣　共同研究：4 件

清水　克之　受託研究：1 件，共同研究：1 件

谷口　武士　共同研究：3 件

辻本　壽　　奨学寄附金：2 件

山田　智　　受託研究：1 件

山本　定博　共同研究：件

安田　裕　　共同研究：3 件

【島根大学】

その他

一戸　俊義　共同研究：1 件
増永　二之　受託研究：3 件
佐藤　邦明　共同研究：1 件
宋　　相憲　共同研究：1 件

【山口大学】

科学研究費

荊木　康臣　挑戦的萌芽研究：光計測に基づく植物病害抵抗性誘導の非破壊検出手法の開発

その他

荊木　康臣　受託研究：1 件
鈴木　賢士　共同研究：2 件

第５章　その他の教育研究活動

1 生物生産科学専攻

1）農業生産学連合講座

【鳥取大学】

近藤　謙介　・放送大学鳥取学習センター　面接授業「野菜を育てる」，非常勤講師（2017 年 6 月 3 日–4 日）
・FSC あぐりの学び舎「土の話、栽培の話」（鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター）（2018 年 3 月 15 日）

竹村　圭弘　・第 9 期 鳥取梨つくり大学「温暖化とナシ栽培」（倉吉未来中心）（2017 年 6 月 24 日）
・島根県農業協同組合出雲地区本部神門梨部会研修会「ナシの温暖化対策」（鳥取大学大塚農場）（2017 年 7 月 6 日）
・琴浦梨生産部女性会　視察研修会「異常気象に左右されない安定的な梨栽培を目指して」（鳥取大学大塚農場）（2017 年 7 月 18 日）
・平成 29 年度庄原市指導農業士会等合同研修会「冬季低日照地域での省エネ栽培が期待される EOD 技術について」（庄原市西城自治振興センター）（2017 年 7 月 26 日）
・平成 29 年度農業実験実習講習会「梨の果実品質を評価する」（鳥取大学農学部）（2017 年 8 月 1 日）
・園芸学会平成 29 年度秋季大会小集会「温暖化に伴う発芽・結実不良への対策」（酪農学園大学）（2017 年 9 月 1 日）
・平成 29 年度庄内園芸振興技術研修会「冬季低日照地帯における EOD 栽培技術の導入について」（庄内総合支庁農業普及課産地研究室大会議室）（2017 年 9 月 28 日）

【島根大学】

江角　智也　・島根大学農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター
・島根大学 COC 事業　地域志向教育研究経費　農業六次産業化活動での地域協力の取り組み
・第 8 回国際オウトウシンポジウム実行委員会委員（2017 年 6 月 5〜9 日）

小林　伸雄　・のとキリシマツツジ育成講習会講師．石川県立能登産業技術専門校（石川県能登町）（2017 年 5 月，10 月）

松本　真悟　・島根県農林水産部農業経営課普及員トレーナー研修講師（2017 年 4 月）
・海藻農法普及協議会（2017 年 6 月）
・雲州ニンジン現地意見交換会（島根県松江市，JA くにびき）（2017 年 7 月）
・海藻農法普及協議会（2017 年 6 月）
・中国地域産学官コラボレーション会議講師，なかうみ海藻のめぐみのとりくみ等について（2017 年 7 月）
・斐伊川水系生態系ネットワーク協議会　地域づくり部会委員（2018 年 2 月）
・日本土壌肥料学会　第六部門次長
・Soil Science and Plant Nutrition 編集委員
・農業生産技術管理学会誌　編集委員長

2）森林資源学連合講座

【鳥取大学】

日置　佳之　・鳥取大学地域貢献支援事業
・鳥取大学地（知）の拠点整備事業
・日本緑化センター自然再生士試験委員（2011 年度～）
・鳥取県湖山池環境モニタリング委員会委員長（2012 年度～）

岩永　史子　・市民講座：智頭の山人塾「蒜山合宿」，講師（岡山県真庭市）（2018 年 3 月 3 日−3 月 4 日）

永松　　大　・日本生態学会中国四国地区会会長，応用森林学会学会誌編集委員長
・鳥取県文化財保護審議会会長，鳥取砂丘再生会議保全再生部会長
・兵庫県立村岡高校「総合的な学習の時間」非常勤講師（兵庫県香美町）（2017 年 6 月 1 日）
・山陰海岸国立公園多鯰ヶ池あおぞらチャレンジ！「外来種と生きもの観察」講師（鳥取市）（2017 年 11 月 11 日）
・鳥取砂丘大学 砂丘生物講座（植物）講師（鳥取市）（2017 年 11 月 26 日）
・ふしぎ発見！鳥取砂丘 鳥取砂丘調査研究報告会講師「鳥取砂丘の植物分布はどのように決まっているのか」鳥取砂丘再生会議（鳥取市）（2018 年 1 月 27 日）
・鳥取大学日南町連携事業報告会講師「特定外来生物オオハンゴンソウの抑制に向けて」（鳥取県日南町）（2018 年 3 月 3 日）
・環境省近畿地方環境事務所 鳥取砂丘地域のあり方に関する意見交換会「砂丘の使い方・守り方」パネリスト（鳥取砂丘情報館）（2018 年 3 月 6 日）

【島根大学】

伊藤　勝久　・放送大学放送教材（ラジオ番組）『都市と農山村から見る身近な経済‘18』
「第 6 回　農業・農村の新しい取り組み」（坂田と対談），
「第 7 回　森林・林業の新しい取り組み」（坂田と対談），
「第 10 回　農山村のコミュニティー」（坂井と対談），
「第 15 回　都市と農山村の比較検討」（坂田、坂井、新井と座談）（2017 年 10 月～2018 年 1 月）
・「林政・林業法律，森林経理」．森林利用国際インターンシップ事前講習（岡山大学地域総合研究センター，岡山市）（2017 年 8 月）
・「森林政策学」．集中講義（愛媛大学農学部，松山市）（2017 年 12 月）

久保満佐子　・「理数科校外研修　フィールドワーク研修（植生調査）」講師．岡山県立倉敷天城高等学校（鳥取県江府町）（2017 年 8 月）

3）経済・経営学連合講座

【鳥取大学】

片野　洋平　・日本社会学会 編集委員（2016 年 3 月～）
・社会調査協会『社会と調査』査読委員（2017 年～）
・放置財研究会　座長「鳥取県庁および日南町の放置された財について研究を深める会」（2015 年 7 月～）
・鳥取大学・日南町ワーキンググループ会議　座長（2017 年 4 月～）
・タイ国コンケン大学との留学プログラム　農学部幹事（2017 年 10 月 8 日～14 日）

【島根大学】

井上　憲一　·農業経営論．島根県ＪＡ職員資格認証試験「農家経営指導員」（出雲市）（2017 年 6 月）
·柿木村「農村経済更生計画」を読む．手づくり自治区柿木村主催勉強会（鹿足郡吉賀町）（2017 年 7 月）
·組織マネジメント．ＪＡ島根中央会平成 29 年度ＪＡ戦略型中核人材育成研修（松江市）（2017 年 8 月）
·六次産業化に取り組む農業経営の特徴．浜田市・島根大学生物資源科学部連携企画－人材育成講座－（浜田市）（2018 年 3 月）

伊藤　康宏　·松江市史講座（松江市プラバホール）（2017 年 6 月 17 日）
·島根大学公開講座（大田市馬路まちづくりセンター）（2018 年 3 月 24 日）

2 生物環境科学専攻

1）生産環境工学連合講座

【鳥取大学】

猪迫　耕二　·鳥取農業大学校非常勤講師
·JICA 集団研修「乾燥地における持続的農業のための土地・水資源の適性管理」の代表および講師

緒方　英彦　·農業農村工学会　研究委員会委員，プログラム編成小委員会委員長，材料施工研究部会幹事，農村道路研究部会幹事
·日本コンクリート工学会　自然環境下のコンクリート劣化研究委員会（TC164A）幹事，コンクリート工学年次論文査読委員会委員
·農業水利施設機能総合診断士試験講習会（農業土木事業協会）講師
·鳥取県河川委員会（鳥取県県土整備部河川課）委員
·鉱山跡措置技術委員会（独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター）委員
·農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル（水路トンネル編）作成委員会（東北農政局土地改良技術事務所）委員
·土地改良事業計画設計基準 設計 ポンプ場改訂委員会（農林水産省農村振興局設計課施工企画調整室）委員
·土地改良事業計画設計基準 計画 排水改訂委員会（農林水産省農村振興局農村政策部農村環境課）委員
·刀利ダム安全性評価検討部会（アーチダム）（日本水土総合研究所，北陸農政局管内国営造成ダム技術検討業務委託事業）委員
·食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会技術小委員会（農林水産省農村振興局）委員

【島根大学】

石井　将幸　·平成 29 年度 農業土木技術管理士研修会（松江会場）講演「限界状態設計法とは．－設計手法の性能規定化を実現するために－」（水土里ネットしまね，島根県松江市）（2017 年 6 月 6 日）
·平成 29 年度中国地方建設開発技術開発交流会．基調講演「社会資本の機能保全計画と各種リスクの評価手法」（くにびきメッセ，島根県松江市）（2017 年 10 月 6 日）

武田　育郎　・日本水環境学会中国四国支部長
・環境技術学会「環境技術」編集委員
・Editorial Board (The Open Hydrology Journal)

矢島　啓　・応用生態工学科委広島・土木学会水工学委員会ジョイントシンポジウム「ダム貯水池における水環境に関する現状と将来」コーディネータ（松江テルサ）（2017 年 11 月 7 日）
・平成 29 年度後期島根大学公開講座汽水域との付き合い方（2)「波と流れがヤマトシジミの移動に与える影響」（島根大学エスチュアリー研究センター）（2017 年 11 月 10 日）
・土木学会水工学委員会委員兼幹事（2015 年度～）
・土木学会水工学委員会水工学論文集編集小委員会委員兼幹事（2015 年度～）
・土木学会水工学委員会環境水理部会部会長（2015 年度～）
・土木学会水工学委員会グローカル気候変動適応研究推進小委員会幹事（2017 年度～）
・土木学会環境システム委員会委員（2017 年度～）
・International Water Association: Lake and Reservoir Management Specialist group 委員（2016 年度～）
・国土交通省斐伊川河川整備アドバイザー会議委員（2015 年度～）
・国土交通省千代川河川アドバイザー会議委員（2012 年度～）
・国土交通省殿ダムモニタリング委員会委員（2010 年度～）
・島根県宍道湖保全再生協議会委員：（2012 年度～2017 年度）
・島根県神戸川の河川環境に関する協議会委員（2017 年度～）
・鳥取県狐川水質浄化対策検討会アドバイザー（2017 年度）
・鳥取県内水面利用調整委員会委員（2014 年度～）
・地域適応コンソーシアム中国・四国地域事業中国四国地域協議会委員（2017 年度～）
・水シンポジウム 2018 in ふじのくに・沼津実行委員会委員・企画部会部会員（2017 年度～）
・世界湖沼会議実行委員会第 2 分科検討部会委員（2017 年度～）

2）環境科学連合講座

【鳥取大学】

児玉基一朗　・はりま産学交流会講演「未発掘地域資源の活用に向けて　-梨ポリフェノールと天然酵母-」（姫路市）（2017 年 5 月 19 日）
・鳥取大学サイエンス・アカデミー講演「おいしいローカル“天然・野性酵母”の科学」（鳥取市）（2017 年 12 月 23 日）

中桐　昭　・平成 29 年度大学開放推進事業　鳥取大学菌類きのこ観察講座」“野外でのきのこ観察と顕微鏡実習ー”（とっとり出会いの森および鳥取大学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター）（2017 年 7 月 29 日）

霜村　典宏　・“知と創造”農学セミナー「きのこの栽培について」但馬農業高等学校（2017 年 10 月）

鶴崎　展巨　・砂丘生物講座．「鳥取砂丘の昆虫の自然史．絶滅危惧昆虫の多様な顔ぶれとそれらの生態．」平成 29 年度鳥取砂丘大学　砂丘生物講座（鳥取県立図書館）（2017 年 11 月 26 日）

【島根大学】

堀之内正博　・International Workshop on Tropical Ecosystem: Mangrove and Seagrass Habitats 開催
Rajamangala University of Technology Srivijaya, Trang Campus, Sikao, Trang, Thailand.
(29 Jun., – 8 Jul., 2017)

桑原　智之　·日本水環境学会中国・四国支部　幹事
·日本水環境学会　年会・シンポジウム等検討委員

佐藤　利夫　·日本本防菌防黴学会：評議員
·日本海水学会：評議員
·島根県雇用対策推進会議委員
·島根県ヘルスケア産業推進協議会委員
·島根県生活環境部環境影響評価技術審査会委員
·島根県生活環境部グリーン製品認定委員会委員
·依頼講演：沖縄工業高等専門学校,「島根大学の地域連携・貢献に関する取組と官民連携.
－COC 事業・COC＋事業を中心に一」（名護市）（2017 年 7 月 6 日）
·パネリスト：エネルギー構造転換シンポジウム,「明日の松江、目覚める資源.〜地熱などを
活用したエネルギー構造転換〜」,（松江市）（2018 年 2 月 18 日）

高原　輝彦　·日本生態学会企画委員会高校生ポスター部会員

【山口大学】

柳　由貴子　·宮崎県環境影響評価専門委員会委員

横山　和平　·香川大学農学部非常勤講師（2017 年 12 月）

3 生物資源科学専攻

1）生物機能科学連合講座

【島根大学】

石川　孝博　·石川孝博：なぜ野菜・果物にビタミンCが豊富に含まれているのか？　第 50 回 日本栄養・食糧学会 中国・四国支部大会　市民公開講座　（鳥取県鳥取市）（2017 年 11 月）
·（知財出願）田中優史・小川貴央・丸田隆典・石川孝博・荒川和晴・鈴木健吾：「ユーグレナのパラミロン含有量を増加させる方法」特願 2017-091320，特許第 6242525 号（2017 年 5 月 1 日）

戒能　智宏　·西田郁久・戒能智宏：平成 29 年度生物資源科学部セミナーおよび島根県食品工業研究会との交流会「島根県の特色ある食品素材中における機能性成分の分析」

川向　誠　·平成29年度生物資源科学部セミナーおよび島根県食品工業研究会との交流会(2018年2月23日)

児玉　有紀　·ミドリゾウリムシが解き明かす細胞進化の謎.（インテックス大阪）（2017 年 6 月 17 日）
·細胞内共生研究の新たなモデル生物ミドリゾウリムシ．出前講義講師（島根県立大田高等学校）（2017 年 7 月 7 日）
·ゾウリムシの一生．ひらめき☆ときめきサイエンス講師（島根大学，松江市）（2017 年 8 月 4 日）
·Zoological Science 編集委員
·ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）ゾウリムシ 運営委員会委員長

中川　　強　·ひらめき☆ときめきサイエンス「細胞の世界−ミクロの不思議な世界をさぐる−」
（島根大学生物資源科学部 1 号館）（2017 年 8 月 4 日）

西川　彰男　·公開授業「発生生物学」（島根大学）（2018 年 2 月）

小川　貴央　·科学の祭典 2017 科学の縁結び祭（2017 年 7 月 29−30 日）
·しまね大交流会 2017（2017 年 11 月 18 日）

林　　蘇娟　・「日本産スイカズラ(*Lonicera japonica* Thunb.)の生物多様性 ーー花弁、薬用植物として」第 8 回しまね女性研究者ご縁ネットイブニングミーティング，講演（2017 年 4 月）
・文部科学省平成 29 年度第 7 回サイエンス・インカレ授賞評価・審査委員（2017 年 10 月-2018 年 3 月）

2) 資源利用化学連合講座

【鳥取大学】

河野　強　・鳥取大学サイエンスアカデミー　第 414 回「モデル生物・線虫 C.エレガンスの世界」（鳥取県立図書館）（2017 年 5 月 14 日）

田村　純一　・鳥取城北高等学校 体験学習「エステルの化学」（鳥取大学）（2017 年 9 月 16 日）
・資源の循環利用を考えるシンポジウム「駆除獣未利用部位に含まれる機能糖鎖」（鳥取大学）（2017 年 11 月 24 日）
・兵庫県立小野高等学校コースセミナー「鹿茸に含まれる有用糖鎖の単離と分析」（小野高等学校）（2018 年 2 月 5 日）

【島根大学】

横田　一成　・地域の生物資源に由来するポリフェノール性抗酸化物質の分析と健康機能. 生物資源科学特論 II, 英語での講義（鳥取大学大学院連合農学研究科，島根大学生物資源科学部）（2017 年 8 月）
・横田一成・中井翔太・木村英人：トチノミのフラボノール配糖体の構造と抗酸化性．特産食品機能強化プロジェクト：地域の生物資源に由来するフラボノール配糖体の食品機能性，平成 29 年度生物資源科学部セミナーおよび島根県食品工業研究会との交流会（島根大学生物資源科学部）（2018 年 2 月）

【山口大学】

赤壁　善彦　・山口県食品開発推進協議会委員
・山口市森林セラピー協議会委員
・椹野川流域の魚食文化を普及する会委員

4 国際乾燥地科学連合専攻

国際乾燥地科学連合講座

【鳥取大学】

遠藤　常嘉　・農業実験実習講習会「乾燥地の農業と土壌劣化」（鳥取市）（2017 年 8 月）
・鳥取県立倉吉総合看護専門学校　非常勤講師「人間と環境」（2017 年 11 月，12 月）
・鳥取県鳥取東高等学校理数科課題研究発表会審査委員（2018 年 1 月）

黒崎　泰典　・中ノ郷中学校の職場体験学習「ハートワーク中ノ郷」（2017 年 6 月 23 日）
・黄砂発生源における砂漠化モニタリング～モンゴルの風邪（黄砂）の原因～．平成 29 年度国立大学附置研究所・センター長会議 第２部会シンポジウム（鳥取市とりぎん文化会館）（2017 年 11 月 11 日）
・鳥取大学ジュニアドクター育成塾 めざせ！地球を救う環境博士（JST 事業）講義（2018 年 2 月 4 日）
・入試問題（東京都立中学校）の材料として利用される。
：第 1 章第 5 節黄砂の発生メカニズム．黄砂 - 健康・生活環境への影響と対策（黒崎泰典・黒沢洋一・篠田雅人・山中和典編，ISBN: 978-4-621-30029-9）．丸善出版，東京，pp. 34-47（2016 年 3 月）

辻本　壽　・日本学術会議連携会員

恒川　篤史　・国際乾燥地研究教育機構推進室長
・日本学術振興会　学術研究センター　主任研究員

山本　定博　・Production of biochar from the low-temperature pyrolysis of plant residue and its utilization as a soil amendment.　中華人民共和国・黒竜江省農業科学院大学院特別セミナー. 講師（中華人民共和国・外国人技術経営専門家招聘プログラム）（中華人民共和国・哈爾浜市）（2017 年 9 月 6 日）

【山口大学】

荊木　康臣　・日本学術会議第 24 期連携会員
・日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員

第３部　組織・運営

第３部　組織・運営

第１章　主指導教員の教育研究分野一覧

平成３０年３月１日現在

専攻	連合講座	主指導教員氏名	所属大学	教育研究分野	
				名称	内容
生物生産科学	農業生産学	浅尾　俊樹	島根大学	園芸生産学	野菜・花卉の生産技術に関する研究
		小葉田　亨	島根大学	作物生産生態学	作物の生産改善のための生理・生態的研究
		小林　伸雄	島根大学	園芸育種学	植物遺伝資源の評価と育種利用
		許　東河	※鳥取大学	植物遺伝資源学	作物の環境ストレス耐性に関する遺伝的研究
		高橋　肇	山口大学	作物学	作物の省力・低投入型栽培体系の確立に関する研究
		田村　文男	鳥取大学	園芸学	ニホンナシの自発休眠制御に関する研究
		中務　明	島根大学	園芸分子育種学	園芸作物における有用形質関連遺伝子の解析と育種利用
		福田　善通	※鳥取大学	作物遺伝育種学	イネ農業形質の多様性，分化，遺伝様式に関する遺伝育種学研究
		松本　真悟	島根大学	土壌・作物栄養学	土壌肥沃度に対応した作物の養分獲得機構の解明
		松本　敏一	島根大学	果樹園芸学	果樹栽培と加工品に関する研究
		山本　晴彦	山口大学	環境情報科学	光学的計測法による植物の生育診断
	森林資源学	伊藤　勝久	島根大学	森林政策学	森林・林業政策及び条件不利地域対策に関する実証的研究
		長澤　良太	鳥取大学	景観生態学	中山間地域における自然，人文，社会環境の景観生態学的研究
		永松　大	鳥取大学	植物生態学	森林・草原の植物個体群動態と植生科学，生物多様性保全
		日置　佳之	鳥取大学	生態系保全･復元計画学	生物多様性の保全と復元のための生態学的な計画と技術
		藤本　高明	鳥取大学	木材理学	木材性質変動の解析および計測評価手法の開発
	経済・経営学	伊藤　康宏	島根大学	漁業史	日本漁業の近現代史研究
		井上　憲一	島根大学	農業経営学	農業経営における地域資源の管理に関する研究
		能美　誠	鳥取大学	地域産業計画学	地域農業計画・分析手法の開発および適用
		古塚　秀夫	鳥取大学	農業会計学	農業会計原則と農産物生産費計算の確立
		松田　敏信	鳥取大学	消費者行動学	計量経済学による消費者行動の研究，特に食料需要の実証分析
		松村　一善	鳥取大学	農業経営学	農業経営と農村社会の相互関係に関する研究
		万　里	鳥取大学	流通情報解析学	農産物の流通経路と市場情報の計量経済分析
		安延　久美	鳥取大学	国際農業開発学	東南アジアにおける農業・農村開発に関する研究
生物環境科学	生産環境工学	石井　将幸	島根大学	地域基盤工学	水利施設の補修補強に関する設計手法の開発
		猪迫　耕二	鳥取大学	水土環境保全学	水土環境の保全と再生ならびに持続可能な利用に関する研究
		緒方　英彦	鳥取大学	水利施設工学	水利構造物の建設材料と構造性能の評価
		喜多威知郎	島根大学	水緑利用学	合理的な水資源利用計画と管理および緑化による環境改善
		宗村　広昭	島根大学	流域環境工学	湖沼流域の水環境保全と開発との調和に関する研究
		武田　育郎	島根大学	水質水文学	集水域における面源汚濁の評価と制御
		矢島　啓	島根大学	環境水理学	流体現象を考慮した水域の水環境に関する研究
		谷野　章	島根大学	生物環境電気工学	生物環境関連技術への電気工学の適用
	環境科学	會見　忠則	鳥取大学	微生物生産科学	微生物による食料及び有用物質生産の生化学・分子生物学
		荒西　太士	島根大学	遺伝生態学	水域生物資源の進化，生態および保全に関する分子遺伝学研究
		石原　亨	鳥取大学	天然物化学	植物・微生物が合成する代謝産物の機能，生理活性，生合成に関する研究
		一柳　剛	鳥取大学	有機化学	合成化学的アプローチによる生物活性化合物の機能解明
		井藤　和人	島根大学	環境微生物学	農薬分解菌の遺伝生態
		伊藤　真一	山口大学	植物病理学	植物病原体ゲノムの構造と機能
		上野　誠	島根大学	植物病理学	植物―病原菌の相互作用における抵抗性発現に関する研究
		木原　淳一	島根大学	植物病理学	植物病原糸状菌の光環境応答
		桑原　智之	島根大学	水環境保全学	水域環境の保全及び排水・環境水の浄化に関する研究
		児玉基一朗	鳥取大学	植物病理学	植物―微生物相互作用と植物耐病性の分子機構
		佐藤　利夫	島根大学	環境衛生工学	排水の高度処理や環境水の浄化・保全のための新技術や機能性材料の開発
		霜村　典宏	鳥取大学	菌類育種栽培学	きのこ類遺伝資源の育種・栽培に関する研究
		竹松　葉子	山口大学	昆虫生態学	シロアリの多様性と生態に関する研究
		鶴崎　展巨	鳥取大学	動物分類学	陸上無脊椎動物の種多様性・染色体・進化と保全
		中桐　昭	鳥取大学	菌類多様性学	水生環境に生息する菌類の分類・生態・適応進化
		前川二太郎	鳥取大学	菌蕈分類生態学	きのこ類の種多様性と生態的機能に関する研究
		松本　晃幸	鳥取大学	菌類遺伝資源学	菌類遺伝資源が持つ有用遺伝子の単離・解析とその活用
		宮永　龍一	島根大学	昆虫生態学	野生ハナバチ類の生態と管理に関する研究
		山口　啓子	島根大学	水圏生態学	水圏生態系、特に底生生物を中心とした水生生物の生態と水圏環境およびその利用に関する研究

専攻	連合講座	主指導教員氏名	所属大学	教育研究分野	
				名称	内容
生物資源科学	生物機能科学	赤間　一仁	島根大学	植物分子生物学	植物のtRNAの発現制御機構とγ-アミノ酪酸の生理機能の解明
		阿座上弘行	山口大学	分子微生物学	バクテリアの宿主表面への定着の分子メカニズム
		東　政明	鳥取大学	分子昆虫学	昆虫細胞の特異的機構の解明とその有効利用
		有馬　二朗	鳥取大学	生命機能科学	微生物・酵素の新奇機能探索とメカニズムの解明，及びその利用
		石川　孝博	島根大学	植物分子生理学	光合成生物における抗酸化物質生合成と活性酸素代謝機構
		上中　弘典	鳥取大学	植物微生物相互作用学	植物における免疫応答と菌根共生の分子機構の解明
		川向　誠	島根大学	遺伝子工学	真核生物情報伝達系と細胞周期の制御，コエンザイムQの生合成
		小杉　昭彦	※ 鳥取大学	応用微生物学	微生物機能を用いたバイオマス資源利用技術の開発
		塩月　孝博	島根大学	生物制御化学	昆虫を主な対象とする生物制御の分子機構解明と化学生物学的応用
		中川　強	島根大学	植物分子遺伝学	植物の発達メカニズムの解明と植物遺伝子解析技術の開発
		西川　彰男	島根大学	動物発生生物学	両生類を用いた細胞増殖，分化，細胞死，形態形成に関する研究
		松崎　貴	島根大学	発生生物学	皮膚および附属器の発生ならびに再生機構
		真野　純一	山口大学	植物生産生理学	植物の環境ストレス耐性機構の解明と応用
		丸田　隆典	島根大学	植物生理学	植物のレドックス代謝ネットワークとストレス応答
	資源利用化学	河野　強	鳥取大学	生物有機化学	環境応答による休眠・代謝・寿命の制御機構
		清水　英寿	島根大学	栄養病態生理学	食品由来腸内細菌代謝産物や藍藻類由来毒素による病態発症メカニズムの解明
		田村　純一	鳥取大学	有機化学	生理活性糖鎖の化学合成と天然糖鎖の単離・構造決定
		山本　達之	島根大学	生物物理化学	蛋白質や包接化合物の分子分光学的研究
		横田　一成	島根大学	細胞生命化学	食品・医薬品関連物質と生体との相互作用に関する分子細胞生物学的研究
		渡邉　文雄	鳥取大学	食品科学	食品に含まれるビタミンB12関連化合物の化学的性質と栄養評価に関する研究
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	明石　欣也	鳥取大学	分子細胞生物学	耐乾性植物のストレス分子応答および環境耐性植物の分子育種
		Nigussie Haregeweyn AYEHU	鳥取大学	土地管理	流域プロセスのモニタリング、モデリング及び管理に関する研究
		安　萍	鳥取大学	植物生理生態学	乾燥地における植物の生理的反応と機構および生態学に関する研究
		一戸　俊義	島根大学	家畜飼養学	反すう家畜の栄養と生産システムの評価
		荊木　康臣	山口大学	生物環境調節工学	環境制御型植物生産システムに関する研究
		遠藤　常嘉	鳥取大学	土壌化学	乾燥地域における灌漑農地の塩類動態と土壌劣化に関する研究
		木村　玲二	鳥取大学	境界層気象学	乾燥地における熱収支・水収支の解明に関する研究
		清水　克之	鳥取大学	水利用学	農業用水管理のモニタリングと評価
		辻本　壽	鳥取大学	分子育種学	遺伝子および染色体工学的手法による乾燥乾性作物系統の育種
		恒川　篤史	鳥取大学	保全情報学	乾燥地における植物生産および生態系変化のモニタリングとモデリング
		藤巻　晴行	鳥取大学	土壌保全学	乾燥地における塩類集積および土壌侵食の防止と修復技術の開発
		増永　二之	島根大学	土壌圏生態工学	土壌の環境維持・修復機能および植物生産機能の制御と利用
		安田　裕	鳥取大学	乾地環境システム工学	乾燥地における水圏環境システムの定量的評価
		山田　智	鳥取大学	植物栄養学	乾燥地における植物のストレス応答機構に関する研究
		山中　典和	鳥取大学	乾地緑化学	乾燥地における樹木の生態学的研究
		山本　定博	鳥取大学	環境土壌学	乾燥地における土壌環境の保全と農耕地の持続的利用に関する研究

※ 協力機関 （JIRCAS） との連携

第2章　委　員　会

1　研究科委員会

(1) 委　員

平成３０年３月１日現在

専攻	連合講座	鳥取大学		島根大学		山口大学	
		教　授	准教授	教　授	准教授	教　授	准教授
生物生産科学	農業生産学	田村　文男	田中　裕之 △竹村　圭弘	浅尾　俊樹 小林　伸雄	中務　明 江角　智也 門脇　正行 田中　秀幸	高橋　肇 執行　正義	細井　栄嗣
	森林資源学	長澤　良太 日置　佳之			川口　英之 久保満佐子		
	経済・経営学	能美　誠 松田　敏信 安延　久美	万　里	伊藤　康宏 井上　憲一	赤沢　克洋 △保永　展利		
生物環境科学	生産環境工学	猪迫　耕二 緒方　英彦	兵頭　正浩	喜多威知郎 武田　育郎 谷野　章	石井　将幸 宗村　広昭		
	環境科学	前川二太郎 児玉基一朗 會見　忠則 石原　亨 一柳　剛 霜村　典宏 中桐　昭 松本　晃幸	早乙女　梢 △上野　琴巳	井藤　和人 上野　誠 木原　淳一 佐藤　利夫 宮永　龍一 山口　啓子	桑原　智之 堀之内正博	伊藤　真一 竹松　葉子 横山　和平	
生物資源科学	生物機能科学	東　政明	有馬　二朗	赤間　一仁 石川　孝博 川向　誠 中川　強 西川　彰男 松崎　貴	戒能　智宏 ▲松尾　安浩	阿座上弘行 小林　淳	
	資源利用化学	河野　強 渡邉　文雄	岩崎　崇 藪田　行哲	山本　達之 横田　一成	清水　英寿 地阪　光生 ▲吉清　恵介	赤壁　善彦 小崎　紳一	井内　良仁
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	明石　欣也 辻本　壽 恒川　篤史 藤巻　晴行 山田　智 山中　典和 山本　定博 遠藤　常嘉	安　萍 木村　玲二 清水　克之 Nigussie Haregeweyn AYEHU 安田　裕 衣笠　利彦 齊藤　忠臣 谷口　武士 西原　英治 Peng　Fei ▲伊藤　健彦	一戸　俊義 増永　二之	▲佐藤　邦明 ▲宋　相憲	荊木　康臣	
計		27	20	23	19	10	2
合　計		101					

△は講師、▲は助教、◆はJIRCAS （協力）の客員教員を示す。

（２）審議事項等

年　月　日（曜日）	審　　議　　事　　項　　等
平成２９年８月２５日（金）	第７８回研究科委員会 ・外国人留学生特別プログラムおよび外国人留学生特別入試の合格者について ・平成２９年度予算配分について ・学生の異動について（協議・追認） ・指導教員等の変更について（協議・追認） ・平成２９年度入学者選抜試験（１０月入学）合格者の決定について ・平成２９年度入学予定者（１０月入学）に係る指導教員等について ・学位論文の合否決定について ・学位論文の全文に代えて要約を公表する申立について ・連合農学研究科教員候補者の選考について ・教員資格再審査調書の改正について ・「国費外国人留学生優先配置を行う特別プログラム」の申請について ・農学特論Ⅰ（連合一般ゼミナール（日本語））の実施について ・各専攻特論の実施について ・科学コミュニケーション（研究セミナー）の実施ついて ・修了生による国際シンポジウムについて ・連合農学研究科改組について
平成３０年２月１６日（金）	第７９回研究科委員会 ・平成３０年度入学者選抜試験（４月入学）合格者の決定について ・学位論文の合否決定について ・学位論文の全文に代えて要約を公表する申立について ・連合農学研究科教員候補者の選考について ・学生の異動について（協議・追認） ・平成３０年度入学予定者（４月入学）に係る指導教員等について ・指導教員等の変更について（協議・追認） ・代議委員会委員及び専攻長の選出について ・平成３０年度連合農学研究科予算配分基本方針（案）について ・平成３０年度「年度計画」について ・連合農学研究科規則等の一部改正について ・学術交流協定の締結について ・平成３０年度連合農学研究科年間スケジュールについて ・平成２９年度科学コミュニケーション（研究セミナー）の実施について ・平成２９年度農学特論Ⅱ（連合一般ゼミナール（英語））の実施について

２　代議委員会

（１）委　員

所属専攻名等	所属連合講座名	氏　名（所属大学）	任　　期
研 究 科 長		前川二太郎（鳥取大学）	平成２９年４月１日～平成３１年３月３１日
副研究科長		児玉基一朗（鳥取大学）	平成２６年６月１日～
生物生産科学	農業生産学	高橋　　肇（山口大学）	平成２９年４月１日～平成３１年３月３１日
	森林資源学	長澤　良太（鳥取大学）	〃
	経済・経営学	伊藤　康宏（島根大学）	〃
生物環境科学	生産環境工学	喜多威知郎（島根大学）	〃
	環境科学	伊藤　真一（山口大学）	〃
生物資源科学	生物機能科学	石川　孝博（島根大学）	〃
	資源利用化学	河野　　強（鳥取大学）	〃
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	藤巻　晴行（鳥取大学）	〃

※下線は専攻長

（２）審議事項等

年　月　日（曜日）	審　　議　　事　　項　　等
平成２９年　４月　７日（金）	第３４６回代議委員会 ・特別リサーチ・アシスタントの決定について ・学位論文受理の可否について ・国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムについて ・連合農学研究科改組について ・学生異動について ・指導教員の変更について ・平成２９年度各専攻特論講義担当講師について ・平成２８年度連合農学研究科「大山会」決算報告について ・教員資格審査用学術雑誌リストへの追加について（報告）
平成２９年　５月１２日（金）	第３４７回代議委員会（於山口大学） ・入学者選抜試験合格判定（生物資源・環境科学留学生特別プログラム編入学生：私費留学生）について ・教員資格審査委員会委員の選出について ・学位論文受理の可否について ・外国人留学生特別入試の口頭試問実施方法について ・平成３０年度外国人留学生特別入試募集要項（案）について ・平成２９年度予算配分（案）について ・国際学会等発表学生への援助について ・教員資格審査用学術雑誌リストへの追加について（協議・報告） ・改組後の３ポリシーについて ・平成２９年度年間スケジュールの変更について ・学術論文インターネット公表のフローチャートについて ・指導教員の変更について ・平成２９年度各専攻特論について ・留学生受け入れに係る安全保障管理上の確認について
平成２９年　６月１２日（月）	第３４８回代議委員会（テレビ会議） ・外国人留学生特別入試の口頭試問実施方法について ・危険情報のある地域への学生派遣について ・教員資格審査用学術雑誌リストへの追加について（報告）
平成２９年　７月　７日（金）	第３４９回代議委員会 ・２０１７年度（１０月入学）外国人留学生特別入試の合否判定について ・学位論文受理の可否について ・学位論文審査委員会の設置および委員の決定について ・連合農学研究科教員資格審査の様式変更について ・特別研究学生の受入れについて ・危険情報のある地域への学生派遣について ・教員資格審査用学術雑誌リストへの追加について（報告） ・平成３０年度連合農学研究科改組について

年　月　日（曜日）	審　　議　　事　　項　　等
平成２９年　８月２５日（金）	第３５０回代議委員会 ・２０１７年度入学者選抜試験（１０月入学）合否判定について ・学位論文受理の可否について ・学位論文審査委員会の設置及び委員の決定について ・連合農学研究科教員資格審査の様式変更について ・学生の異動について ・教員資格審査用学術雑誌リストへの追加について（協議・報告） ・２０１８年度留学生のための乾燥地農学特別プログラム（博士後期課程）学生募集要項（国費留学生用）及び選考方法について ・２０１７年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の申請について ・第７８回研究科委員会への議題提出について ・平成２９年度科学コミュニケーション（研究セミナー）の実施について ・修了生による国際シンポジウムについて
平成２９年１０月　６日（金）	第３５１回代議委員会 ・特別リサーチ・アシスタントの決定について ・平成２９年度学生募集要項（案）について ・平成２９年度国際学会・研究集会発表学生援助(第２次)の選考について ・教員資格審査用学術雑誌リストへの追加について（協議・報告） ・学生の異動について ・教員資格再審査の結果について
平成２９年１１月１０日（金）	第３５２回代議委員会 ・留学生のための乾燥地農学特別プログラム（博士後期課程）進学者の選考について ・平成２９年度国際学会・国際研究集会発表学生援助（第２次）の選考について ・危険情報のある地域への学生派遣について ・平成３０年度シラバス及び雑誌リストの変更について ・外国人留学生特別入試の口頭試問実施方法について ・平成２９年度業務実績報告書（中間報告）について ・科学コミュニケーションの実施について ・平成２９年度第２回全国連合農学研究科協議会について
平成２９年１２月　８日（金）	第３５３回代議委員会 ・外国人留学生特別入試の合否判定について ・規則等の改正について ・平成３０年度年間スケジュール（案）について ・教員資格審査委員の選出について ・教員資格審査用学術雑誌リストへの追加について（報告） ・平成３０年度「年度計画」（案）について ・２０１７年度「国費留学生の優先配置を行う特別プログラム」について ・平成２９年度農学特論Ⅱ（英語）について ・全国６連合農学研究科の教育・研究指導委託に関する覚書について

年　月　日（曜日）	審　　議　　事　　項　　等
平成３０年　１月　５日（金）	第３５４回代議委員会 ・出願資格認定審査について ・学位論文受理の可否について ・学位論文審査委員会の設置及び委員の決定について ・次期代議委員会委員の選出について ・平成３０年度予算配分方針案について ・島根大学大学院改組に伴う規則改正について ・危険情報のある地域への学生派遣について ・学術交流協定の締結について
平成３０年　２月１６日（金）	第３５５回代議委員会 ・平成３０年度入学者選抜試験合否判定について ・学業優秀による平成３０年度入学料免除候補者の推薦について ・次期代議委員会委員及び専攻長の選出について ・平成３０年度国際学会・国際研究集会発表学生援助（第１次）の募集について ・学生の異動について（協議・報告） ・第７９回研究科委員会への提出議題について ・危険情報のある地域への学生派遣について
平成３０年　３月　８日（木）	第３５６回代議委員会 ・日本学生支援機構第一種奨学金返還免除者の決定について ・平成３０年度各専攻特論講義担当講師について ・平成３０年度学生募集要項（１０月入学）について ・２０１９年度外国人留学生特別入試募集要項（案）について ・２０１８年度鳥取大学大学院連合農学研究科乾燥地農学特別プログラム（博士後期課程）編入学生（私費留学生）募集要項（案）について ・２０１８年度鳥取大学大学院連合農学研究科生物資源・環境科学留学生特別プログラム（博士後期課程）編入学生（私費留学生）募集要項（案）について ・学生の異動について ・学位論文提出の手引の改正について ・社会人留学生の承諾書について ・履修計画届の変更について ・社会人早期修了プログラム履修申請について

第３章　平成２９年度　連合農学研究科教員

１　有資格教員（教授・准教授・講師・助教）一覧

平成３０年３月１日現在

専攻	連合講座	鳥取大学 教授	鳥取大学 准教授	鳥取大学 助教	島根大学 教授	島根大学 准教授	島根大学 助教	山口大学 教授	山口大学 准教授	山口大学 助教
生物生産科学専攻	農業生産学	※ 田村　文男 ○ ◆ 福田　善通 ◆ 許　東河 山口　武視	田中　裕之 △ 近藤　謙介 △ 竹村　圭弘		浅尾　俊樹 ○ 太田　勝巳 小葉田　亨 小林　伸雄 ○ 松本　真吾 松本　敏一	中務　明 ○ 池浦　博美 江角　智也 門脇　正行 小林　和広 田中　秀幸 鶴永　陽子		◎ 高橋　肇 山本　晴彦 執行　正義	荒木　英樹 細井　栄嗣	丹野　研一
	森林資源学	◎ 長澤　良太 ○ 日置　佳之 ○ 永松　大	藤本　高明 芳賀　弘和 △ 岩永　史子		伊藤　勝久	川口　英之 久保満佐子	藤巻　玲路			
	経済・経営学	◎ 能美　誠 ○ 古塚　秀夫 松田　敏信 ○ 松村　一善 安延　久美	片野　洋平 万　里		伊藤　康宏 ○ 井上　憲一 ○	赤沢　克洋 森　佳子 △ 保永　展利			種市　豊	
生物環境科学専攻	生産環境工学	猪迫　耕二 ○ 緒方　英彦 ○	野波　和好 兵頭　正浩 △ 森本　英嗣		◎ 喜多威知郎 武田　育郎 矢島　啓 谷野　章 ○	石井　将幸 宗村　広昭 ○ 鈴木　美成				
	環境科学	★ 前川二太郎 ☆ 児玉基一朗 ○ 會見　忠則 ○ 石原　亨 ○ 一柳　剛 霜村　典宏 ○ 鶴崎　展巨 中桐　昭 ○ 松本　晃幸	早乙女　梢 △ 大﨑久美子 △ 上野　琴巳		※ 井藤　和人 ○ 荒西　太士 上野　誠 木原　淳一 佐藤　利夫 宮永　龍一 山口　啓子 ○	桑原　智之 ○ 泉　洋平 堀之内正博	髙原　輝彦 林　昌平	◎ 伊藤　真一 竹松　葉子 横山　和平		柳　由貴子
生物資源科学専攻	生物機能科学	東　政明 ◆ 小杉　昭彦	有馬　二朗 ○ 上中　弘典 岡　真理子 中　秀司		赤間　一仁 ◎ 石川　孝博 川向　誠 ○ 塩月　孝博 中川　強 ○ 西川　彰男 松崎　貴 ○ 林　蘇娟	丸田　隆典 秋吉　英雄 小川　貴央 戒能　智宏 児玉　有紀 舞木　昭彦	古田賢次郎 松尾　安浩	※ 小林　淳 ○ 阿座上弘行 ○ 真野　純一 内海　俊彦 山田　守	薬師　寿治	片岡　尚也 高坂　智之
	資源利用化学	河野　強 田村　純一 渡邉　文雄	岩崎　崇 藪田　行哲		◎ 山本　達之 ○ 横田　一成 ○	清水　英寿 地阪　光生	吉清　恵介 西村　浩二	赤壁　善彦 小崎　紳一 松井　健二 宮田　浩文	井内　良仁 ○ 木股　洋子 藤井　克彦	肥塚　崇男
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	明石　欣也 ○ 遠藤　常嘉 辻本　壽 ○ 恒川　篤史 ○ ◎ 藤巻　晴行 ○ 山田　智 ○ 山中　典和 ○ 山本　定博 ○	安　萍 木村　玲二 ○ 清水　克之 Nigussie Haregeweyn ○ Ayehu 安田　裕 ○ 衣笠　利彦 黒崎　泰典 齊藤　忠臣 谷口　武士 西原　英治 Peng　Fei	伊藤　健彦	一戸　俊義 ○ 増永　二之 ○		佐藤　邦明 宋　相憲	荊木　康臣	鈴木　賢士	佐合　悠貴
計		36	31	1	32	26	9	16	8	6
合計		165								

（注）★は研究科長，☆は副研究科長，※は学部長，◎は代議委員，◆は連携教員，○は主指導教員，△は講師を示す。

2　担当教員を補助する教員（助教）一覧

平成３０年3月１日現在

専　　攻	連 合 講 座	鳥 取 大 学	島 根 大 学	山 口 大 学
生物生産科学	農 業 生 産 学		足立　文彦 城　　惣吉	
	森 林 資 源 学			
	経済・経営学		中間由紀子	
生物環境科学	生産環境工学		佐藤　裕和 佐藤　真理 深田耕太郎	
	環 境 科 学		高原　輝彦 林　　昌平	
生物資源科学	生物機能科学			
	資源利用化学			
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	Eltayeb Habora Amin Elsadig 吉岡　有美 辻　　涉	吉岡　秀和 高田　晋史	
計		３人	１０人	０人
合　　計		１３人		

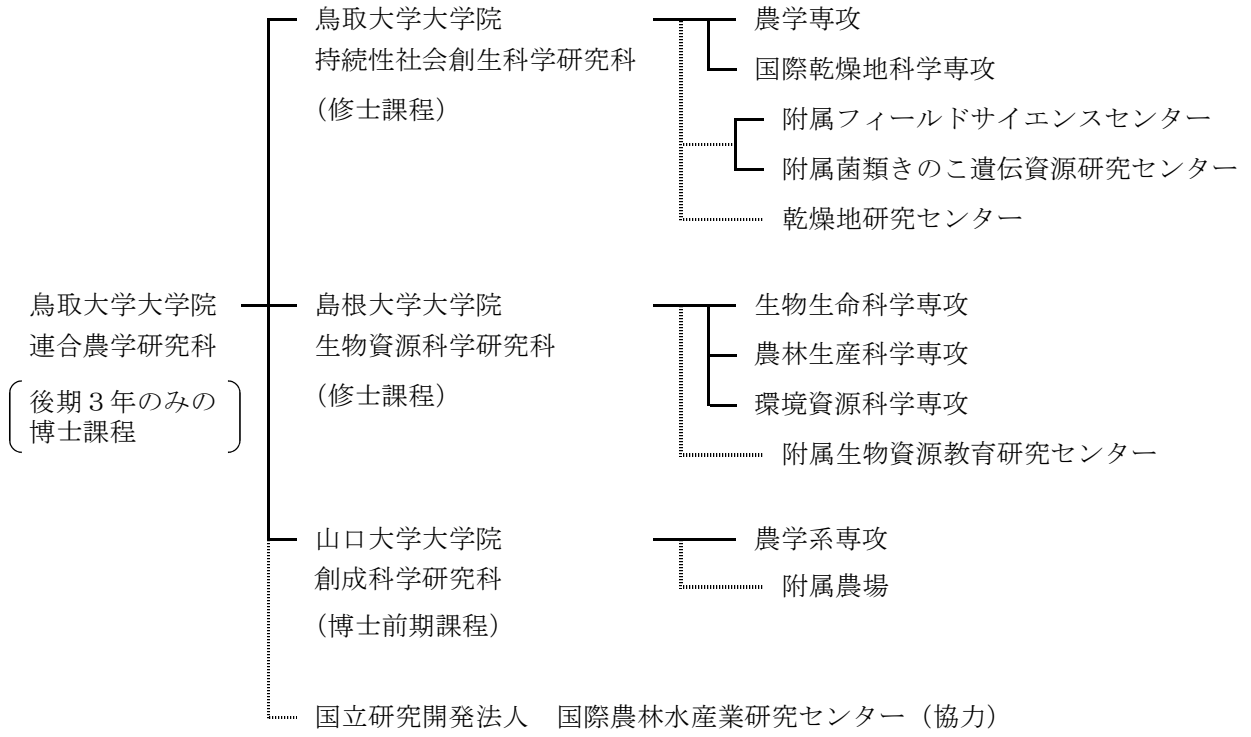
第４章　　そ　の　他

１　組　織

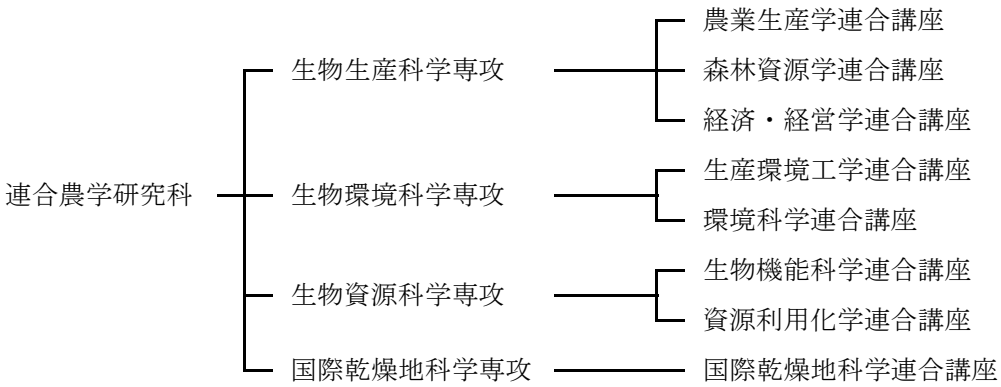
本連合農学研究科は，鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究，島根大学大学院生物資源科学研究科（H30.4～大学院自然科学研究科），及び山口大学大学院創成科学研究科の修士課程又は博士前期課程の講座と附属施設を母体として編成されている。

各大学の研究科と密接な連携協力のもとに運営されているが，それぞれの研究科とは別の独立した研究科である。

連合農学研究科の母体組織



本研究科には，生物生産科学，生物環境科学，生物資源科学，国際乾燥地科学の４専攻の下に８連合講座を置いている。



＊生物機能科学連合講座は平成２３年度新設、国際乾燥地科学専攻は平成２１年度新設
＊平成３０年４月に３専攻８連合講座へ改組

２　予 算 規 模

（千円）

事　　項	配 分 額	内訳		
		鳥 取 大 学	島 根 大 学	山 口 大 学
当初予算配分	105,757	53,188	39,581	12,988
ティーチング・アシスタント経費	7,376	2,317	4,179	880
リサーチ・アシスタント経費	11,988	3,335	7,610	1,043

3　行　事

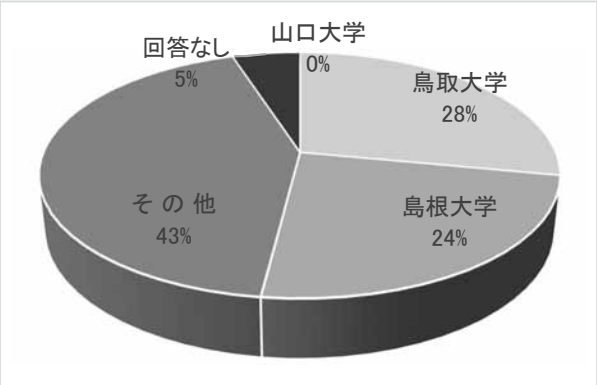
年　月　日（曜日）	行　　事
平成２９年　４月　７日（金）	入学式，オリエンテーション
〃	第３４６回代議委員会
５月１２日（金）	第３４７回代議委員会（於：山口大学）
６月　６日（火）	学位論文審査申請受付（6/13まで，前期修了予定者）
６月１２日（月）	第３４８回代議委員会（テレビ会議）
〃	第６４回関係教員連絡会
〃	学生募集要項発表（後期入学）
６月１４日（水）	農学特論Ⅰ（日本語）（6/16まで）
６月１９日（月）	出願資格認定申請受付（後期入学）（6/23まで）
７月　７日（金）	第３４９回代議委員会
〃	教員資格審査委員会
７月１８日（火）	入学願書受付（後期入学）（7/21まで）
８月　１日（火）	各専攻特論（8/4まで）
８月　９日（水）	入試委員会（持ち回り）
８月２５日（金）	入学者選抜試験（後期入学）
〃	第３５０回代議委員会
〃	第７８回研究科委員会
９月　１日（金）	合格者発表（後期入学）
９月１５日（金）	学位記授与式
１０月　６日（金）	教員資格再審査委員会
〃	第３５１回代議委員会
〃	入学式，オリエンテーション
１０月２５日（水）	科学コミュニケーション（10/27まで）（於：出雲）
１１月　７日（火）	学生募集要項発表
１１月１０日（金）	第３５２回代議委員会
１１月１５日（水）	農学特論Ⅱ（英語）（11/17まで）
１２月　７日（木）	学位論文審査申請受付（12/14まで，後期修了予定者）
〃	出願資格認定申請受付（12/14まで）
１２月　８日（金）	第３５３回代議委員会（於：島根大学）
平成３０年　１月　５日（金）	第３５４回代議委員会
〃	教員資格審査委員会
１月　９日（火）	入学願書受付（前期入学）（1/12まで）
１月２６日（金）	入試委員会
２月１５日（木）	入学者選抜試験（2/16まで）
２月１６日（金）	第３５５回代議委員会
〃	第７９回 研究科委員会
２月２６日（月）	合格者発表
３月　８日（木）	第３５６回代議委員会
〃	グローバル同窓会ネットワーク構築に関するミーティング
３月　９日（金）	連大修了生による国際シンポジウム
〃	学位記授与式

第４部　在学生へのアンケート

科学コミュニケーション
（平成 29 年 10 月 25 日～27 日）において実施

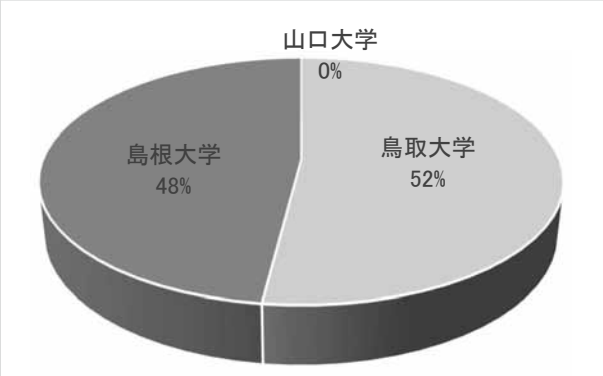
1．あなた自身についてお答え下さい

(1) 修士課程の出身大学



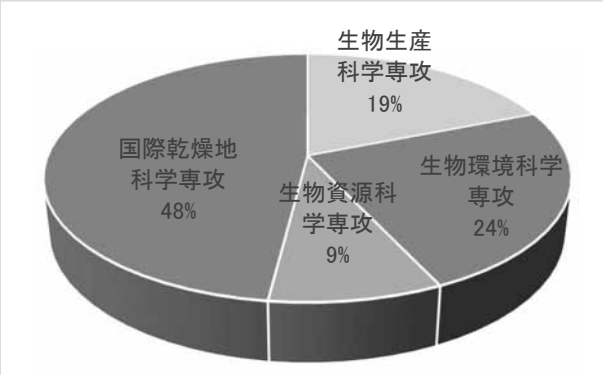
鳥取大学	6
島根大学	5
山口大学	0
その他	9
回答なし	1

(2) 現在の配属大学



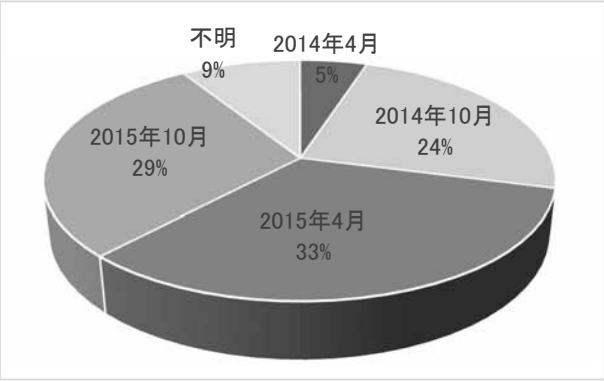
鳥取大学	11
島根大学	10
山口大学	0
計	21

(3) 専攻



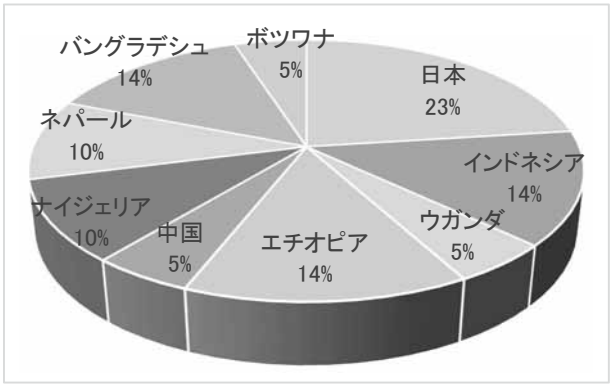
生物生産科学専攻	4
生物環境科学専攻	5
生物資源科学専攻	2
国際乾燥地科学専攻	10
計	21

(4) 入学年月



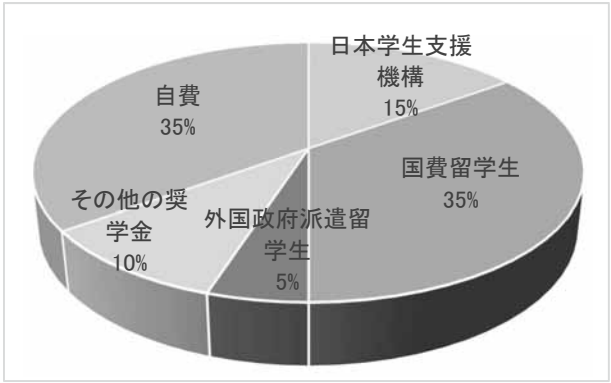
2014 年 4 月	1
2015 年 10 月	5
2016 年 4 月	7
2016 年 10 月	6
不明	2
計	21

(5) 国籍



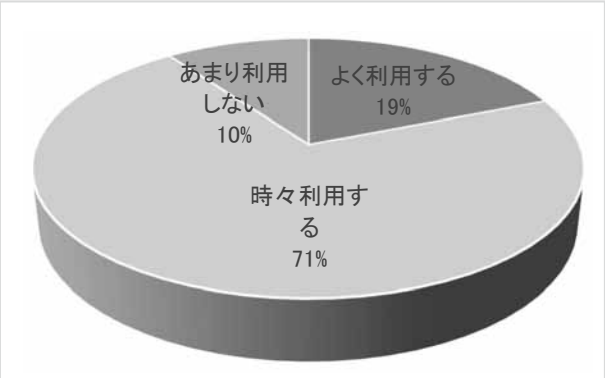
日本	5
インドネシア	3
ウガンダ	1
エチオピア	3
中国	1
ナイジェリア	2
ネパール	2
バングラデシュ	3
ボツワナ	1
計	21

(6) 奨学金受給状況



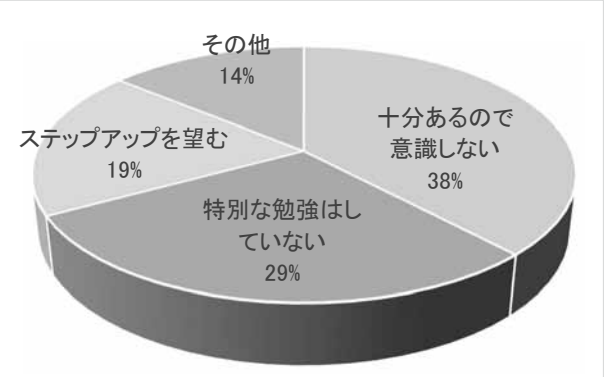
日本学生支援機構	3
国費留学生	7
外国政府派遣留学生	1
その他の奨学金	2
自費	7
日本学術進行機構博士研究員(DC1、DC2)	0
計	20

(7) 連大ホームページ利用状況



よく利用する	4
時々利用する	15
あまり利用しない	2
利用しない	0
計	21

(8) 英語力の維持・上達を行っていますか？



十分あるので意識しない	8
特別な勉強はしていない	6
ステップアップを望む	4
必要性を感じない	0
その他	3
計	21

コメント：

・It is always good to practice English to improve. That is what I always do.

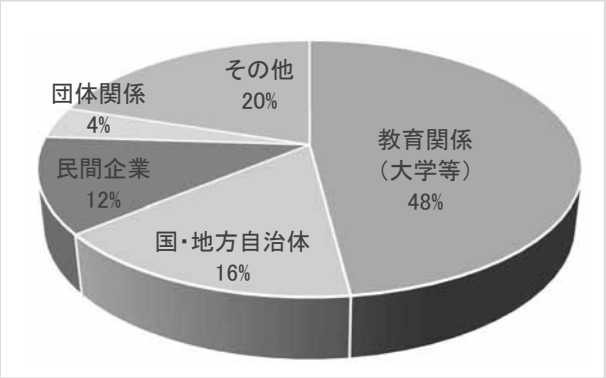
・I am improving it day and day through seminar and from youtube.

・I improve my English especially my pronunciation by using educational video in youtube such as Ted talk. I also try to improve my grammar as well.

・See the English movie to improve my English skill.

２． あなたの将来の志望についてお尋ねします

(1) 希望職種（複数回答可）

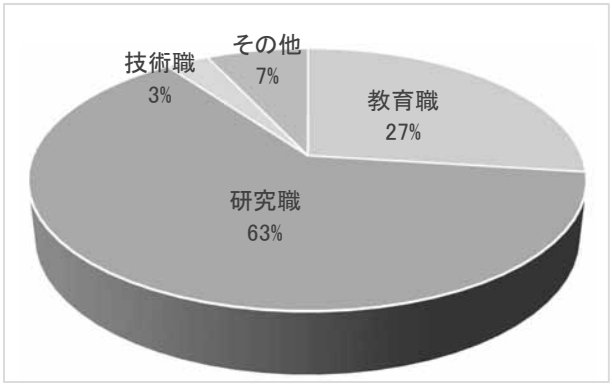


教育関係（大学等）	12
国・地方自治体	4
民間企業	3
団体関係	1
その他	5
計	25

■その他：

・県職員
・Research Institute
・University Teacher/Researcher
・Back to China or university in China
・Research Institute of my country

(2) 希望する職務内容（複数回答可）



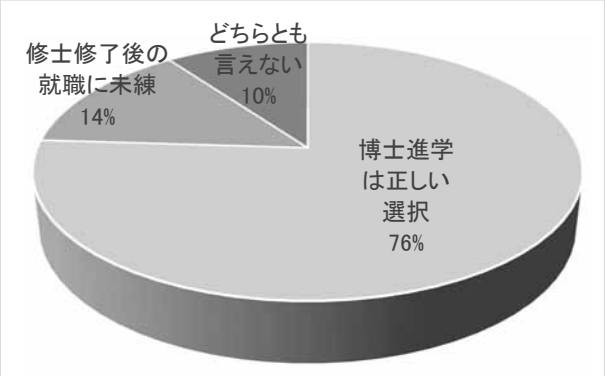
教育職	8
研究職	19
技術職	1
その他	2
計	30

■その他：

・Agriculture officer

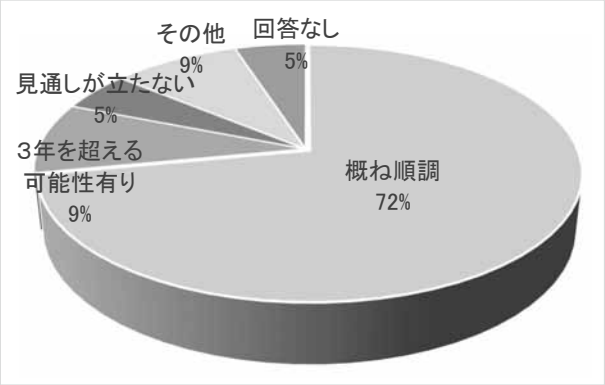
3．鳥取連大の研究指導・教育についてお尋ねします

(1) 第一印象としての素直な気持ちは？



博士進学は正しい選択	16
修士修了後の就職に未練	3
どちらとも言えない	2
計	21

(2) 研究の進展は順調ですか？



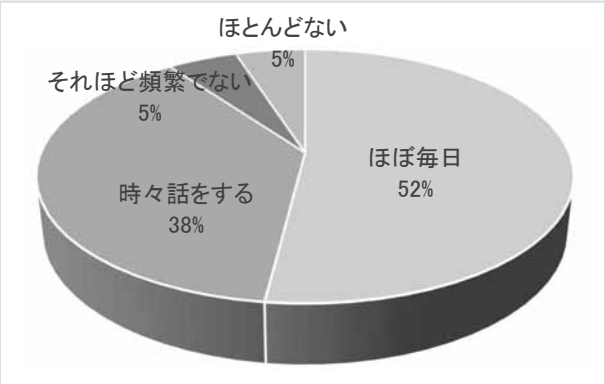
概ね順調	16
3年を超える可能性有り	2
見通しが立たない	1
その他	2
回答なし	1
計	22

■その他：

・期日内に論文を投稿する必要がある

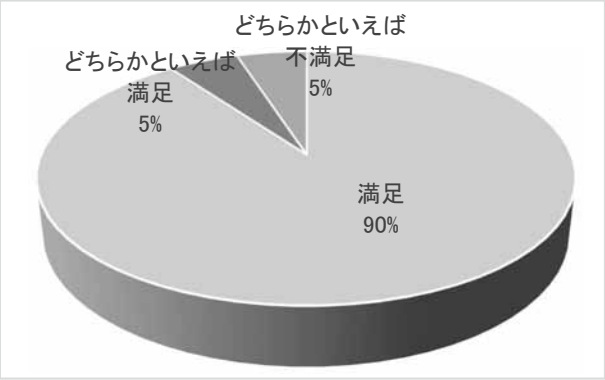
・Not so good, I may need further extension.

(3) 主指導教員と日常的に意思疎通できていますか？



ほぼ毎日	11
時々話をする	8
それほど頻繁でない	1
ほとんどない	1
計	21

(4) 主指導教員の指導に満足ですか？



満足	19
どちらかといえば満足	1
どちらかといえば不満足	1
不満足	0
計	21

■満足

・論文の稿正等適切に指導いただいている。
・技術指導、論理的な考え方及び精神論等も含め、すべてにおいて指導頂いている。滋賀と鳥取で場所は離れているが、コミュニケーションは取れている。
・研究、実験の進行について、定期的に疎通できているため。
・He always give me opportunity to talk to him about my research. He tries to help me understand about the research.
・Available all the time when I need help.
・Clearly examines to me where I don't understand.
・He always gave me important comments.
・I can communicate with him very easily and try to share problem together.
・I could improve how to write a scientific research article.
・I could identify a good website to publish my work.
・He is always there to attend to our research and our personal problem once called upon. With regard to our research work, to me he is the best.
・We often talk about our research. And he helps me a lot not only in research but also in my daily life. His help makes me easily handle my business. And we together make a juiceful out come.
・Because my supervisor guides me to conduct a good research and how to build the logic/story for my research.
・I can discuss with him.
・He has in-depth and multidimensional knowledge on the subject matter. His complements is impressive. And the way to talk things simple is his added advantage.
・He is always disposed to discuss with me of any time I hope a need for his advice.
・My supervisor is very busy even though he manages his time for discussion with all his students. And he doesn't bias students in any prospect.
・Because he always monitors my research, guiding, and correction of error and all are in effective way.

■どちらかと言えば満足

・研究の成果を高く評価してくれているから。

■どちらかと言えば不満足

・主指導教員が忙しすぎて、国内にも県内にもいないことが多い。

◎主指導教員へお願いしたいこと

・I want him keep the same support he is giving.

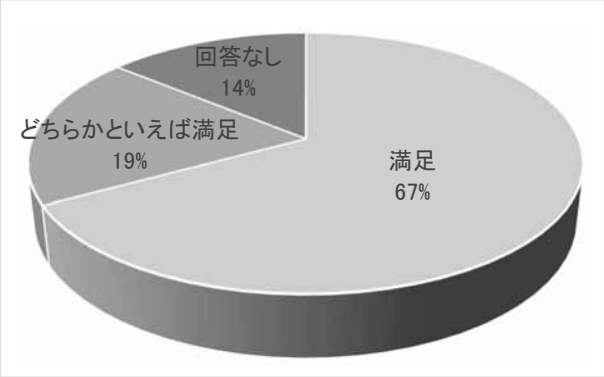
・Continue with the good support to the students.

・My sensei is busy person on university purpose. It will be better if he gives more time to us.

・The time to complete my research is limited time, I request my major supervisor to give me much time to complete my work.

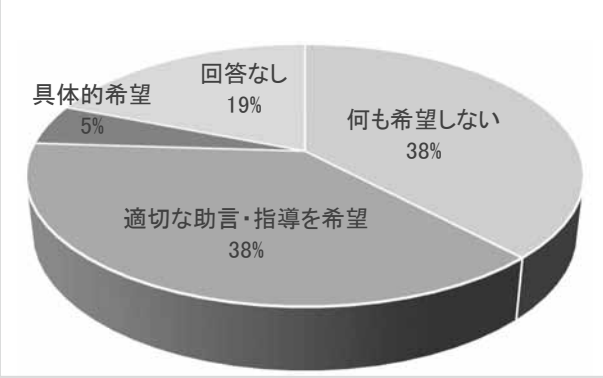
・Please manage your time on giving feedback on manuscript. Rest is fine.

(5) 副指導教員の指導に満足ですか？



満足	14
どちらかといえば満足	4
どちらかといえば不満足	0
不満足	0
回答なし	3
計	21

(6) 副指導教員に何を希望しますか？



何も希望しない	8
適切な助言・指導を希望	8
具体的希望	1
回答なし	4
計	21

コメント：

・My sub-supervisor is also giving me very important comment and suggestions.

・I am satisfiled with my major and sub supervisor.

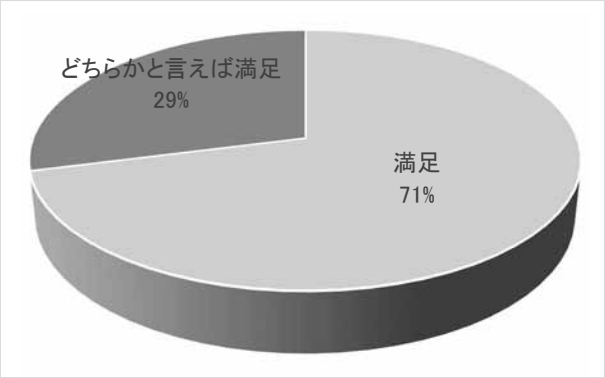
・I am satisfied with my major supervisor. Besides this, we share the research with sub-supervisors. I need innovative ideas to improve my research.

・It's better to be in contact with sub-supervisor, so we can improve our research work.

(7) 教員の指導で改善してほしい点

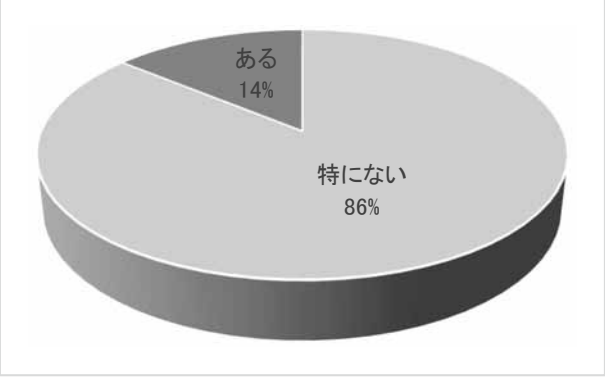
・偉そうな感じ、態度は良くない。
・主指導教員及び副指導教員共適切に指導いただいている。また、電話やメール等でのコミュニケーションも頻繁に行っている。
・For elective subject's - some classes is not our relevant field. We just pass our time and submit our report. My opinion is, if it possible to make precise class, is better.
・If we can easily communicate with sub supervisor and use their lab facility it better for us.
・No suggestion, I am happy and satisfied.
・It is better to make regular research update meeting/presentation with sub-supervisor and/or same like this course.
・Use of English in all cases.

(8) 現在の研究環境に満足していますか？



満足	15
どちらかと言えば満足	6
どちらかと言えば不満足	0
不満足	0
計	21

(9) 研究環境の改善すべきところはありますか？

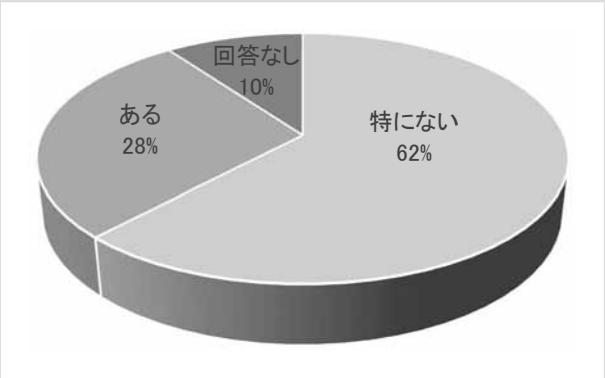


特にない	18
ある	3
計	21

■ある

・Students in ALRC are few. It will be better if the shuttle bus increase to 5 round trips/day.
・実験設備の老朽化
・修士学生、後輩学生の不足が原因と考えら得る研究室維持・管理及び運営の困難さ
・予算の低減による試薬の余裕が十分でないこと。

(10) 現在の研究以外で取り組んでみたいテーマはありますか？



特にない	13
ある	6
回答なし	2
計	21

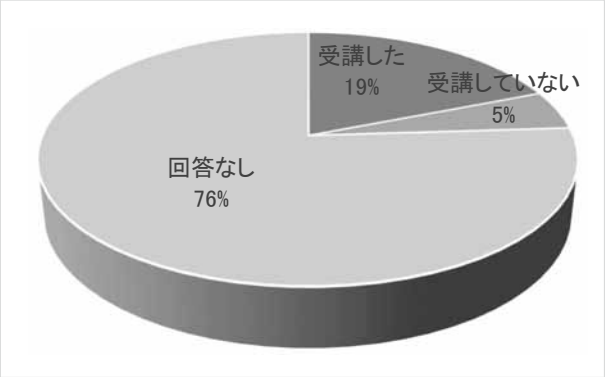
■ある

・I want to study Japanese language, but I do not have time.
・Education system of Japan and physiological experiment by writing other plant.
・I want to do research related to irrigation water management and irrigation technique.
・I am interested in early education. It is interesting to see the Japanese education system.
・I am interested in working on Next-generation Sequencing. Transcriptomics and Proteomics.
・化学的な研究と分子生物学的研究
・心理学

４．鳥取連大の共通科目についてお尋ねします

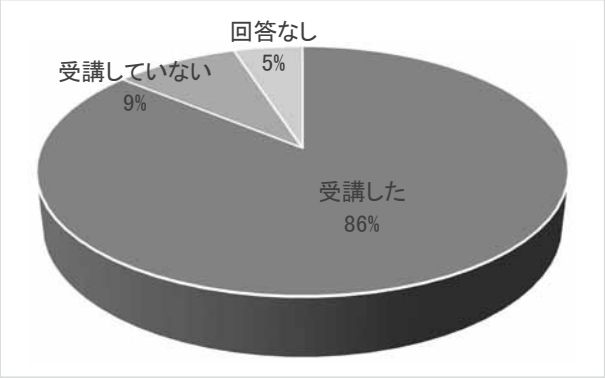
(1) 既に農学特論を受講しましたか

・農学特論Ⅰ（日本語）



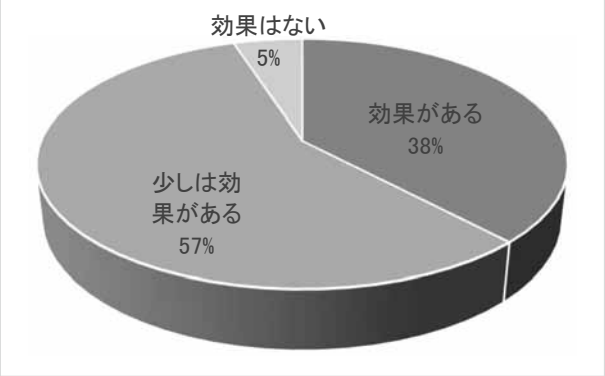
受講した	4
受講していない	1
回答なし	16
計	21

・農学特論Ⅱ（英　語）



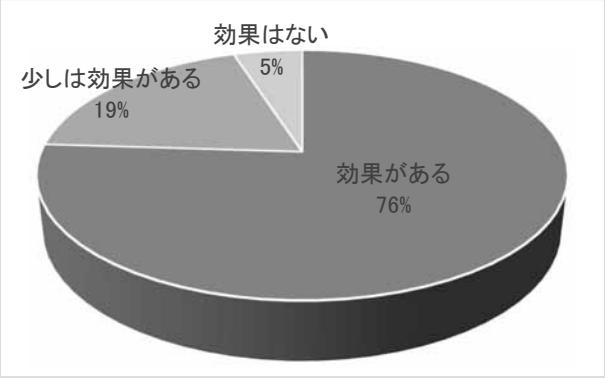
受講した	18
受講していない	2
回答なし	1
計	21

(2) 農学特論は研究に効果があると思いますか



効果がある	8
少しは効果がある	12
効果はない	1
計	21

(3) 専攻特論はあなたの素養や能力を高める上で効果があると思いますか？

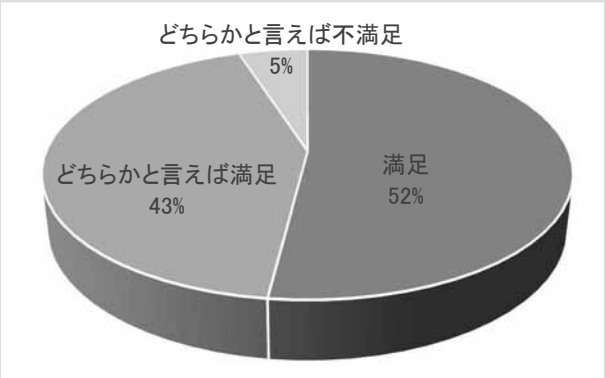


効果がある	16
少しは効果がある	4
効果はない	1
計	21

(4) 農学特論Ⅰ・Ⅱおよび各専攻特論の開講・運営方法について要望や改善策があれば書いてください。

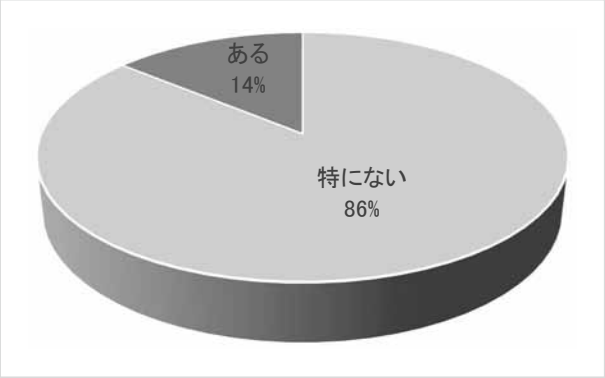
・テレビ講義は初めてであったが、思ったより映像をきれいで理解しやすかった。
・ワークショップを増やすと研修の効果が上がると思う。
・全く異分野の内容が多いが、幅広い知識を習得できる良い機会であると思う。又、農学部の研究範囲の広さを改めて認識した。
・短時間で知識が広がる程の内容が得られていると思えない。研究室単位で専門的な講義やseminarなどを行うべきだ。
・In most courses that are given not directly related to our research area. They are very specific and far from our own specialization.
・More special seminars on thesis, Manuscript writing
・Subjects should be based on the background of students.
・For the special seminar, it is interesting, but it should mainly be focused on research writing.
・If it can make for more generalize and useful for scientific activity on presentation and about the common interest, I think it becomes useful for all, especially manuscript related thing is more important for all.
・The course should incorporate water management and irrigation course.
・I impress to deepen in my subject area. Subject outside from my interest is difficult to follow.
・Please make the presentations simple as the students from different disiplines are present.
・It is okay.

(5) 現在のカリキュラムに満足していますか？



満足	11
どちらかと言えば満足	9
どちらかと言えば不満足	1
不満足	0
計	21

(6) 現在のカリキュラムの改善すべきところはありますか？



特にない	18
ある	3
計	21

■ある

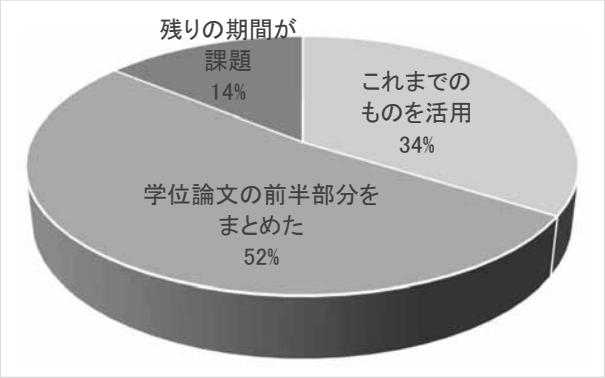
・講義が多い。

・Courses shall be relate to the research area.

・Course should be given based on students background and research which could assist the students for his future carrier.

５．科学コミュニケーション（研究セミナー）についてお尋ねします

(1) 科学コミュニケーションにおけるみなさん自身の中間発表の自己評価をお願いします。（複数回答可）



これまでのものを活用	7
学位論文の前半部分を まとめた	11
残りの期間が課題	3
見通しが立たない	0
計	21

(2) 特別講義の感想や印象をお願いします。

◆工藤　昭英 先生

・人生経験豊富な先生から示唆に富んだお話を拝聴することができ、非常に有益な時間でした。日本の成長の変化をその理由を通して、海外のこれから発展を遂げる皆さんに伝えられた熱意に感動しました、また、逆に我々日本人が果たすべき役割とはこうあるべきであるという示唆もいただきました。これからの人生しっかり先を見据えて研究に取り組みたいと思います。
・質問形式や動画が面白かった。
・研究のための研究ではなく、これからの技術者は、経営的なことを考えた上で、イベーションを創出していくことが重要であることを改めて認識した。私自身の今後の活動に、教えて頂いた内容を活かしていきたいと思う。
・普段聞くことができない内容の講義が拝聴できて、刺激的だった。企業に勤めていらしたので、大学の先生方とは異なる価値観からの話が聞けたことは大変勉強になった。
・経済や市場における企業と消費者の関係や、そのための理論が非常に勉強になりました。その考え方を研究に活かす大切さの他、特に特許を例にした行動の素早さの重要性がこれからの自分にとっても重要と感じました。
・It was very interesting lesson, and educational on how to deal with business, and how the business environment works. Most importantly the presenter knows hot to catch attention of the attendees.
・Eye opening lecture
・Brought some interesting aspects about business
・Very useful for future in work place
・Very interesting, but not related to my background.
・Very very sffective for practical life
・Very interesting and useful for professional life. Many new way I can find out by this seminar.

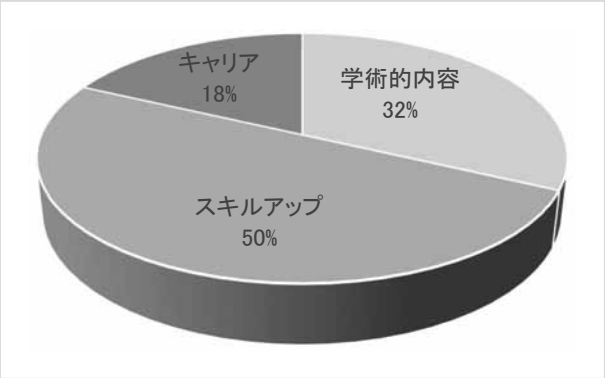
・It was interesting and good presentation.
・I learnt a business skill and how business to be a successful.
・It is an eye-opening for me. He introduce me to the area I knew nothing about. The lecture was quite impressive.
・Very interesting presentation. The example is vivid. He attracts us to think with him.
・Perfect, I like his class.
・That was a good lecture to make me understand how to mix research and business after graduation.
・It is very interesting lecture and a lot of fun quizzes. It was also good to know the relation between research and business. Moreover to increase the spirit of invention.
・His seminar is excellent. His seminar encourages me to improve my research and get economic value.
・It was very impressive in terms of
- Become an innovative scientists.
- Dealing with subject matters.
- Varied strategy for the business among different countries."
・Very educative.
・It was very impressive to hear him. As I am a researcher not the businessman, his lecture changed the vision of my connection both researcher and businessman (or research-business)
・It is very interesting and useful for me.

◆ホーク・フィリップ 先生

・分かりやすく聴きやすい英語でプレゼンテーションの重要性を伝えていただきました、今後、自分自身の学会発表など成果公表にに際して、必ず生かしていきます。また、この内容を職場に持ち帰り、若い研究者にもしっかりつたえていき、職場全体のプレ能力が向上するよう努めたいと考えます、ありがとうございました。
・流ちょうな英語でさすがだと思った。時間が足りなかった。
・プレゼン資料、及び発表をする上で、着目するポイント、強弱を付けるポイント等について、理解することが出来た。英語と日本語で少し異なるかも知れないが、今日教えて頂いた内容を今後の発表に活かしていきたいと思う。
・講義中に示された悪い例の多くが、今回の自分の科学コミュニケーションの発表やポスターにあてはまっており、気を付けなければならないと自戒しました。特に、冗長な表現の例は数多く該当しており、今回の講義を今後に活かしたいと感じました。
・Discussion break は大変楽しく過ごすことができた、英語力には自身はなかったが、できるところから、伝わるようにするところから初めてみようと思えた。
・It is very important on how to write paper with very clear and understandable English.
・Highlighted very important issue
・Helped to notice errors we make during presentations
・Very helpful in future preparations for presentations
・Very good and informative.
・Very effective for academic and practical life too.
・This lecture is useful on prepare presentation and papers.

・I could grasp many things like how to present for different audience.
・His lecture was of great help to me. In his lecture I learnt many things about poster presentation.
・He gives us very useful suggestions and skill to improve my presentation.
・Niceclass, like it.
・I was impressed how he used simple techniques to make evidence easily understand a research presentation.
・It is very nice and workshop. I hope lecture time could be a little bit longer. Because this time the number of participants are quite large and everybody wants to explain their slides.
・His seminar is excellent. I got information to improve my presentation.
・Help us to make our prescription and poster more value.
・Trick to make the prescription short and sweet.
・Very educative.
・I thought if we attend his lecture before this presentation, we could make the content of our presentation much better. Though it will be very useful in my future presentation. This was major part of this course.
・It is also good for improving my situation.

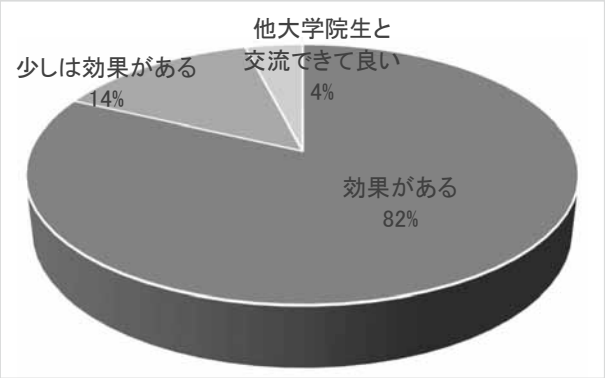
(3) 今後、セミナーなどの特別講義として聞いてみたい話題は何ですか？(複数回答可)



学術的内容	9
スキルアップ	14
キャリア	5
その他	0
計	28

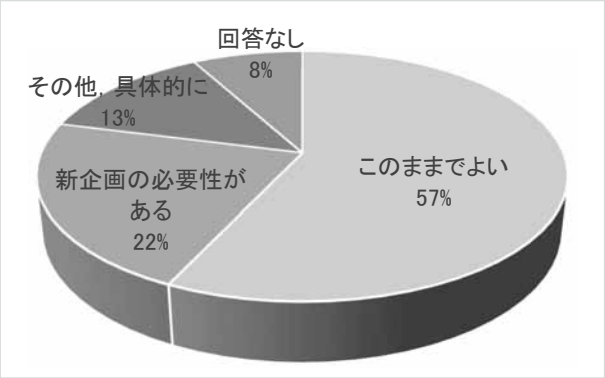
■その他：
・Post-Doctoral, Research opportunities

(4) 科学コミュニケーションは，あなたの研究にとって効果があると思いますか？
（複数回答可）



効果がある	18
少しは効果がある	3
効果はない	0
他大学院生と交流できて良い	1
計	22

(5) 科学コミュニケーション(研究セミナー)の内容や運営方法（研修所の設備を含む）についてさらなる改善策があれば書いて下さい。



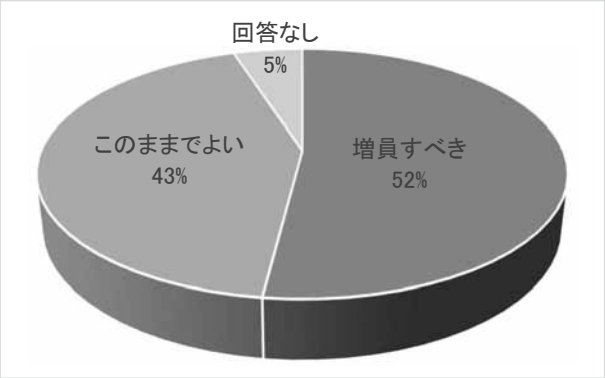
このままでよい	13
新企画の必要性がある	5
講師の選択に工夫がほしい	0
その他，具体的に	3
回答なし	2

コメント：

・英語と日本語を交互に使用してほしい。まったく話せないと理解が難しい。
・ただただ寒く、虫がいやでした。その他は満足しております。準備等、ありがとうございました。
・Talk on how to write thesis or scientific article.
・Seminars should be more simple and if possible long time (20 min).
・Need a new place to support accommodation
・もう少し暖かい時期に行って欲しい。
・研修所が寒いので、防寒設備を整えるか、他の季節に行ったほうがいいと思います。
・講師選択がすばらしかった。
・Dr. Philip Hawk's presentation is useful and I can apply it to improve my presentation's skill.

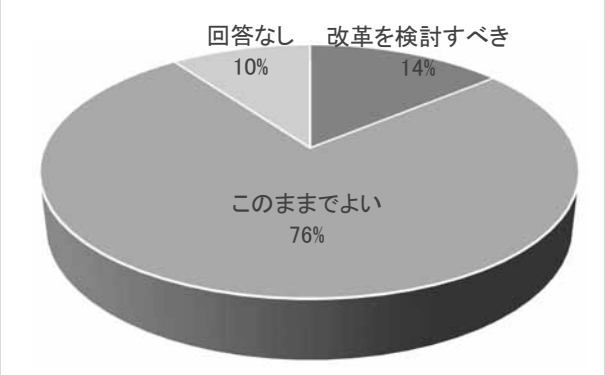
６．その他

⑴ 現在の定員は３大学合わせて１学年１７名です。今後、定員数を変えることについてどう考えますか？



増員すべき	11
このままでよい	9
減少･縮小させるべき	0
回答なし	1
計	21

⑵ 現在の組織は、４専攻･８連合講座ですが、この組織構成についてどう考えますか？



改革を検討すべき	3
このままでよい	16
回答なし	2
計	21

7．コメント（自由記入項目）

・定員は20名程度が最大だと思います。理由は、2泊3日であれば、全員の顔がやっと覚えられる人数だからです。
・社会人の学生は、二足のわらじとなるため、計画的に両立することは難しいと思うが、この３年間は、自己の技術力向上、コミュニケーション力の向上、人脈の発展等、今後の自分自身の活動にとって、プラスになることが多いと思う。
・学費は係るが、博士課程の進学を考えている人は、前向きに検討することを勧める。
・社会人学生や留学生だけではなく、進学組も増やすべきだ。各研究室の研究のクオリティは指導教員のみならず、修士及び博士学生の数＋活気によっても大きく影響される。理系研究において技術的な習熟は不可欠ではあるが、指導教員に一任すべきではない。学生同士のコミュニケーションの中で学ぶことができるように、多様な学生が存在するような研究室が望ましい。もちろん、多ければいいということではないが、博士から修士、学士までが複数人存在する状態が望ましい。科学コミュニケーションのセミナーは、実に有意義なものあったが、特論の講義は教養にはなっても知識にはならなかった。よって、もっと少なくても良いとおもう。教員の負担を減らすと同時にその時間をセミナーや博士研究指導にあてるべきと考える。
・Face to face courses shall be planned at student's university.
・As it is UGSAS, I didn't see any students from Yamaguchi university. I also know it is hard to gather all students together. But I think it is better to find a chance to let all three university students come together so that we will have a better communication to each other.
・Writing in English class probably could help the students to improve the English skills.
・UGSAS is good for us to be in touch, helps and provides information timely.
・It is better to make this kind of seminar together at least twice.
・I am satisfied with UGSAS.

第５部　国際学会・国際研究集会
発表学生援助　報告集

国際学会・国際研究集会 発表学生援助制度

海外の学会で発表することによりプレゼンテーション能力を養い，最新の研究現場に接することで自らの研究力を培うことを目的として，連合農学研究科では，学生に対する外国旅費の支援制度を設置した（平成２６年度より）。

●募集回数

２回（平成２９年４月，１０月）

●援助の範囲

国際学会で発表するために必要な移動費及び滞在費（上限：１５万円）

●対象となる学会

平成２９年度中に国外で開催される国際学会

●対象学生

連合農学研究科在籍の学生で，国際学会・国際研究集会において各人の研究テーマに関して，口頭発表またはポスター発表を行う者

●派遣先及び補助金額等の実績

地　域	派 遣 国	人 数	金　額　（円）
アジア	マレーシア	2	１８４，８００
	台湾	1	７４，７００
北米	アメリカ合衆国	1	１５０，０００
合　計		4	４０９，５００

平成２９年度　国際学会・国際研究集会発表　採択者一覧（第１次、第２次）

	氏　　名	入学年度	専攻	連合講座	配属	主指導教員	学会名	開催都市	開催日程	発表方法	発表のタイトル
1	DANDY ADITYA NOVRESIANDI	H27	生物生産科学	森林資源学	鳥取	長澤 良太	2017 Internatuinal Conference on Imaging, Signal Processing and Communication (ICISPC 2017)	ペナン、マレーシア	7月26日～7月28日	口頭	Tropical peatlands monitoring by using C-band dual-polarization Sentinel-1 data
2	PRIMA RIZKY MIRELVA	H28	生物生産科学	森林資源学	鳥取	長澤 良太	2017 Internatuinal Conference on Imaging, Signal Processing and Communication (ICISPC 2017)	ペナン、マレーシア	7月26日～7月28日	口頭	Signal and multi-temporal filtering comparison on ALOS2/PALSAR2 data for agriculture area classification
3	HASSAN MOHAMED FAHMY ABD EL BAKI	H27	国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	鳥取	藤巻 晴行	Managing Global Resources for a Secure Future	フロリダ、アメリカ	10月22日～10月25日	口頭	Validation of New Numerical Scheme for Determining Irrigation Depths using Quantitative Weather Forecast.
4	DUTTA AMIT KUMAR	H28	生物資源科学	生物機能科学	島根	中川　強	Taiwan-Japan Plant Biology 2017	台北、台湾	11月3日～11月6日	ポスター	Identification and Molecular Characterization of gene responsible for bagel3 mutation in Arabidopsis thaliana

氏　　名	Dandy Aditya Novresiandi
参加学会名	International Conference on Imaging, Signal processing and Communication (ICISPC)
開催日程	Penang, Malaysia
開催都市	July 26-28, 2017

The 2017 International Conference on Imaging, Signal processing and Communication (ICISPC) is one of the flagships conferences of the International Academy of Computer Technology (IACT) society. The first ICISPC conference, known as the International Conference on Multimedia and Image Processing (ICMIP), was held in Bandar Sri Begawan, Brunei in June 2016. The scope of ICMIP was expanded through ICISPC, so that ICISPC covers much more topics in the area of image and signal processing, as well as the communication towards the current technology transformation and the growth of Internet of Things (IoT) and the 4th Industrial Revolution. Furthermore, the ICISPC conference aim to bring together international academicians, scientists and industrialists for knowledge sharing, exchange of ideas, collaborations and presentation their research outcomes in imaging, signal processing and communication fields. In association to this, the general theme of ICISPC 2017 is "Emerging technology for Sustainable Tomorrow." In addition, there were 68 accepted papers from Malaysia, Taiwan, Indonesia, Bangladesh, Japan, Philippine, France, Poland and Egypt, for presentation at the conference.

The ICISPC 2017 was my third experience to attend in an international conference with the support from the United Graduate School of Agricultural Sciences (UGSAS) of Tottori University. In my case, I am always eager to attend in an international conference, because I feel that attending an international conference is a way for me to: (i) make a contribution regarding my research progress; (ii) broaden my international networking among students, researchers, experts, and professionals; (iii) obtain fresh ideas and new knowledges from experts around the world; and (iv) improve my soft skills, ability and capability to conduct research and to present it to other people. Therefore, upon hearing the information from my supervisor about the application of 2017 student travel grant to present at international conference, I was very enthusiast and immediately prepared all the necessary documents to be submitted to the UGSAS.

On this conference, I had the opportunity to present my research entitled "Tropical peatlands monitoring by using C-band dual-polarization Sentinel-1 data." This study was based on the recent issues in my field of research, which is the growing interest of Synthetic Aperture Radar (SAR)-based remote sensing application for assessing environmental issues in agriculture, particularly for tropical peatland monitoring activities. Thus, in this study, I examined the potential of the C-band dual-polarization Sentinel-1 data for tropical peatland monitoring on a monthly basis for a year in Siak Regency, Indonesia, along with their capability for discriminating peat classes. I got one question from the chairman of my session, which is Prof. Tony Peyton from University of Manchester, by the time I finished my presentation. He was asking about the system of C-band SAR that I used, and he quite satisfied with my given answer. In my opinion, this activity is very good in improving knowledge and insight, especially for PhD student like me. Lastly, I would like to express my sincere gratitude and appreciation for the UGSAS of Tottori University for supporting me with the student travel grant to present at international conference, so that I could join the ICISPC 2017 in Penang, Malaysia.

Tropical peatlands monitoring by using
C-band dual-polarization Sentinel-1 data
Dandy Aditya Novresiandi[1, 2] and Ryota Nagasawa[3]

USM
UNIVERSITI
SAINS
MALAYSIA

氏　　名	PRIMA RIZKY MIRELVA
参加学会名	2017 Internatuinal Conference on Imaging, Signal Processing and Communication (ICISPC 2017)
開催日程	July 26-28, 2017
開催都市	Penang, Malaysia

The International Conference on Imaging, Signal processing, and Communication 2017 (ICISPC2017) is a conference organized by Collaborative Microelectronic Design Excellence Center (CEDEC) and Universiti Sains Malaysia. The theme of this conference is “Emerging Technology for Sustainable Tomorrow”. This conference is aimed to bring international academicians, scientist and industrialists for sharing and exchange ideas of their research in imaging, signal processing and communication fields. There were 75 papers from 25 countries submitted to ICISPC 2017 and there were 35 papers from 10 countries accepted. The conference was held in two parallel sections on the first day and one parallel section on the second day. There were also three keynote speakers who share their knowledge in metal detection, source code clone detection, and smart campus with IoT or Internet of Things.

The ICISPC 2017 was my first experience to attend and give presentation in multi-national conference. It became more meaningful because I got support from the United Graduate School of Agricultural Sciences (USGAS) of Tottori University through the travel grant program. Since it was my first experience, there were several things I would like to achieve in this conference. First, I would like to learn how to give and share my research well and second, I would like to increase my network with other students or expert in this conference.

In this conference, I presented my study which was entitled “Single and multi-temporal filtering comparison on Synthetic Aperture Radar data for agriculture area classification”. This study was focusing on the difference of single filtering and multi-temporal filtering application in SAR data processing and its effect on the agricultural area identification and classification. In my study, it was found that the single filtering is more effective than the multi temporal filtering. The presentation was limited to 15 minutes with 10 minutes for presentation and 5 minutes for question and answer. In this conference, I could get increase my knowledge not only from imaging process but also other fields in signal processing in which near interest of my study. Besides, I also learned to communicate with other people and to adapt in the new situation. There are also things that I need to improve after I attended this conference, such as increase my presentation skill and increase my confidence to present my ideas and study in front of other people.

As the conclusion, the conference or other kind of this activity is very good and valuable to increase the soft-skill ability as well as to build connection with other students and experts. Furthermore, it also could benefit students to broaden the perspective due to the different culture and custom. Therefore, I hope there will be a nice opportunity to attend other conference and perform better to present my study in the future. At last, I would like to express gratitude and appreciation for the United Graduate School of Agricultural Sciences (USGAS) of Tottori University for supporting the travel expense so that I could experience the ICISPC 2017 in Penang, Malaysia.

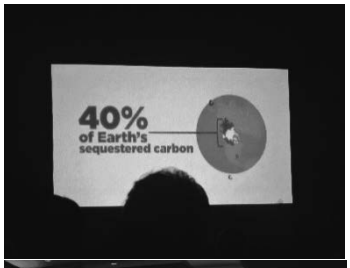
Picture taken on this conference:

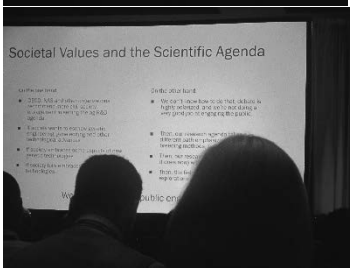
氏　　名	Hassan Mohamed Fahmy Abd El Baki
参加学会名	Managing Global Resources for a Secure Future
開催日程	October 22 - 25, 2017
開催都市	Florida, USA

Owing to secure future of agriculture in the world, the American Society of Agronomy, Crop Science Society of America, and Soil Science Society of America are arranging international annual meeting every year. This year 2017 international annual meeting, "Managing Global Resources for a Secure Future," was held in Tampa, Florida on Oct. 22-25, 2017. Forty-thousand scientists, professionals, educators, and students were hosted to introduce their research topics either in oral presentation or in poster. The opening keynote speaker was Cathie Woteki, former undersecretary, USDA. While the closing keynote speaker was George Kourounis, Award-Winning Explorer, Adventurer, and Storm Chaser.

I myself presented an oral presentation, “Validation of a New Scheme for Determination of Irrigation Depths Using a Numerical Model of Crop Response to Irrigation and Quantitative Weather Forecasts”, in Tampa Convention Center, Room 14, on Monday, October 23, 2017: 9:05 AM. I presented it in session 31 “Modeling in Soil Physics and Hydrology”. The organizers were Yohannes Tadesse Yimam, Matthew R. Levi and Nathaniel Chaney. The moderators: Yohannes Tadesse Yimam and Matthew R. Levi. This session focuses on advances in modeling for soil physics and hydrology with applications for cropping systems, engineered systems, water management, and solute transport. I stayed in “Ramada Tampa Airport Westshore” for five nights.

I could create good relationships with many of international professors, students, and company traders. I took a look on exhibitors for scientific instruments like Daiki, Soil Moisture, Campbell Scientific, onset etc. I obtained much knowledge in different research fields which helped me to improve my current research and my future. Beside this report, I attached some important documents. I also like to show some pictures taken throughout this meeting.



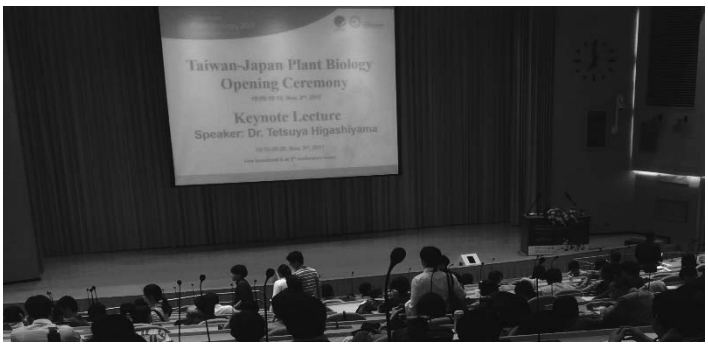


氏　　名	Dutta Amit Kumar
参加学会名	Taiwan Japan Plant Biology 2017
開 催 日 程	November 3 to 6, 2017
開 催 都 市	Taipei, Taiwan

It is a great pleasure for me to attend the Taiwan-Japan Plant Biology 2017, first joint meeting of TSPB (Taiwanese Society of Plant Biologists) and JSPP (Japanese Society of Plant Physiologists), held on November 3 to 6, 2017, at the Humanities and Social Sciences Building, Academia Sinica, Taipei, Taiwan. TSPB and JSPP represent major scientific societies in Taiwan and Japan, respectively, as a nation-representing plant science community tied with International Association of Plant Physiologists. In this exciting joint meeting, six Keynote talks from the leading scientists in plant biology, fifteen concurrent oral sessions that include four speakers' and a few selected talks from poster applications, and poster sessions were arranged.

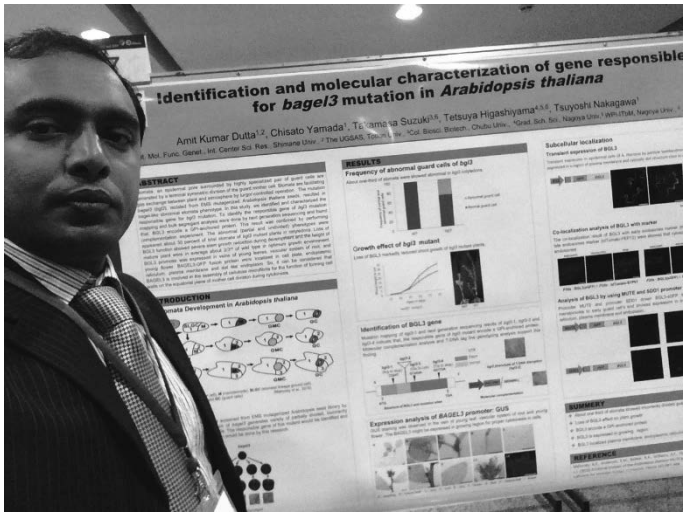
In this conference I have presented a poster entitled "Identification and molecular characterization of gene responsible for *BAGEL3* mutation in *Arabidopsis thaliana*". In this study, we identified and characterized the responsible gene for *bagel3* (*bgl3*) mutation, isolated from EMS mutagenized *Arabidopsis thaliana* seeds, resulted in bagel-like abnormal stomata phenotype. Stomata, specialized paired cells with pore involved gate-like function for gas exchange between plants and surrounding environment, considered as a good target for developmental biology. We showed here that BAGEL3 encode a GPI-anchored protein, is involve in the assembly of cellulose microfibrils for the function of forming cell walls on the equatorial plane of mother cell division during cytokinesis. I got many suggestions from some researchers during my poster presentation. I also got to learn from a lot of interesting studies presented in oral and poster presentation sessions.

I am very grateful for the opportunity to participate in this conference. I would like to express my heart-felt gratitude to The United Graduate School of Agricultural Sciences (UGSAS), Tottori University for providing financial support to participate this conference.



Opening ceremony

Conference Hall



Poster presentation

第６部

母国において各界リーダーとして活躍する連大修了生による国際シンポジウムの開催およびグローバル同窓会ネットワークの構築

The 1st Meeting for the Global Alumni Network of the United Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University (UGSAS-TU) [GAN-RENDAI]

Tottori, Japan, 8 March 2018
Meeting Report

TOTTORI UNIVERSITY
SHIMANE UNIVERSITY
YAMAGUCHI UNIVERSITY

Supported by "Tottori University & UGSAS-TU"

DATE/VENUE
2018.3.8 (Thu)
The UGSAS-TU Seminar Room (A1310), Faculty of Agriculture, Tottori University

Participants:
Dr. Nitaro Maekawa (Dean of UGSAS-TU)
Dr. Kumi Yasunobu (Vice-President for Promotion of International Affairs, Tottori University)
Dr. Motoichiro Kodama (Vice Dean of UGSAS-TU)
Dr. Roxana Y. Parada Jaco (Center for International Affairs, Tottori University)

Representatives of each Division, UGSAS-TU
Dr. Tsuyoshi Kawano (Tottori University)
Dr. Haruyuki Fujimaki (Tottori University)
Dr. Yasuhiro Ito (Shimane University)
Dr. Ichiro Kita (Shimane University)
Dr. Takahiro Ishikawa (Shimane University)
Dr. Tadashi Takahashi (Yamaguchi University)

Dr. Minoru Miyasaka (Center for International Exchanges, Shimane University)

Invited guest:
Dr. Alias bin Abdullah (University of Malaya, Malaysia)
Dr. Imad-eldin A. Ali Babiker (Dry Lands Research Center, Sudan)
Dr. Ivo Frébort (Palacký University, Czech Republic)
Dr. Hermansah (Andalas University, Indonesia)
Dr. Tharnrat Kaewgrajang (Kasetsart University, Thailand)
Dr. M. Habibur Rahman Pramanik (Bangladesh Agricultural University, Bangladesh)

The following is a summary of the discussion at the roundtable at Tottori University, Japan.

- ❖ *The facilitator **Dr. M. Kodama (TU)** at 15:00 announced the official start of the meeting. The meeting was scheduled to finish at 17:00.*
- ❖ *Dr. Nitaro Maekawa and Dr. Kumi Yasunobu made the opening and welcome address.*
- ❖ *Dr. Kodama explained the agenda of this meeting and read the purpose and final goal of this project to all members as follow:*

1. Purpose/Objectives

The UGSAS-TU was established in 1989. Since the establishment, over 800 students have obtained their doctoral degree in agriculture at the UGSAS-TU. Many of them have played an active role as researchers, technical experts, and professors in different research areas. In addition, more than half of the graduates are foreign students from all over the world (see table 1). After returning home countries, they are engaged as researchers or engineers in various scientific fields including agricultural science.

Some of our distinguished alumni were invited to have the 1st international meeting/symposium to discuss on the Global Alumni Network of the UGSAS-TU (GAN-RENDAI). The meeting and symposium were planned with the goal of linking the graduates and current students and building a network among the global professional UGSAS-TU alumni. To this end, "The Global Alumni Association (GAA) of UGSAS-TU" should be established by linking an alumni association in each country.

By organizing "The Global Alumni Association (GAA) of UGSAS-TU:
(1) UGSAS-TU graduates will be able to easily communicate and exchange information with each other after going back to their home countries through the network.
(2) Japanese graduates who work abroad will have a chance to contact GAA members in each country and can receive help to conduct activities in abroad.
(3) GAN will support for starting novel global cooperative projects in academic research and other areas, global job hunting, etc. beyond national borders.
(4) GAN must be effective to acquire many foreign students in UGSAS-TU by sharing and distributing information of UGSAS-TU in abroad, and this is really important for UGSAS-TU future development.

- ❖ *Each invited member of the meeting introduced themselves:*

1) **Dr. Alias Bin Abdullah (University of Malaya, Malaysia)**
   He graduated from TU in 2011 (Prof. Dr. Kobayashi Lab) in Agriculture Economics. He is now a professor at the University of Malaya, and at the same time, he is managing the Malaya University business in two construction and manufacturing companies. He is the chairperson of these two companies.
2) **Dr. Imad-eldin A. Ali Babiker (Dry Lands Research Center, Sudan)**
   He graduated from TU in 1997, and then he did a Post Doc at TU. He works for Agricultural Researcher Corporation in Sudan, and he is teaching at the Faculty of

Environmental Sciences in Sudan. Currently, he is a visiting professor at the arid land center of TU.

3) **Dr. Ivo Frebort (Palacky University, Czech Republic)**
He graduated in 1997 from Yamaguchi University (Prof. Dr. Adachi). Then he did a Post Doc in Germany. In 2002, he returned to Czech and since 2005 he is a professor in Biochemistry and Palacky University. His University was able to obtain funding to build a new research center from the European Union because a Czech Republic became a member, and he was able to obtain the major project to build the Center of the Region Haná for Biotechnological and Agricultural Research. Now he is Executive Director of this center and leader of the research program.
4) **Dr. Hermansah (Andalas University, Indonesia)**
He graduated in 2003 from Shimane University (Prof. Dr. Matsunaga) in soil engineering. After returned to Indonesia he was involved in the Andalas University management and he was the head of the research and community services unit in the University, and now is the Vice-President of the students' Alumni in Indonesia.
5) **Dr. Tharnrat Kaewgrajang (Kasetsart Univ. Thailand)**
She graduated in 2013 from Tottori University (Prof. Dr. Kodama). After return to Thai, she got a job as a Lecture in Kasetsart University. This University is the first one who offers agriculture sciences in Thailand.
6) **Dr. M. Habibur Rahman Pramanik (Bangladesh Agricultural Univ., Bangladesh)**
He graduated from Crop Science in 2001 from Shimane University with Dr. Ishamatsuri professor as a supervisor. Now he is a Professor in crop sciences in Bangladesh Agricultural University.

- *Then all members from TU, SU and YU introduced themselves.*

2. Action Plans (in detail)

- *Dr. Kodama asked the all invited members their opinion about:*

How to start/organize the GAN-RENDAI, GAA
What are the initial requirements to start the GAA

- *Each invited explained their opinion about how to organize GAN-UGSAS and they also introduced their action plan in each country in detail as follow:*

Dr. Alias Bin Abdullah (University of Malaya, Malaysia)

1) For graduate students from Malaysia will be easy to contact them because only are 3 students. It is a good idea to have an alumni association and he recommended to have an international conference and invite all graduate students, he thinks that all students will be interesting to come to the conference.
2) He can help with Malaysia and others countries because he belongs to the study committee of JSEAC (Japan Studies Association in Asia). He can meet graduate students from Rendai in those conferences.

3) In the University of Malaya, because of Dr. Yasunobu (International Exchange Students), TU now is in the list for scholarship especially for Sciences (Biotechnology and Microbiology).
4) For UKM (University Kebangsaan Malaysia), from this year they are going to send two students under Malaysia scholarship due to his wife successful project in oil palm.
5) For UPM they are going to send students to Shimane, Yamaguchi, and Tottori for research.
6) For undergraduate students, they have about 500 scholarship, especially for engineering.
7) He is planning to send his students for one or two months to have an experience in Japan, especially in Tottori University.

Dr. Imad-eldin A. Ali Babiker (Dry Lands Research Center, Sudan)

1) In Sudan they have two bodies:
   -Sudanese-Japanese Friendship Association, which include different people that had experience in Japan.
   - Japanese Embassy in Khartoum, who invite every year for dinner party to all graduated students from the government of Japan. The embassy could be a good link to find those Sudanese students who graduate from Tottori University.
2) To get together all graduate students is necessary to prepare an application form to fill out and spread by the internet. This will provide which is the status of all graduate students worldwide. The Alumni should be where they graduate and not where are they from?
3) He suggested preparing the application form on the TU homepage as a first step.

Dr. Ivo Frebort (Palacky University, Czech Republic)

1) He can help to establish the European branch because there only 4 students from Europe graduated from UGSAS (Czech and Poland). He can easily contact Poland graduated students.
2) Dr. Ivo also offers his institution support from his Biotechnological center for administration matter if is necessary to organize the GAN-UGSAS.
3) He wants to know about what UGSAS want to do? If you are looking for more students from Europe is necessary to discuss the support of students, what the UGSAS is offering, because also many universities in Europe are looking for students. UGSAS should demonstrate particular fields in which TU is good at like arid land research or plant research, and then it is possible to select the candidate's students.
4) His university also is trying to get students and it is offering scholarships to overseas students, and is not easy to get a good candidate. He was the formal Dean of the Faculty of Sciences until this January and during his term; they offered 10 scholarship and not often were able to fill all the 10 positions.
5) He is not sure if can bring some students from Czech to TU, but maybe he can try to collaborate with some research subject and offer a particular topic interesting for

them. If TU does not offer scholarship will be difficult to get students, because Germany University also is offering scholarships.

6) The question is a legal body is it necessary? He suggests just an informal association. Also, the legal body could be here only in Japan and not in each country.
7) He will confirm about the list of scholarship in Indonesia because his University before was not including in the list, but after some contact with the government, his University is now in the list.

Dr. Hermansah (Andalas University, Indonesia)

1) In Indonesia, they have the all Alumni from Japan Association called PERSADA (All alumnus graduate from Japan, including Ph.D., Master, and undergraduate students). Each province in Indonesia has this association and they have a meeting once a year.
2) It is a good idea to make GAN for Ph.D. students with the potential to do research.
3) In 2008 was established the Alumni Association Indonesia brand in Shimane University with 32 members where 21 are graduate from Tottori University. The efforts of the Alumni association is to inform to the embassy in Indonesia in each district to introduce how to get information of Japanese Universities and how to bring new students.
4) He can collaborate with the network any time, he needs only to know what kind of work he can do for this year.
5) The government of Indonesia is offering scholarships to students, but TU is not including in the scholarship list. If TU is not on the list, the government of Indonesia cannot give the scholarship. Please investigate how TU can be included in the list of scholarship that the government of Indonesia is offering to study in Japan.
6) His university also has an exchange program and they have the scholarship to send students to Japan. He would like to send students for short-term (one or two months) to Japan (Tottori) is the University accept the students only for two months.

Dr. M. Habibur Rahman Pramanik (Bangladesh Agricultural Univ., Bangladesh)

1) In Bangladesh, they have three association:
   -JUAAB (Japanese University Alumni Association of Bangladesh)
   -The Japanese JSPS Alumni Association of Bangladesh
   -Shimane Alumni Association of Bangladesh
2) Before this meeting, he went to Shimane University to meet some associated members of Shimane Alumni Association. In the case of Tottori, Global Alumni Network it is an association or not? First, we should discuss the name because Global Association Network is not clear who are the members.
3) He suggested that for this Global Alumni Association should be include also Japanese students.
4) To start the Association of Rendai he suggested that to prepare a branch on each country is a little difficult to handle, first is better to organize the committee and members by continent.
5) Each University TU, YU, and SU should first prepare the list of graduate students.

➢ *Some opinions from Professors as follow:*

Dr. Tadashi Takahashi (Yamaguchi University)

1) He expressed that this Association (GAN-UGSAS) will help to all Japanese professors to get a good international student. He had experience with Bangladesh students who recommend other Bangladesh student, and he was a good student. Scholarships are few from the government so is necessary to use the scholarship for good students. Therefore, this Alumni Association could be a good link to make a good matching with students and scholarship.

Dr. Minoru Miyasaka (Center for International Exchanges, Shimane University)

1) He was surprised to know that 461 students are graduate from Rendai and he understands why TU would like to organize the Alumni association as a final goal. In the case of Shimane he found that many graduate students are from Bangladesh from all faculties, and now in Shimane University, Bangladesh students are the second largest group after China. About 200 graduate students are from Bangladesh including exchange student, so is why he made the list and started the Alumni Association.
2) At first, he prepared only 100 member list, sent email to explain his plan to create an Alumni association in the website. The students in the list said that they knew others students and so on. Then, the students selected the President of the Association. Now they have 35 members in the Alumni Association.
3) The numbers of scholarships are reducing, but Indonesia is getting budget and offering scholarships to Indonesian students to study in Japan. Could be a good opportunity to send students to Rendai.

❖ *Dr. Kodama's response to the questions of the invited guest as follow:*

1) There is a big competition worldwide to get international students, therefore, is necessary to demonstrate the advantage or good points of UGSAS.
2) Now scholarship at TU has a limited budget and Monbukagakusho scholarship are also very competitive. Now TU is discussing this matter.
3) The Global Alumni Network is a concept, and to achieve this concept we need to create the Global Alumni Association in each country.
4) Now, we don't need a formal Association, but we can start an informal association in each country with the help of all invited members.
5) The Alumni Association will help to distribute any kind of information like a scholarship to those students interested to study in Japan.

3. The main points and decisions made by the participants:

1) It is important to create the Alumni Association from Rendai to exchange information, start new research projects, job-hunting, or to be in communication between Universities worldwide.
2) All members of this meeting are in agreement with the objectives and final goal of this project, and available to start working to build the GAN or GAA, as an informal association in each country.

3) First, Rendai will prepare the students graduate list. The list will pass to all invited members of this meeting and with their help, we can start to contact the graduate students; where they are, where they are working, etc. on each country.
4) Each member of this meeting will be in charge to contact the members of the list in his/her country and start an informal Association. Gradually this Association can be formal.
5) The final goal is to build the Global Alumni Association in each country; and create our website to distribute information to graduate and currents students.
6) We can continue to communicate by skype or mail and think about the logo or symbol, and we hope to have next year the 2nd meeting and international symposium with the help of all members.

Invited guest and representatives of each Division, UGSAS-TU during the meeting.

Table 1. Total of graduate students from UGSAS-TU

No. of the graduates (PhD)						
	Country		Tottori	Shimane	Yamaguchi	Total 10<
Asia	Bangladesh	バングラデシュ	5	34	22	61
	China	中国	91	69	22	182
	India	インド	3	1	2	
	Indonesia	インドネシア	6	14	1	21
	Iran	イラン	1			
	Laos	ラオス	1			
	Malaysia	マレーシア	2	1		
	Mongolia	モンゴル	4			
	Nepal	ネパール		4		
	Pakistan	パキスタン	7			
	Philippine	フィリピン	2	6		
	South Korea	韓国	12	16		28
	Srì Lánka	スリランカ	1	1	2	
	Thailand	タイ	7	2	12	21
	Vietnam	ベトナム	1	3	6	10
Africa	Egypt	エジプト	9	1	2	12
	Ethiopia	エチオピア	8	1		
	Ghana	ガーナ	2	6		
	Guinea	ギニア	2	1		
	Kenya	ケニア		4	1	
	Madagascar	マダガスカル	1			
	Malawi	マラウイ	1	1		
	Mauritania	モーリタニア	2			
	Morocco	モロッコ	1			
	Mozambique	モザンビーク	1			
	Nigeria	ナイジェリア	3	2		
	Oman	オマーン	2			
	Sudan	スーダン	17		2	19
	Tanzania	タンザニア		1		
	Uganda	ウガンダ	1			
	Zimbabwe	ジンバブエ	3			
Europe	Czech Republic	チェコ			2	
	Poland	ポーランド		2		

N/M/S America	Bolivia	ボリビア	2			
	Cuba	キューバ		1		
	Ecuador	エクアドル	1			
	El Salvador	エルサルバドル	1			
	Honduras	ホンジュラス	1			
	Mexico	メキシコ	3			
	Peru	ペルー		1		
	USA	アメリカ	1			
					Total:451	

Invited members from Malaysia, Indonesia, Czech Republic, Thailand, Sudan and Bangladesh (Left to right)

The 1st International Symposium for the Global Alumni Network of the United Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University (UGSAS-TU) [GAN-RENDAI]

Tottori, Japan, 9 March 2018

TOTTORI UNIVERSITY
SHIMANE UNIVERSITY
YAMAGUCHI UNIVERSITY

Supported by "Tottori University & UGSAS-TU"

DATE/VENUE

2018.3.9 (Fri) Free admission.

The Large Seminar Room (A2440), Faculty of Agriculture, Tottori University

9:00-9:10 **Opening Session**

Opening Address, Dr. Nitaro Maekawa (Dean of UGSAS-TU)
Welcome Address, Dr. Kumi Yasunobu (Vice-President for Promotion of International Affairs, Tottori University)

9:15-12:45 **Lecture Session**
9:15-9:45
Dr. Alias bin Abdullah (University of Malaya, Malaysia)
"Japan Study Program at the University of Malaya : Introduction and Contributions to Promote Japan in Malaysia and ASEAN". [Chair: Dr. K. Yasunobu, TU]

9:45-10:15
Dr. Imad-eldin A. Ali Babiker (Dry Lands Research Center, Sudan)
"My Journey from Tottori to Tottori". [Chair: Dr. H. Fujimaki, TU]

10:15-10:45
Dr. Ivo Frébort (Palacký University, Czech Republic)
"Plants as a Tool for Sustainable Global Development". [Chair: Dr. O. Adachi, YU]

10:45-11:00 Coffee Break

11:00-11:30
Dr. Hermansah (Andalas University, Indonesia)
"Studying at Universities in Japan is the Foundation to Develop Science Technology Research Network and Career". [Chair: Dr. T. Masunaga, SU]

11:30-12:00
Dr. Tharnrat Kaewgrajang (Kasetsart University, Thailand)
"Wild Mushrooms in Thailand: Research and Utilization". [Chair: Dr. M. Kodama, TU]

12:00-12:30
Dr. M. Habibur Rahman Pramanik (Bangladesh Agricultural University, Bangladesh)
"Past and Present Researches on Phytochemical Ecology and Cold Stress in Rice Seedlings". [Chair: Dr. T. Asao, SU]

12:30-12:45 **Wrap-up & Closing Address**
Dr. Norikazu Yamanaka (Head of Department of Dryland Science in Graduate School of Sustainability Science, Tottori University)
Dr. Tsugiyuki Masunaga (Professor of Faculty of Life and Environmental Science Shimane University)
Dr. Jun Kobayashi (Dean of Faculty of Agriculture, Yamaguchi University)

Message from Professor Nitaro Maekawa, Dean of The United Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University

On behalf of the United Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University (UGSAS), it is a great pleasure for me to address "The 1st International Symposium for the Global Alumni Network of The United Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University (GAN-RENDAI)."

The UGSAS was established in 1989 and it has a proud history of 29 years. Since the establishment, 844 PhD candidates have obtained their doctoral degree in agriculture at the UGSAS. Many of them have played an active role as researchers, technical experts and professors in different research areas. In addition, more than half of the graduates are foreign students from 41 countries, all over the world. And after returning home countries, they are engaged as researchers or engineers in various scientific fields including agricultural science.

This symposium is a kick-off meeting for building alumni network (GAN-RENDAI), for securing excellent international students and for supporting employment after returning home. In addition, the UGSAS will celebrate 30 years of establishment next year. Therefore, we regard this symposium is also as a pre-event to celebrate our 30th anniversary.

I hope this symposium gives us an opportunity to build stronger ties between graduates of the UGSAS.

Nitaro Maekawa
Dean of the United Graduate School of Agricultural Sciences,
Tottori University

Welcome Address by Professor Kumi Yasunobu, Vice-President for Promotion of International Affairs, Tottori University

Distinguished Delegates, Professors, Ladies and Gentlemen,

It gives me a great pleasure to extend to you a very warm welcome on behalf of Tottori University and to say how grateful we are gathering here from Malaysia, Sudan, Chez Republic, Indonesia, Thailand and Bangladesh, who have accepted our invitation to convene this 1st international symposium organized by RENDAI.

Among the faculties and centers, RENDAI gathers many international students and those who accomplished their study and got PhD, now are actively working as a professors in a university or a researcher in an agricultural research institute in home countries. Some of them found their career and life in Japan. Even some of them hold a high position in the Ministry of Agriculture and so on.

As of November 2017, total number of the international students is 172 and 35 (20%) of them are now enrolling in RENDAI. There are 61 international Ph.D. students in all faculties in Tottori University and 57% of them are RENDAI students. So we recognized that RENDAI is the important focal point for us to increase the number of the international students.

Tottori University has been promoting globalization of the university and development of global human resource since 2012. We have been making efforts to push Japanese students to go abroad and at the same time to accept international students from all over the world. We would like to increase our international students from the current level (170) to at least 300, which is the 5% of the total students.

Not only the number of the students is the matter but also the quality of the students is our concern. As you know, one of the important rolls of the university is to create new knowledge and to contribute to the development of science. To do so, we also need to train the next generation of scientists. However, if the number of the students who would like to enroll the higher education such as PhD., the university's potential will endangered in near future.

Most of the staff in the university in Japan have been already aware that increasing number of international students are crucial matter and pressing situation, since Japan is facing the era of reducing population. Tottori University is also no exception. As a small university locates in a provincial city, we should make more effort to attract good international students from all over the world. To attract them, we believe that the alumina will play the significant roll and the mutual networking is valuable.

It is gratifying to note that the titles of today's symposium speakers cover wide range of very interesting topics. I am excited to listen to your stories especially about the relationship with you and RENDAI. It is an opportune time to reunite our tie and exchange our views of our mutual interest with participants.

Last but not least, the Trustee of Tottori University in charge of Education and International Exchange, Professor NAKAJIMA who is now in China for the official trip, requested me to express, on his behalf, our warm welcome to the representatives from Shimane and Yamaguchi Universities and as well as thanks to the Professor MAEKAWA, Dean of United Graduate School of Agricultural Sciences, Vice Dean of RENDAI, Professor KODAMA and RENDAI office for realizing this symposium.

In concluding, I wish you every success in your deliberations and a very pleasant stay in Tottori.

Thank you

Kumi Yasunobu
Vice President, Promotion of International Affairs
Director, Center for International Affairs
Professor, Faculty of Agriculture

Alias Abdullah[1], Mohd Shahrizal Azhari[2], Artikharina Awang[3] and Muhammad Nurulhakim Mustapha[4]

Department of East Asian Studies, Faculty of Arts and Social Sciences, University Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia

[1]E-mail: dralias@um.edu.my
[2]E-mail: shahrizal_a@rmp.gov.my
[3]E-mail: asakura@yahoo.com
[4]E-mail: nurulhakim93@um.edu.my

Japan Study Program at the University of Malaya: Introduction and Contributions to Promote Japan in Malaysia and ASEAN

Purpose of Foundation

The Department of East Asian Studies (DEAS) at the University of Malaya was established in 1996. Its history began with the establishment of the Japan Studies Program that was inaugurated in 1993. It was further developed as a result of the restructuring of the Faculty of Arts and Social Sciences in the early 1990s. The suggestion for its inception originated during workshops entitled Civilization Dialogues I and II which were organized by the University of Malaya in 1995 and 1996 respectively. The DEAS offers programs leading to the Bachelor of Arts degree with a major in East Asian Studies, Master of Arts (MA), and Doctor of Philosophy (PhD) degrees. In the undergraduate programs, students can choose to major in Japan Studies, China Studies or Korea Studies, the degree awarded in all cases is Bachelor of Arts in East Asian Studies.

Government orientation and policies equally contributed to the formation of the DEAS with the Japan Studies Program as an anchor of the establishment, In the early 1980s, Japan and Korea became models of transformation that could be emulated by Malaysians. To this end, Dr. Mahathir Mohammed, the then Prime Minister of Malaysia, initiated the Look East Policy in 1982. The objective of the policy was to encourage Malaysian private and public sectors to emulate and adapt positive elements and cultural traits derived especially from Japanese work ethics into the local working environment. The need for experts on East Asia especially in Japanese study area generated a wider space for higher learning institutions to discuss and research. This dynamic development paved the way for the establishment of Japan Study Program in Malaysia. Not surprisingly, the Japan Study Program at DEAS became dedicated to the study of contemporary issues of in Japan such as issues in economics, politics, cultures as well as Japan international relations.

Characteristics of Education and Research

On an international level, Japan is among global players which are important economic and strategic partners to Malaysia. The rapid growth of bilateral trade between Malaysia-Japan as well as growing Japanese investments in Malaysia, spurred demand for individuals who were experts on East Asian affairs, language and culture. Thus, the expansion of Japan Studies was essential for two reasons: in order to fulfill the demand in the local job market for Japan experts and to further strengthen bilateral relations. Thirteen years of the Japan Study Program at DEAS enabled the production of Japan experts in academia as well as professionals in various fields. To this day, the Japan Study Program at DEAS continues to contribute towards the pool of Japan experts locally and internationally.

With the importance of Japan in global affairs, as well as its economic and strategic significance to Malaysian-Japan relations, the knowledge of and on Japan benefits not only those who will eventually become Japan experts in the intellectual context, but also those in other professional fields. As such, the establishment of the Japan Study Program in the University of Malaya is indeed very significant. At present, the University of Malaya is the only university in Malaysia that offers an interdisciplinary bachelor's degree in Japan Study Program and East Asian Studies. The program offers a well-rounded study of Japan and East Asian Studies as well as more specialized training in particular areas of interest.

Imad-eldin A. Ali Babiker [1,2]

[1]Soil-Water Management Scientist/ Climate Change Adaptation, Dry Lands Research Center (DLRC), Agricultural Research Corporation (ARC), Soba, Khartoum, Sudan

E-mail: imadaa@gmail.com

[2]Dry Land Research Center, Tottori University, Tottori, Japan, Japan

My Journey from Tottori to Tottori

Ali Babiker is a PhD holder and Professor in soil-water management/ climate change adaptation at the Agricultural Research Corporation (ARC) and the Faculty of Environmental Sciences, Omdurman Ahlia University (OAU). In April 1994 he was enrolled as PhD student at Tottori University and his research focused on the soil temperature fluctuations and its effects on the growth, water and nutrients uptake of different crop species. He obtained his PhD degree in March 1997 and thereafter he was promoted to a Research Assistant Professor at the ARC-Sudan. As soon as I returned to Sudan he was notified by Arid Land Research Center (ALRC) of Tottori University that he has been selected by the Japanese Society for the Promotion of Science (JSPS) for a Post-Doctorate (Research Associate) at the center. In July 1997, he Joined the ALRC and continued working at it as a Post-Doctorate until July 1999. During the post-doctorate period he was actively participated in many international conferences in Japan and USA, and also published five peer reviewed articles in international refereed journals. His research activities are focused on applied climate adaption on soil and water management in dry-land rainfed agriculture for food production, livelihood improvements and ecosystems services to deliver evidence- based support for local and national policy and investments opportunities in sustainable equitable development. His activities are being undertaken several project coordination and partnerships, in Sudan and Africa regions, such as: “Climate change prediction in Sub-Saharan Africa: impacts and adaptation” – CLIMAFRICA - (http://www.climafrica.net/index_en.jsp), “Managing Risks, Reducing Vulnerability and Enhancing Agricultural Productivity under a Changing Climate” which was implemented in Sudan, Ethiopia, Kenya and Tanzania. These projects activities resulted in successful outputs and outcomes (2 scientific publications, 2 technology releases by the National Husbandry Committee, 2 patents, and wide adoption of climate change adaptation technologies by the farmers in Gedarif Mechanized Rain Fed Farming). In 2010, Ali Babiker participated dynamically and successfully in the write up and submission of a regional project on “ENHANCING CLIMATE CHANGE ADAPTATION IN AGRICULTURE AND WATER RESOURCES IN THE GREATER HORN OF AFRICA” together with collaborators (Ethiopia, Kenya, Sudan, and Tanzania). The project proposal was accepted and funded by the International Development Center (IDRC) – Canada, during the period October, 2011 to March 2015. He served as the Sudan National Coordinator of the project during this period. There were successful outputs and outcomes (5 published scientific refereed articles, knowledge sharing through climate change special issue of the Sudan Academy of Science Journal, influencing research and policy and linking researchers with technocrats on climate change adaption in agriculture). In 2012, Ali Babiker, took over the national coordinator (counterpart) of the INTERNATIONAL ATOMIC ENERGY AGENCY (IAEA) project: “Enhancing the Productivity of High Value Crops and Income Generation with Small-Scale Irrigation Technologies”. While the project ending in 2013, he have participated with regional group in

the development and write up of a follow up project. These efforts resulted in successes of acceptance and funding of the new project: “Enhancing Crop Nutrition and Soil and Water Management and Technology Transfer in Irrigated Systems for Increased Food Production and Income Generation”, during the period 2014-2017. This project had profound achievements and impacts on improving the climate change adaptive capacity of the local communities. Successful stories of this project were internationally recognized, reported and published in the IAEA official web site:

- https://www.iaea.org/newscenter/news/international-year-soils-sudanese-farmers-improve-crop-productivity-thanks-isotopic-techniques
- https://www.iaea.org/newscenter/news/iaea-impact-how-nuclear-technology-helps-women-farmers-in-sudan-leave-poverty-behind
- https://www.iaea.org/sites/default/files/puibrochure_2017edition.pdf

In September 2012, in a regional collaboration he was succeeded to put together a regional project titled “Enhancing the Adaptive Capacity of Smallholders through Response Farming”. The project was funded by the Association for Strengthening Agricultural Research in Eastern and Central Africa (ASRECA) for one year (2013). He served as national coordinator of the project. The project achieved its objective through its tailored activities in raising the awareness of the relevant stakeholders on using the weather based forecast agricultural seasonal planning.

Ali Babiker, since 2012 is effectively and actively involved in the development of the African position statement for decision on issues related to agriculture by the climate change conference of parties and SBSTA under the UNFCC. He participated as a reviewer of the Working Group III (WGIII) contribution to the IPCC Fifth Assessment Report (AR5). Recently, in February 2017 participated as an invited expert on the development of the outlines for the “IPCC special report on climate change, desertification, land degradation, sustainable land management, food security, and greenhouse gas fluxes in terrestrial ecosystems”
(*http://www.ipcc.ch/meetings/session45/Decision_Outline_SR_LandUse.pdf)*

Ali Babiker, also, served as an expert peer reviewer to the UNCCD-SPI document "Sustainable Land Management contribution to successful land based climate change adaptation and mitigation” [not published yet]. This document was prepared by the SPI upon request by the Conference of Parties of the UNCCD in October 2015 (UNCCD COP-12).
He had made contributions towards policy activities and Sudan-NAPA formulation and releasing climate change adaptation technologies for dry land rainfed agriculture in Sudan. He serves as a member on the Scientific Board of Sudan Climate Change Network (SCCN) and acts as reviewer to Japanese Education Scholarship. He served as a scientific reviewer for the AMBIO and several international, regional and local journals. Prof. Ali Babiker, author/co-author more than 20 peers reviewed papers and developed various extension material and various technical reports. Currently he coordinates research projects on climate change adaptation with local and regional dimensions.

In October 2017 Ali Babiker Joined the Arid Land Research Center of Tottori University as a Visiting Professor. His current research is focusing on Climate Change Impact on Agriculture in Arid Lands.

Ivo Frébort

Centre of the Region Haná for Biotechnological and Agricultural Research, Faculty of Science, Palacký University, Šlechtitelů 27, 783 71 Olomouc, Czech Republic.

E-mail: ivo.frebort@upol.cz; www.cr-hana.eu

Plants as a Tool for Sustainable Global Development

Crops Determine our Future

Securing enough food for future generations, cessation of the destruction of landscape and natural biodiversity by extensive agriculture and prevention of further pollution of the environment by industry based on fossil fuels are the most important challenges for humankind in the 21st century. The use of the currently existing genetic diversity and the application of novel methods will have crucial impact on the success of plant breeding programs aiming at obtaining new generation varieties with required agronomical traits, higher yield of crops and better adaptability to changing climate.

Mission of the Biotechnology Centre in Olomouc, Czech Republic

The Centre of the Region Haná for Biotechnological and Agricultural Research (CRH) was founded in 2010. The primary goal of the centre is to gain new high-quality results in basic plant research, which will enable further applications. The current progress in genome sequencing technologies provides entirely new possibilities for massive development of DNA markers linked to economically important traits and for effective gene mapping and cloning even in crops with very complex genomes. Thus, the application of molecular and genomic methods in breeding became reality, just as the gene insertion via interspecific hybridization or via genetic modifications, including novel techniques of genome editing. However, it seems that the mere insertion of a particular gene or DNA sequence with regulatory function does not guarantee the wanted change in phenotype nor ensure the ability of plant to cope with negative factors of the environment. The reason for this is the complexness of the regulation of gene expression, which is influenced by a number of internal factors (chromatin structure, cell organization) as well as external interactions (effects of microorganisms, availability of natural biostimulants).

Current Research Programs

Research interests of the centre from five complex and multidisciplinary programs:
Genomics and genetics of cereals

Flow sorting of chromosomes, genome optical mapping and sequencing, and 3D modelling of the nucleus and chromatin structure linked to proteomic analysis of DNA bound proteins are applied to discover new stress responsive elements in barley and wheat.

Genome editing of barley

Modulation of hormone metabolism through gene insertion, gene silencing and editing with CRISPR/Cas are used for preparation of new lines with improved photosynthetic parameters and yield under stress conditions caused by climate change, especially drought tolerance. Barley as is also exploited as excellent custom peptide factory.

Plant/microbe interactions

Molecular interactions between plants and microorganism, spatio-temporal resolution of plant signaling, and induced cytoskeleton changes are studied by advanced confocal microscopy, bringing new knowledge for exploiting beneficial microbes and fighting pathogens.

Plant biostimulants

Screening using high-resolution mass spectrometry and discovery of naturally occurring compounds with growth-regulating activity including volatiles and other compounds produced by microorganism direct the preparations of synthetic analogues and their application in biotechnology and agriculture.

Monitoring environmental interactions of plants

Automated high-throughput plant phenotyping using growth chambers with simulated environmental conditions and robotic screening in the field serve as advanced tools for testing the activity of biostimulants and broad assessment of newly prepared plant lines.

Hermansah[1.2.3]

[1]Alumni of The United Graduate School of Agricultural Science Tottori University.

E-mail: hermankarani@yahoo.com, wr3@unand.ac.id

[2]Laboratory of Soil Ecology and Plant Nutrition, Faculty of Agriculture, Andalas University.

[3]Vice rector for student affair and alumni of Andalas University, Indonesia.

The Studying at Universities in Japan is the Foundation to Develop Science Technology Research Network and Career

Studying in Japan has its own attractions for young Indonesians, including myself. There are several reasons, such as high educational standards. The standard of education in Japan is the highest in the world for all field from natural to social sciences. According to the Organization for Economic cooperation and development (OECD) Japanese high school students is the number one in the world for maths, and number two for scientific literacy. Japan has the highest number of Nobel prize winners in Asia, and the second highest of any country in the world since 2000. 49% of Japanese people who graduate high school enter University. Japan has over 700 universities, with 10 ranked in the top 200 worldwide. Study in Japan could develop inert potential as a person, gives an opportunity to live, work and explore and understand Japanese culture. The number of Indonesian Student in Japan increased from 2000 up to now a day.

I have studied in Japan for 6 years, started from Japanese language at Okayama University, research student, master course and doctoral course at United Graduate School of Agricultural Sciences at Tottori University (UGSAS-TU). The theme of research for my Doctor course is Nutrient Cycling in Relation to Tree Species Diversity and Soil Characteristics in a Super Wet Tropical Rain Forest West Sumatra Indonesia. The key words were tree species diversity, soil characteristics, super wet tropical rain forest ecosystem. This research theme has an important role to improve the management of natural resources of forest in order to reduce deforestation and forest degradation in tropical region in Indonesia. It is well known that the land coverage change from forest to other land use such as palm oil plantation, shifting cultivation is occurred rapidly and caused the degradation of soil both physical, chemical and biological. This is a very interesting topic and related with Indonesia forest issue such as deforestation and land degradation. Land Coverage Change is a hot issue and many research projects such as LULUCF, REDD, and REDD + collaborated with Government and NGOs has conducted at that time. While studying in Japan many memories are hard to forget both happy and unhappy, like *jikken,*

chukanhapyo, gakkai no Jumbi, Ronbun etc (research process, the data analyses conference preparation). Sometimes making me bored worried and afraid that I can not finish the study.

After returning to Indonesia I continue to conduct a research about nutrient cycling at various land use type and collaborated with government and NGOs. Besides conducting research I am also active and involved in managing the University. One thing that make us different from other country graduates are intents communication with supervisor and researcher in Japan. Especially my supervisor Prof. Toshiyuki Waktasuki event he has retired at this time but still communicate with us.

The theme of research that I'm doing right now is optimization of palm oil mill effluent (POME) and organic material as an alternative organic fertilizer to increase the fertility and productivity of Ultisols in Indonesia. The results of this study were presented at International Seminar and conference of ESAFS in China, 2015, International Seminar of SAFE in Colombo Sri Lanka, 2016 and International Seminar in Malaysia, 2017. The results of this study are also published in Journal of Tropical Agriculture Development 2017, International Journal on Advance Science Engineering Information Technology, 2017.

Related to my career after returning to Indonesia, as a lecturer in Indonesia university there are three main duties undertaken include teaching, researching and devotion to the community. And as a lecturer also given additional duties to manage university ranging from department to university level such as Rector and vice Rector. Since 2003, I returned to Andalas University I was selected as an outstanding lecturer and sent to the national level. All outstanding lecturers from state universities in Indonesia are invited to the presidential palace of the republic of Indonesia on independence day. Since then I have been given many extra assignments by university such as the secretary of department, secretary of community service institute, head of community service institute and currently assigned as vice rector for student affairs and alumni at Andalas University.

Tharnrat Kaewgrajang
Department of forest biology, Faculty of forestry, Kasetsart University, Thailand
E-mail: ffortrk@ku.ac.th

Wild Mushrooms in Thailand: Research and Utilization

Thailand is located in tropical region, which has high richness of forest resources, especially wild mushrooms. According to the literature, 2,575 species of mushrooms have been recorded in Thailand based on morphology and molecular analyses. They are classified in Basidiomycota (2,140 species) and Ascomycota (435 species). Among of them, we have edible mushrooms 326 species, which are composed of 166 ectomycorrhizal mushrooms, 23 termite mushrooms and 137 saprophytic mushrooms. Recently, more than 60 mushrooms species have been described as new species from Thailand. However, Thai mycologist supposed that new species/new records have continuously recorded.

Wild mushrooms have several benefits for people, especially local villages located around forest. Mushrooms have not only been consumed but also been sold to make income for families of local people. The average amount of wild mushroom collecting is 16.7 kg/household/year. Among the wild edible mushrooms, the highest prices of wild mushrooms was termite mushroom. However, the local people thought that collecting wild mushroom did not cause any impact to ecological system. To support the sustainable use of biodiversity of edible mushroom, the rehabilitation of the forest ecosystem was needed. Additionally, educational program about impacts caused by collecting wild mushroom was recommended to raise awareness and concern about the value of biodiversity resources. Finally, promoting alternative occupations on local villages was needed in order to reduce unsuitable utilization of biodiversity resources.

Nowadays, five mushrooms species, including *Volvariella volvacea*, *Pleurotus* spp., *Auricularia* spp., *Lentinus squarrosulus* and *Lentinus polychrous* are target species for developing of appropriate cultivation process. Good strains will be selected and breeding technology will be used for increasing productivity of mushrooms. Additionally, to increase the value added of wild mushrooms, extraction of their bioactive compound will be done by research institute and university in order to producing healthy food and cosmetic from wild mushrooms in the future.

M. Habibur Rahman Pramanik
Department of Crop Botany, Bangladesh Agricultural University, Mymensingh, Bangladesh

Past and Present Researches on Phytochemical Ecology and Cold Stress in Rice Seedlings

Autotoxicity is a biological phenomenon whereby a species inhibits growth or reproduction of members of that same species through the production of chemicals that are released into the environment. The release of chemicals from donor plants is regulated by many factors. Replant problems of many crops including cucumber in soil or hydroponic culture is well known since long time but the reasons of autotoxicity in cucumber grown hydroponically was not clear to all. Thus, the cucumber plants were grown in growth chambers at different day/night temperatures (28°/20°C or 23°/15°C) through hydroponic culture with or without addition of activated charcoal (AC). AC was periodically replaced by fresh one as it acts as adsorber of exuded chemicals. Nutrients level and pH in the nutrient solution (NS) were adjusted through nutrient analysis. Growth of cucumber plants was significantly enhanced by the addition of AC in NS. Consequently, dry matter production and cucumber yield were significantly higher in plants grown with AC than that of without AC (control). This difference was much more pronounced in plants grown at high temperature compared to that at low temperature.

Nutrient solution used for the experiment without renewal was collected and concentrated to dry residue by rotary evaporation or stored in 4°C until used for analysis. AC used in the experiment and the dried NS were extracted with aqueous organic solvents. The extracts were again dried to residue and re-extracted with solvents at low pH (<2). The acidic fractions was dried to residue and methylated with diazomethane for analysis by GC-MS to identify the chemicals in the cucumber exudates comparing with standard compounds. Fourteen compounds viz. seven phenolic acids, 2,4-dichloro benzoic acid and six fatty acids were detected both in the nutrient solution and desorbed chemicals from AC. All the compounds were dissolved in nutrient solution at different concentrations for bioassay with cucumber seedlings as test materials. 2,4-dichloro Benzoic acid was the strongest inhibitor followed by salicylic acid and other compounds.

Trehalose serves as a stress protectant and/or reserve carbohydrate in a variety of organisms including bacteria, yeast, and invertebrates. Recently, trace amounts of trehalose have been detected in higher plants, although the function of trehalose in plants remains unknown. A cDNA clone (OsTPP1) encoding a putative trehalose-6-phosphate phosphatase (TPP) for trehalose biosynthesis was isolated from rice. Functionality of the clone was demonstrated by complementation of a yeast mutant and enzymatic activity of the recombinant protein. Northern blots revealed that the OsTPP1 transcript levels were fairly low or under detectable limits in most of the tissues under ambient conditions but were highly induced within 1–2 h of chilling stress (12°C) in both root and shoot tissues of seedlings. This induction was transient and disappeared after 6 h of the chilling stress. Transient expression of OsTPP1 was also induced under severe chilling stress (4°C) as well as salinity and drought stresses at ambient temperatures. Application of exogenous ABA (50μM) resulted in a transient increase of OsTPP1 expression within 20 min of the treatment, thereby suggesting involvement of ABA in OsTPP1 gene regulation. Measurements of total cellular TPP activity and trehalose content in roots indicated that both TPP activity and trehalose levels were transiently increased after chilling (12°C) stress. Collectively, the data indicate that transient activation of trehalose biosynthesis is involved in early chilling stress response in rice and trehalose may act as signal molecule.

Low temperature in winter of Bangladesh often causes failure of seedling production for Boro-rice cultivation. Therefore, an attempt was made to avoid the cold injury on Boro-rice seedlings growing them under portable polyhouse cover and in open field. Sprouted seeds of five modern varieties including a check (BRRIdhan 18) were sown in well puddle seedbeds each of 1 m^2 size on 14 November 2015 and those beds were immediately covered by portable polyhouses for 30 or 40 days (30d or 40d) keeping open seedbeds aside as control. The experiment was carried out following Randomized Complete Block Design with three replications. Data were recorded on microclimatic parameters, seedling height, leaf chlorophyll & dry matter (DM) contents, seedling population, root number, soluble sugars, etc. Results reveal that air temperature in the day reached to a peak around 2:00 pm both inside and outside the polyhouse but the temperature inside the polyhouses increased by 5-7°C over control (open field) at noon time. Seedlings under polyhouse covers were 35-80% taller than those in control. Chlorosis severely occurred in seedlings grown in open field (control) and was almost absent in seedlings grown in polyhouse. Seedlings of different varieties grown in polyhouse accumulated 20-60 folds higher soluble sugar compared to those grown in open field. Seedlings of polyhouse accumulated about 2-time higher dry matter than control plants. Thus, the warm condition (5-7°C) inside polyhouse might have enhanced the rate of physiological processes than those in control and thereby produced healthy and quality seedlings. Curtail in light intensity by about 40% for polyhouse cover has little or no significant negative impact on rice seedling growth. Seedlings grown in open field and those under polyhouse cover for different durations (30d & 40d) were transplanted in rice field to know their carryover effects on the growth and yield of Boro-rice. Irrespective of varieties flowering and maturity time was increased by 10-15 days and grain yield was increased by 10-20% for the seedlings grown under polyhouse covers compared to those grown in open field.

After each presentation, questions and discussion took place among the 70 participants who attended the international symposium.

「学生及び教員の研究活動」の掲載基準

学生の研究活動

１．平成２９年度に在籍した学生の平成２９年４月１日から平成３０年３月３１日までの研究活動を掲載した。

２．公表論文
著書，学会誌，大学・国公立研究機関の学術報告等に公表したものを掲載した。
なお，複数の連大学生による共著論文は，それぞれの学生が１編として掲載した。

３．学会発表
国際及び国内学会等で口頭発表したものを掲載した。連名の場合は発表者に＊印を付した。
なお，複数の連大学生による連名での発表は，それぞれの学生が１件として掲載した。

４．学会等招待講演
国内及び国際学会等主催の講演会，シンポジウム等で招待講演したものを掲載した。連名の場合は発表者に＊印を付した。

５．その他
上記項目以外で特筆すべきものがあれば掲載した。

教員の研究活動

１．平成２９年度における有資格教員の平成２９年４月１日から平成３０年３月３１日までの研究活動を掲載した。
なお，平成２９年度に退職及び転出した教員の一部については除外した。

２．公表論文
著書，論文，その他に区分し，連合講座ごとに著者の刊行月の古いものから順にまとめて掲載した。共著論文の場合には，関係教員をアンダーラインで示した。
なお，複数の連大教員による共著論文は，まとめて１編とした。

３．招待講演
国際及び国内学会等における講演会，シンポジウム等での招待講演を連合講座ごとに講演年月順にまとめて掲載した。連名での講演には，関係教員をアンダーラインで示し，発表者に＊印を付した。
なお，複数の連大教員による連名での講演は，まとめて１件とした。

４．学術賞等の受賞
受賞者，賞の名称，受賞年月日を掲載した。

５．研究助成金
科学研究費補助金は，研究代表者のみ掲載した。奨学寄附金等（奨学寄附金，受託研究，民間等との共同研究）は，受入教員名とその件数を記載した。

年　　報　　平成２９年度

平成３０年１２月発行

編　集　鳥取大学大学院連合農学研究科
編 集 委 員 会

発　行　鳥取大学大学院連合農学研究科

〒680-8553　鳥取市湖山町南４丁目 101

☎　0857－31－5445